

KL1508Ai/KL1516Ai

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KL1508Ai/KL1516Ai 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2012 年 11 月 14 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30 日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は2007 年9 月1 日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は1 年間です。

【補足】

- ・本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。が、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当代金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC.....	8
RoHS.....	8
SJ/T 11364-2006	8
安全にお使い頂くために.....	9
全般	9
ラックマウント	11
同梱品.....	12
ラックマウントキット(オプション)	12
本マニュアルについて.....	13
マニュアル表記について.....	15
第1章 はじめに.....	16
概要	16
特長	19
ハードウェア	19
管理	19
簡単に使用できるインターフェース	20
高度なセキュリティ.....	20
バーチャルリモートデスクトップ	21
システム要件.....	22
一般	22
セカンドコンソール.....	22
コンピューター	22
コンピューターモジュール	23
OS.....	23
製品各部名称	24
フロントパネル	24
キーボードモジュール	25
LCD モジュール.....	27

リアパネル.....	28
第 2 章 セットアップ方法.....	30
セットアップの前に.....	30
標準ラックマウント.....	31
単体使用.....	33
単体使用接続図	34
コンピューターモジュール接続図	35
デイジーチェーン接続.....	36
デイジーチェーン接続図	37
第 3 章 基本操作.....	38
コンソールを開く	38
モジュールを個別に開く場合	38
モジュールを同時に開く場合	40
操作上の注意事項	41
コンソールを閉じる.....	42
LCD OSD の設定.....	44
LCD ボタン	44
LCD の調整値設定	45
ポートの選択方法.....	46
手動による切替.....	46
OSD/GUIによる切替.....	46
ホットキーによる切替.....	46
ホットプラグ	47
ステーション位置のホットプラグ	47
KVM ポートのホットプラグ	47
コンソールポートのホットプラグ	47
シャットダウンと再起動.....	48
ポート ID の割り当て	48
第 4 章 OSD 操作.....	49
OSD の概要.....	49
OSD ナビゲーション	51
OSD メイン画面の項目	51
OSD 機能.....	52
F1: GOTO	52
F2: LIST.....	53
F3: SET.....	54

F4: ADM	57
F5: SKP.....	60
F6: BRC	61
F7: SCAN.....	62
F8: LOUT.....	62
第 5 章 ホットキー操作	63
ホットキーによるポートの操作	63
ホットキーモードの起動.....	64
アクティブなポートの選択	65
オートスキャンモードによる切替	66
スキップモードでの切替	68
コンピューター キーボード/マウスのリセット	69
ホットキービーブ音の ON/OFF 設定	69
ホットキーのキー設定	70
OSD ホットキーのキー設定	70
ポート OS の設定	71
デフォルト値への復元	71
ホットキー一覧表.....	72
第 6 章 キーボードエミュレーション	73
Mac キーボード.....	73
Sun キーボード	74
第 7 章 ログイン	75
概要.....	75
ローカルログイン	76
ブラウザログイン	77
Windows クライアント AP ログイン	78
Windows クライアント AP 接続画面.....	79
接続－Windows クライアント AP.....	80
Java クライアント AP ログイン	81
Java クライアント AP 接続画面.....	82
接続－Java クライアント AP.....	83
第 8 章 ユーザーインターフェース	84
概要.....	84
Web ブラウザメインページ	84
ページ構成.....	85
Tab Bar (タブバー)	86

AP GUI メインページ.....	88
コントロールパネル	89
Windows クライアントコントロールパネル.....	89
Windows クライアントコントロールパネル機能	91
Macros (マクロ)	93
Video Settings (ビデオ設定)	102
Message Board (メッセージボード)	106
Zoom (ズーム)	108
On-Screen Keyboard (オンスクリーンキーボード)	109
Mouse Pointer Type (マウスポインターのタイプ)	111
Mouse DynaSync Mode (マウスダイナシンクモード)	112
コントロールパネルの設定.....	114
Java コントロールパネル.....	116
第 9 章 ポートアクセス.....	117
概要.....	117
ブラウザ GUI	117
AP GUI	117
サイドバー	119
サイドバーのツリー構造	119
表示フィルター	120
Connection (接続).....	121
デバイスレベル	121
ポートレベル.....	122
User Preference (ユーザー選択).....	123
Sessions (セッション)	125
Access Rights (アクセス権).....	126
ブラウザ GUI インターフェース	126
AP GUI インターフェース	127
変更の保存.....	127
第 10 章 ユーザー管理.....	128
概要.....	128
ブラウザ GUI	128
AP GUI	128
Users (ユーザー).....	129
ユーザーの追加.....	129
ユーザーアカウントの修正.....	132

ユーザーアカウントの削除.....	132
デバイスの割り当て.....	133
ユーザーメニューからのデバイスアクセス権限の割り当て	133
第 11 章 デバイス管理	135
KVM デバイス	135
デバイス情報.....	135
Network (ネットワーク)	137
ANMS	141
Security (セキュリティ)	146
Port Configuration (ポート設定)	153
Date/Time (日付/時間).....	155
第 12 章 ログ	158
概要.....	158
ブラウザ GUI	158
AP GUI	158
ログ情報.....	159
第 13 章 メンテナンス.....	160
概要.....	160
ブラウザ GUI	160
AP GUI	161
デバイスのファームウェアアップグレード	162
コンピューターモジュールのアップグレード.....	163
ファームウェアアップグレードの回復	165
コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの 回復	165
Backup/Restore (バックアップ/復元).....	166
Backup (バックアップ).....	166
System Operation (システム操作).....	167
Clear Port Names (ポート名の消去)	167
Reset to Default (デフォルトへリセットする)	167
System Reset (システムのリセット)	167
第 14 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティ.....	168
はじめに.....	168
作業を始める前に	168
アップグレードの実行.....	170
ファームウェアアップグレードの復元.....	174
第 15 章 ダウンロード.....	176

概要.....	176
第 16 章 ポート操作	177
概要.....	177
ポートへの接続.....	178
ポートツールバー	179
ツールバーのアイコン	180
ツールバーホットキーによるポート切替	181
ポートアクセスページの呼び出し	183
GUI ホットキーのまとめ	183
パネルアレイモード.....	184
パネルアレイツールバー	185
マルチユーザー操作.....	186
第 17 章 ログサーバー	187
インストール	187
起動.....	188
メニューバー	189
Configure（設定）	189
Events（イベント）	190
Options（オプション）.....	192
Help（ヘルプ）	192
ログサーバーメイン画面	193
概要	193
リストパネル	194
イベントパネル	194
付録.....	195
製品仕様.....	195
IP アドレスの決定	198
ローカルコンソール	198
IP インストーラー	198
ブラウザ.....	199
IPv6	200
リンクローカル IPv6 アドレス.....	200
IPv6 ステートレスアドレス自動設定	201
信頼された証明書	202
概要	202
証明書のインストール.....	203

証明書のインストール完了	204
自己署名証明書	205
パラメーターの例.....	205
ファイルのインポート	206
トラブルシューティング	207
ネットワーク管理.....	207
操作一般.....	207
Windows クライアント	209
Java クライアント	210
ログサーバー.....	211
パネルアレイモード.....	211
Sun システム.....	212
1280×1024 以上の解像度でご利用になる場合	213
マウス同期の追加手順	215
接続台数一覧表	217
KL1508Ai	217
KL1516Ai	217
対応製品.....	218
アドミニストレーターによるログイン失敗.....	219
イージーセットアップラックマウントキット	220
専用起動キー.....	223
OSD 工場出荷時デフォルト設定.....	224

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC (米国連邦通信委員会) 規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

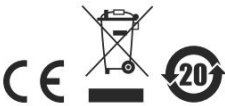
本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は15アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と書かれた RJ-11 コネクタを公衆通信網に接続しないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押しながらデバイスをスライドさせてラックに出し入れする際にはスライドレールに指を挟まないようにご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、慎重にレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。
- ◆ **注意:**ラックにマウントされた LCD KVM ドロワーを柵や作業スペースとして使用しないでください。



同梱品

KL1508Ai/KL1516Ai 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KL1508Ai または KL1516Ai LCD 搭載カテゴリ 5 IP- KVM ドロワー (標準ラックマウントキット取付済み) ×1
- ◆ 電源コード ×1
- ◆ 標準ラックマウントキット ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1

ラックマウントキット(オプション)

ご購入された下記のうち1つのオプションキットが同梱されています。

- ◆ 標準ラックマウントキットーロング
- ◆ イージーセットアップラックマウントキットーショート
- ◆ イージーセットアップラックマウントキットーロング

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

-
- * 本マニュアル発行後、内容が変更されることがあります。弊社 Web サイトをご覧の上、マニュアルの最新版をご確認ください。
-

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KL1508Ai/KL1516Ai に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:KL1508Ai/KL1516Ai を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明します。

第2章 セットアップ:基本的なハードウェアセットアップの手順から、基本的な操作手順のいくつかについて説明します。

第3章 基本操作:KL1508Ai/KL1516Ai の機能概要および操作方法について説明します。

第4章 OSD 操作:KL1508Ai/KL1516Ai の OSD (オンスクリーンディスプレイ)の詳細内容、および操作方法について説明します。

第5章 ホットキー操作:KL1508Ai/KL1516Ai のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明します。

第6章 キーボードエミュレーション:PC 互換キーボードから Mac キーボード、及び PC 互換キーボードから Sun キーボードへのキーボードエミュレーションマッピングの一覧表を掲載しています。

第7章 ログイン:ローカルコンソール、インターネットブラウザ、スタンドアロンの Windows アプリケーションプログラム (AP) や Java アプリケーションプログラム (AP) の各アクセスツールから、GUI を使用した KL1508Ai/KL1516Ai へのログイン方法について説明します。

第8章 ユーザーインターフェース:KL1508Ai/KL1516Ai のユーザーインターフェースのレイアウト及び内容について説明します。

第9章 ポートアクセス:ポートアクセスページ及びポート操作に関するオプション設定について説明します。

- 第10章 ユーザー管理:**アドミニストレーターがユーザーを追加、修正、削除したり、属性を割り当てたりする方法について説明します。
- 第11章 デバイス管理:**アドミニストレーターが行う KL1508Ai/KL1516Ai の全体的な操作方法、管理方法及び設定方法について説明します。
- 第12章 ログ:**KL1508Ai/KL1516Ai で起こったイベント全てを一覧できるログファイルの使用方法について説明します。
- 第13章 メンテナンス:**KL1508Ai/KL1516Ai のファームウェアアップグレードの仕方について説明するとともに本製品のポートとデバイスを接続する際に使用するコンピューターモジュールのアップグレード方法についても説明します。
- 第14章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:**KL1508Ai/KL1516Ai のファームウェアを最新のものにアップグレードする方法について説明します。
- 第15章 ダウンロード:**Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバー及び Power Over the NET™ (PON)などのスタンドアロン AP のダウンロード方法について説明します。
- 第16章 ポート操作:**KL1508Ai/KL1516Ai のポートに接続されたデバイスへのアクセス方法及び操作方法について説明します。
- 第17章 ログサーバー:**ログサーバーのインストール及び設定方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

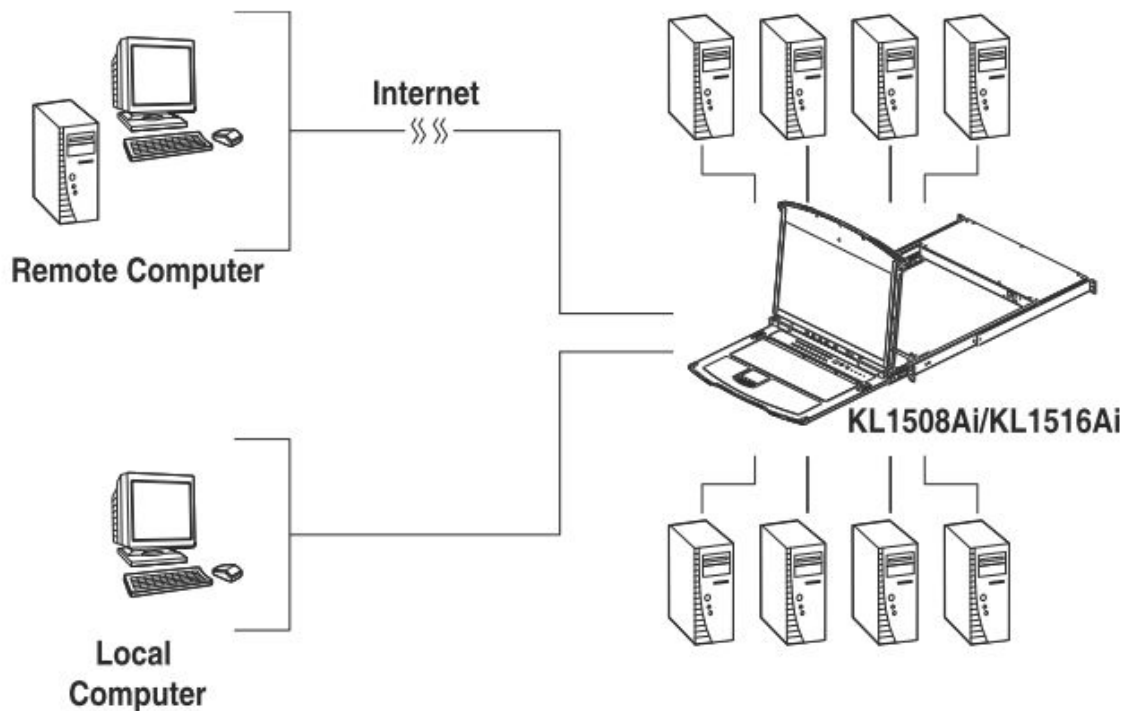
KL1508Ai 及び KL1516Ai LCD 搭載カテゴリ 5 IP-KVM ドロワーは、1 組の KVM(キーボード、ビデオ及びマウス)コンソールから複数のコンピューターにセキュアなアクセスをすることができるコントロールユニットです。1 台の KL1508Ai または KL1516Ai から 8 台または 16 台のコンピューターがそれぞれ操作できます。また、本製品は LCD モニター、キーボード及びタッチパッドと IP-KVM スイッチの機能を 1U サイズの筐体に収め、システムラックにマウントすることができます。

KL1508Ai/KL1516Ai シリーズの各型番における差異は下表の通りです。

型番	LCD パネル	ポート数
KL1508AiM	17 インチ	8
KL1508AiN	19 インチ	8
KL1516AiM	17 インチ	16
KL1516AiN	19 インチ	16

LCD パネルとキーボード/タッチパッドモジュールは個別にスライドさせることができます。データセンターのスペースを有効活用できるように、キーボード/タッチパッドモジュールを使用していない時にはそのモジュールをラックに格納し、管理者が設置されたコンピューターの動作状況を監視できるように薄型の LCD モニターは後ろに回転させてラックにぴったりとくっつけることができます。

KL1508Ai/KL1516Ai には、ローカルオペレーターと複数のリモートオペレーターが同時にセットアップしたコンピューターをモニタリングしたり、アクセスしたりすることができる IP ベースの接続機能を搭載しています。KL1508Ai/KL1516Ai は通信プロトコルとして TCP/IP を使用しているので、LAN、WAN またはインターネットに接続できるコンピューターであれば、例えば、廊下の向こう側や通りの向こう側にあるコンピューター、または地球の裏側にあるコンピューターにも接続することができます。



KVM スイッチを 15 台追加してデジチェーン接続すると、元の KVM コンソールからコンピューターを 256 台まで操作することができます。自動感知機能がチェーン接続における各ステーションの位置を認識するので、位置を手動で設定する必要はありません。また、各ステーションの位置はキーボードモジュールにある 2 桁 7 セグメント LED 表示で簡単に識別できます。

コンパクトで高密度な RJ-45 コネクタとカテゴリ 5e/6 ケーブルを使用しているため、コンパクトで効率的なケーブル接続設定ができ、さらにコンピューターとの接続には PS/2 用または USB 用コンピューターモジュールを使用するので、Windows、Mac、及び Sun コンピューターやシリアルデバイスをセットアップ環境に共存させて設置することができます。

更に利便性を追加するため、本製品のリアパネルにはセカンドキーボード、モニター及びマウスポートが搭載されており、ローカルコンソールから本製品を管理することができます。またキーボードモジュールのセカンド USB マウスポートを搭載しているため、タッチパッドの代わりに外付マウスを使用することができます。

ローカルコンソールからセットアップされたコンピューターへアクセスするには、マウスで操作できる OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューシステムによって簡単にできます。便利なオートスキャン機能で、選択したコンピューターの動作を 1 台ずつ自動的にスキャンし監視することができます。

リモートオペレーターはブラウザを通じて、LAN、WAN またはインターネットを使用して、どこからでも IP アドレスを指定して KL1508Ai/KL1516Ai に接続することができます。ログインに成功すると、Windows クライアントまたは Java クライアントユーティリティのいずれかを使用して、操作することができます。Java ベースのクライアントでは KL1508Ai/KL1516Ai がプラットフォームに依存しないことを保証し、ほとんどの OS で動作することが可能です。

システム管理者は、GUI アプリケーションのインストールと実行から、BIOS レベルでのトラブルシューティング、定期的なモニタリング、同時メンテナンス、システム管理、再起動や起動前機能など、多数のメンテナンス作業全てをリモート接続から行うことができます。

リモートオペレーターはキーボード、ビデオ、及びマウス信号を KL1508Ai/KL1516Ai に接続されたコンピューターとやりとりすることができるので、まるで目の前にコンピューターがあつて、直接操作しているようになります。

同時に KL1508Ai は 8 台、KL1516Ai は 16 台のコンピューターのビデオアウトプットを表示するパネルアレイモードやログインしたユーザー同士が世界のどこにいても、便利に且つすぐに連絡することができるメッセージボード機能が改良された機能には含まれます。

KL1508Ai/KL1516Ai のセットアップは、ケーブルを各適切なポートに接続するだけなので、とても早く簡単にできます。KL1508Ai/KL1516Ai はキーボードとマウスからの信号が直接コンピューターに入力されるのを防ぐので、設定用のソフトウェアや複雑なセットアップ作業は必要なく、相性問題に悩まされることもありません。

KL1508Ai/KL1516Ai はインターネットを通じてファームウェアをアップグレードすることができるので、弊社の web サイトよりファームウェアアップグレードファイルをダウンロードして、いつでも最新の機能を保つことができます。

KL1508Ai/KL1516Ai は高度なセキュリティ機能を搭載しているため、最も速く、信頼でき、コストを低く抑えた方法で、分散された複数のコンピューターにリモートアクセスして幅広く管理することができます。

特長

ハードウェア

- ◆ 17 インチまたは 19 インチ LCD モニターと KVM コンソールがデュアルスライド式筐体に一体化
- ◆ 1 コンソールから KL1508Ai は 8 台、KL1516Ai は 16 台までのコンピューターを操作可能
- ◆ KVM スイッチを 15 台までデイジーチェーン接続させると、最大 256 台のコンピューターを操作可能*
- ◆ ローカル・リモートセッションで 1 バスを共有
- ◆ RJ-45 ポートへのカテゴリ 5e/6 ケーブルの配線で省スペース化を実現
- ◆ 自動変換機能を備えたコンピューターモジュールの使用で、インターフェース(PS/2、USB、Sun、シリアル)が混在した環境でもコンソールの集約が可能
- ◆ セカンドコンソールポート搭載 - セカンドコンソール(モニター、USB または PS/2 キーボード、及び USB または PS/2 マウス)から LCD KVM ドロワーに接続されたコンピューターの管理が可能
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac、Linux、Sun、シリアル
- ◆ 外付 USB マウス用ポート搭載
- ◆ 高さが 1U 以下のデュアルスライド対応筐体で、1U ラックスペースでスムーズに出し入れ可能
- ◆ デュアルスライド対応 - LCD モジュールとキーボード/タッチパッドモジュールは個別にスライドさせることが可能
- ◆ LCD 部分は 120° まで開閉可能なため、見やすい角度に設定可能
- ◆ コンソールロック機能 - 未使用時にはコンソールドロワーを内側にロックすることが可能
- ◆ LCD モニター専用電源ボタンを搭載しているため、電源を節約し、モニターの寿命を延ばすことが可能

*対応 KVM スイッチ:KH1508A/KH1516A

管理

- ◆ ユーザーアカウントは最大 64 名まで作成可能 - 同時リモートログイン可能なユーザーは最大 32 名
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターはユーザーセッションを手動で終了することが可能

- ◆ モジュール ID 保存機能 - モジュールのポート変更後もデバイス情報を自動認識。製品側では再設定不要
- ◆ ポート共有モードによって、複数のユーザーによるサーバーへの同時アクセス可能
- ◆ リモート電源管理デバイス Power Over the NET™ 対応
- ◆ イベントログ、Windows ベースのログサーバー対応
- ◆ ローカルログイベント
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ IPv6 対応

簡単に使用できるインターフェース

- ◆ ポート切替方法 - プッシュボタン、ホットキー、日本語対応 OSD、ブラウザ GUI
- ◆ ローカルコンソール、ブラウザメニュー及びアプリケーション GUI は多言語対応 - 運用前のトレーニング時間を最小限に抑え、生産性を向上
- ◆ マルチプラットフォームのクライアントに対応 (Windows、Mac OS X、Linux、Sun)
- ◆ 各種 Web ブラウザに対応 (IE、Chrome、Firefox、Safari、Opera)
- ◆ 純粋な Web テクノロジーにおけるブラウザベースの UI で、管理者は Java ソフトウェアパッケージをインストールしていなくても操作が可能
- ◆ パネルアレイモード™
- ◆ キーボードブロードキャスト機能* - キーボードの入力は製品配下にある全コンピュータで複製が可能

*ローカルコンソールのみ

高度なセキュリティ

- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ ユーザーログイン時のパスワードは 128-bit SSL 暗号化で保護
- ◆ キーボード/マウス、ビデオの各信号を個別に暗号化 (56ビット DES、168ビット 3DES、256ビット AES、128 ビット RC4、ランダムより選択)
- ◆ IP アドレス、MAC アドレスによるフィルタリング機能
- ◆ サーバーアクセス・操作権限はユーザーまたはグループ単位で設定可能

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ 帯域制御機能 - ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて自動調整。モノクロ色深度設定、データ圧縮率の閾値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能
- ◆ デスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ リモートユーザーのコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載
- ◆ マウスダイナシンクTM機能 - ローカル/リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ 多言語対応オンスクリーンキーボード搭載
- ◆ 接続機器には BIOS レベルからのアクセスが可能

システム要件

一般

- ◆ Pentium 4 2GHz 以上のプロセッサが搭載され、ランダムアクセスメモリの容量が 1GB あるコンピューター
- ◆ 128 ビット SSL 暗号化に対応したブラウザ
- ◆ データ転送速度 512 kbps 以上であること
- ◆ ログサーバーには Microsoft Jet OLEDB4.0 以降のドライバーがインストールされていること

セカンドコンソール

- ◆ セットアップするコンピューターの最大解像度に対応した VGA、SVGA またはマルチシンクモニター
- ◆ PS/2 または USB マウス
- ◆ PS/2 または USB キーボード

コンピューター

KL1508Ai/KL1516Ai の KVM ポートに接続するコンピューターには以下のものがが必要です。

- ◆ VGA、SVGA またはマルチシンクモニター対応ポート
- ◆ USB タイプ A ポート及び USB ホストコントローラー (USB コンピューターモジュール接続用。詳細は次項を参照。)
- ◆ ミニ DIN 6 ピンキーボード及びマウスポート (PS/2 コンピューターモジュール接続用。詳細は次項を参照。)

注意: 本製品の LCD モニターの最大解像度は 1280×1024@75Hz です。接続するコンピューターの解像度をさらに高く設定する場合は、p.213 「1280×1024 以上の解像度でご利用になる場合」を参照してください。

コンピューターモジュール

- ◆ KL1508Ai/KL1516Ai とコンピューターモジュールとを接続するためのカテゴリ 5e/6 ケーブル
- ◆ KL1508Ai/KL1516Ai と共に使用する以下のコンピューターモジュール

機能	モジュール
PS/2 ポートのデバイスに接続	KA7920/KA7520
USB ポートのデバイスに接続	KA7970/KA7570/KA7170
Sun レガシーシステム (13W3 ポート) に接続	KA7130
Sun USB システムに接続	KA7170
シリアルベースのデバイスに接続	KA9140

- 注意:**
1. コンピューターモジュールはいくつかのダイアログボックスでは「I/O モジュール」と呼ばれています。
 2. 以下のコンピューターモジュールが ID 認識機能に対応しています。
KA7920/KA7970/KA7520/KA7570/KA7120/KA7130/KA7170

OS

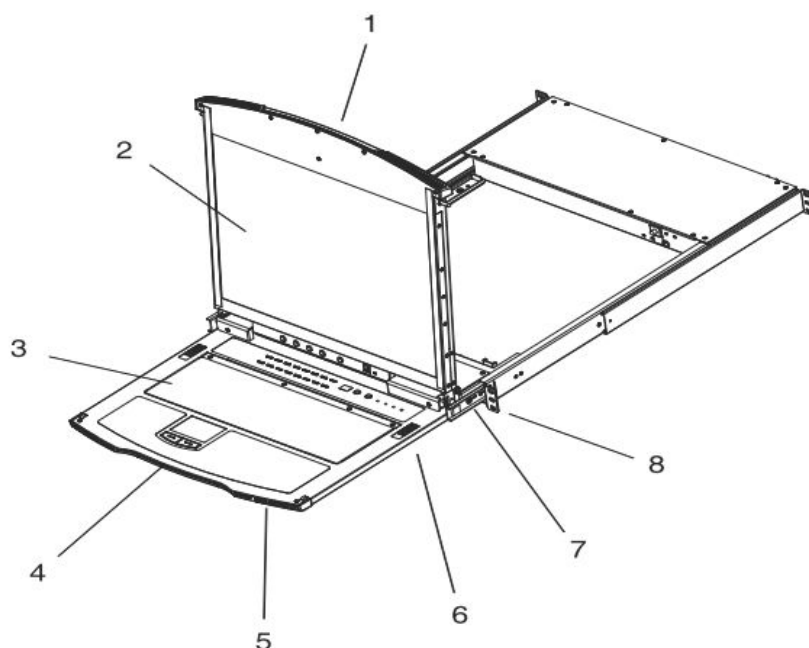
本製品の対応 OS は下表の通りです。

OS		バージョン
Windows		NT ¹ 、2000、XP、2003 Server、2008 Server、Vista
Linux ²	RedHat	9.0、Fedora 以降、RHEL AS 4、RHEL 5
	SuSE	10 以降、OpenSUSE 10.2、SLES 10 SP1
	Debian	3.1、4.0
	Ubuntu	7.04、7.10
UNIX	IBM	AIX 4.3、5L(V5.2、V5.3)、V6(V6.1)
	FreeBSD	5.5、6.1、6.2
Novell	Netware	5.0 以降
Sun		Solaris 8、9、10
Mac		9.0、9.1、10.1、10.2、10.3、10.4、10.5
DOS		6.2 以降 ¹

- 注意:**
1. USB 非対応。
 2. カーネル 2.6 より古いバージョンは USB2.0 非対応。

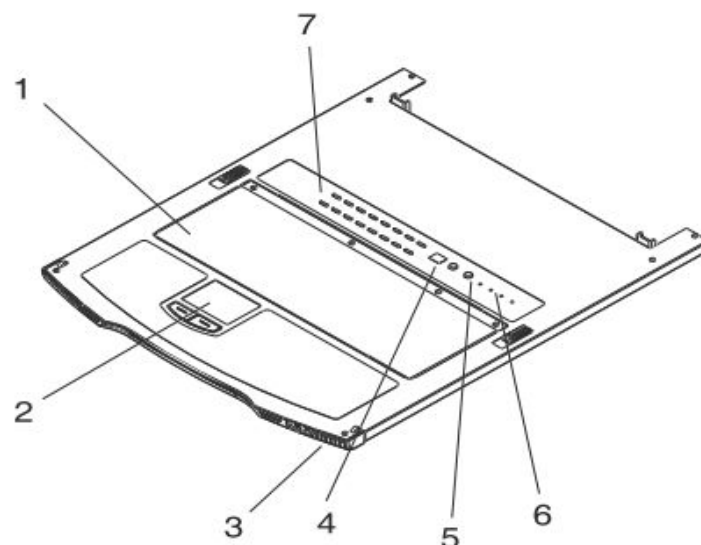
製品各部名称

フロントパネル



No.	名称	説明
1	上部ハンドル	LCD モジュールを引き出す、または中へ収納する際に使用します。コンソールの出し入れについての詳細は p.38 を参照してください。
2	LCD モジュール	p.27 「LCD モジュール」を参照してください。
3	キーボードモジュール	p.25 「キーボードモジュール」を参照してください。
4	下部ハンドル	キーボードモジュールを引き出す際に使用します。コンソールの出し入れの詳細については、p.38 を参照してください。
5	電源 LED	本製品に電源が入っている場合に点灯(ブルー)します。
6	キーボードリリースキャッチ	この留め金(両側のロックを同時に)を外せばキーボードモジュールをスライドさせることができます。
7	LCD リリースキャッチ	この留め金(両側のロックを同時に)を外せば LCD モジュールをスライドさせることができます。
8	ラックマウントタブ	本製品の各角にあるラックマウントタブで筐体をシステムラックに固定します。詳細は p.31 「標準ラックマウント」を参照してください。

キーボードモジュール

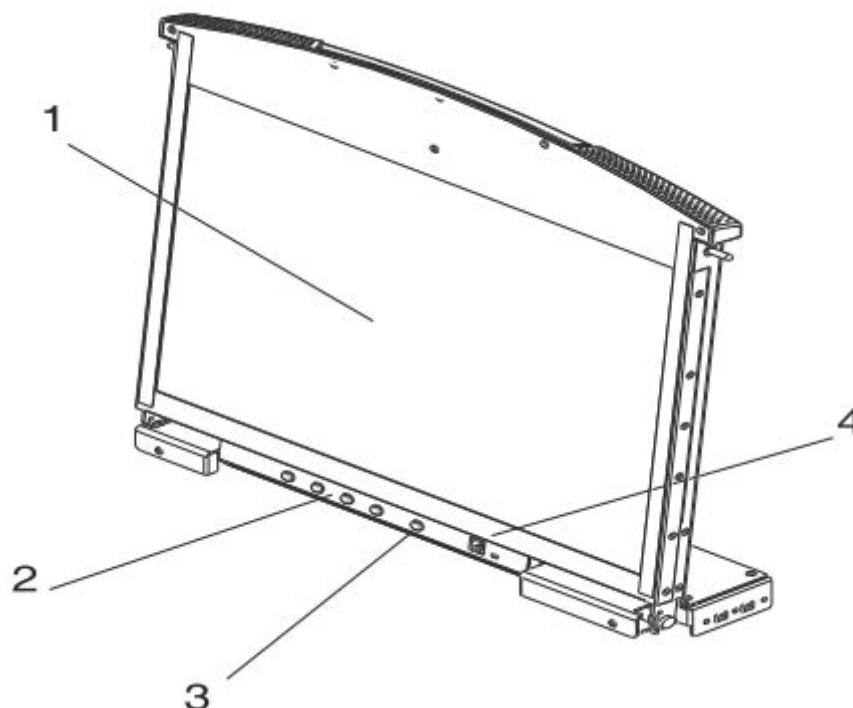


No.	名称	説明
1	キーボード	標準 105 キーキーボード
2	タッチパッド	標準マウスタッチパッド
3	外付マウスポート	外付マウスを使用する場合にこの USB マウスポートを使用してください。
4	ステーション ID LED	デジチェーン接続にて、現在選択されているステーションの ID をこのパネルの 2 桁の数字で表示します。詳細は p.48 「ポート ID の割り当て」を参照してください。
5	ステーション 選択エリア	◆ KVM 操作が可能なポートがあるステーション番号を LED で表示します。 ◆ 左側のボタンを押すと KVM 操作が可能なポートがあるステーションを降順 (3→2→1...) に切り替えます。ステーション 1 の後は最後のステーションに戻ります。 ◆ 右側のボタンを押すと、KVM 操作が可能なコンピューターのポートがあるステーションを昇順 (2→3→4...) で切り替えます。最後のステーションの後はステーション 1 に戻ります。
6	Lock LED & リセットスイッチ	[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]の LED がここにあります。リセットスイッチはこの Lock LED の右側にあり、ピンなどの細い物でこの埋め込み式スイッチを押すとシステムをリセットします。

(表は次ページに続きます。)

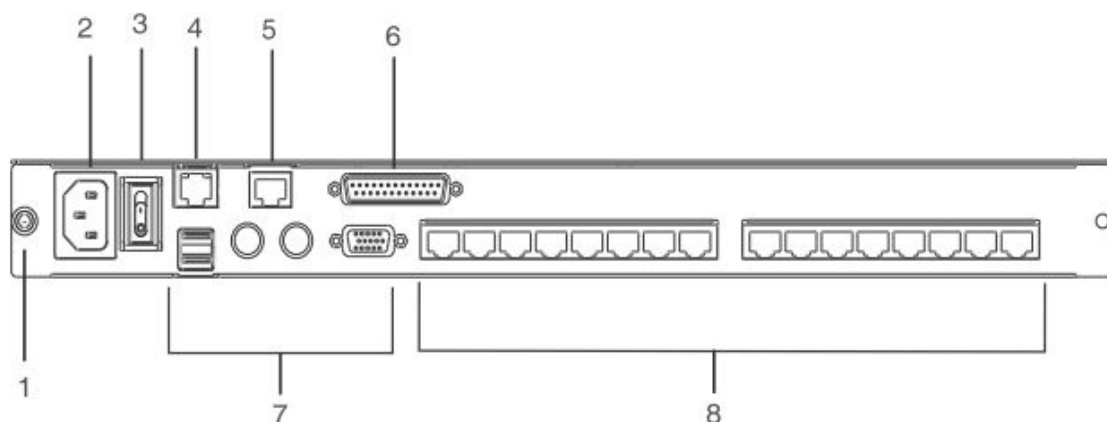
No.	名称	説明
7	ポート選択ボタン& LED	現在選択したステーションにあるポートにアクセスするには、それに対応するポート選択ボタンを押してください。本製品に LED ランプが搭載されています。 ◆ オンライン LED が点灯している場合、対応するポートに接続されたコンピューターに電源が入り、動作中であることを表します。 ◆ 選択 LED が点灯している場合、そのポートのコンピューターが操作できることを表します。

LCD モジュール



No.	名称	説明
1	LCD ディスプレイ	LCD モニターを使用するには LCD モジュールを引き出し、カバーをあけてください。LCD モジュールをスライドさせる詳細については p.38 「コンソールを開く」を参照してください。
2	LCD コントロール	このボタンで LCD ディスプレイの位置と画像の設定をします。詳細は p.44 「LCD OSD の設定」を参照してください。
3	LCD On/Off ボタン	このボタンで LCD モニターのオン/オフを切り替えます。LCD モニターのみがオフで、KVM スイッチはオフになっていない場合はこのボタンが点灯します。
4	ファームウェアアップグレードセクション	ファームウェアアップグレードポート:管理者のコンピューターから KL1508Ai/KL1516Ai へファームウェアアップグレードデータを伝送させるファームウェアアップグレードケーブルをこの RJ-11 コネクターに接続します。 ファームウェアアップグレードスイッチ:本製品の通常使用時には、「NORMAL」の位置に合わせてください(ファームウェアのアップグレードに関する詳細は p.168 「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を参照してください)。

リアパネル



No.	名称	説明
1	接地ターミナル	本製品を接地するための接地線をここに接続します。
2	電源ソケット	これは標準的な 3 極 AC 電源ソケットです。AC 電源からの電源コードをここに接続します。
3	電源スイッチ	これは標準的なロッカースイッチで本製品の電源を入れたり切ったりします。
4	LAN ポート	LAN に接続するケーブルをここに接続します。LED でデータ伝送速度を表示します。オレンジ:10 Mbps / グリーン:100 Mbps
5	PON ポート	このコネクタは Power Over the NET™ (PON)製品を接続するための物です。PON デバイスを使用すると、KL1508Ai/KL1516Ai に接続されたコンピューターをリモートからインターネットを通じて起動させることができます。詳細は販売代理店にお問い合わせください。
6	デイジーチェーンポート	デイジーチェーン接続する場合、ここにデイジーチェーン用ケーブルを接続します (詳細は p.36 「デイジーチェーン接続」を参照してください)。
7	ローカルコンソールポートセクション	本製品を単体で使用する場合、または本製品がデイジーチェーン接続の最初のステーションである場合にローカルコンソールとしてのキーボード、モニター及びマウスをここに接続します。
8	KVM ポートセクション	コンピューターと接続するためのコンピューターモジュールを接続するカテゴリ 5e/6 ケーブルをここに接続します。

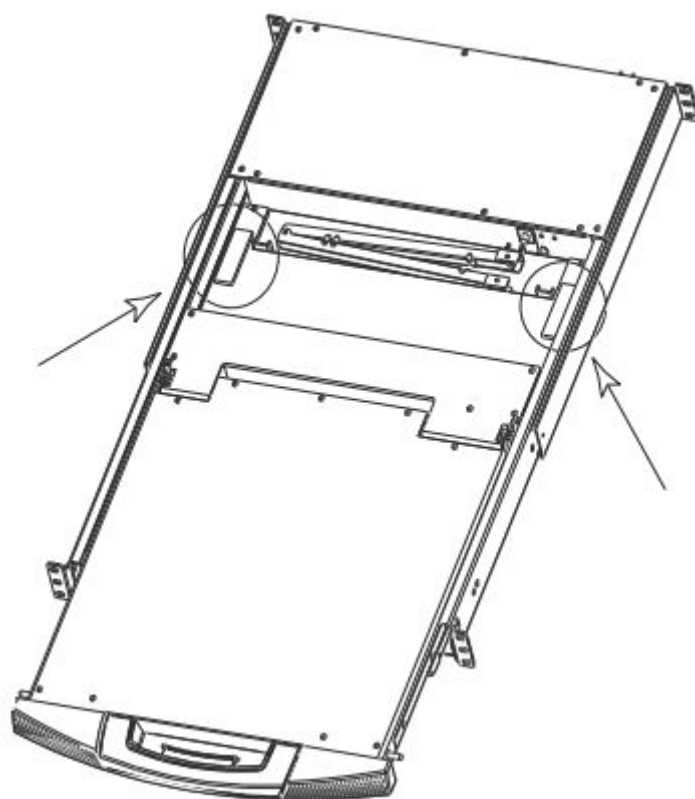
* 上図は KL1516Ai のものです。KL1508Ai のリアパネルは、KVM ポートが 16 ポートではなく、8 ポートになる以外は、KL1516Ai と同じです。

第2章 セットアップ方法

セットアップの前に

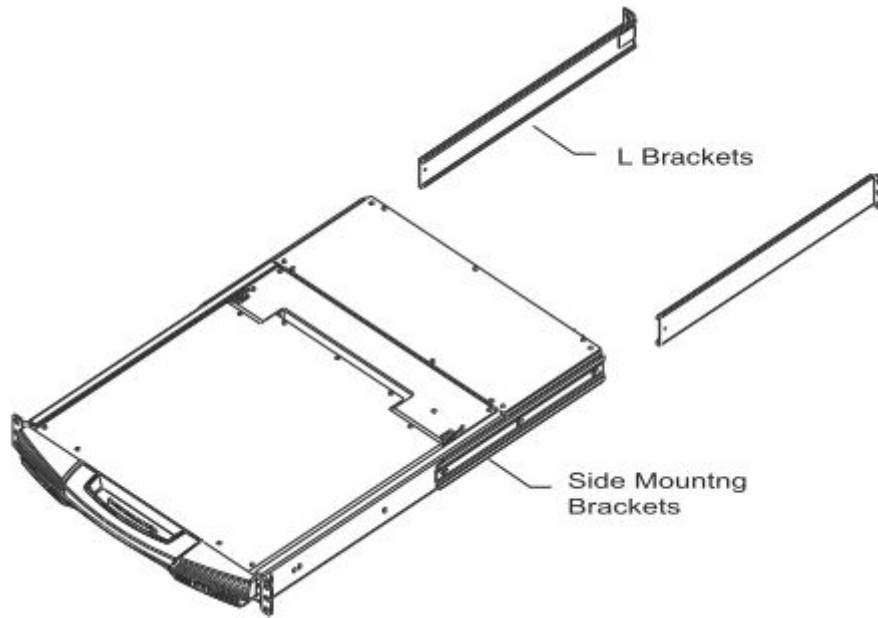


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.9 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。
3. 輸送時の振動が機器にダメージを与えることを防ぐために、KL1508Ai/KL1516Ai 製品本体の下図の位置に緩衝材が取り付けられています。KL1508Ai/KL1516Ai をラックに取り付ける前に、その緩衝材が見えるまでLCD モジュールを引き出し(詳細は p.38 「コンソールを開く」を参照)、その緩衝材を取り除いてください。



標準ラックマウント

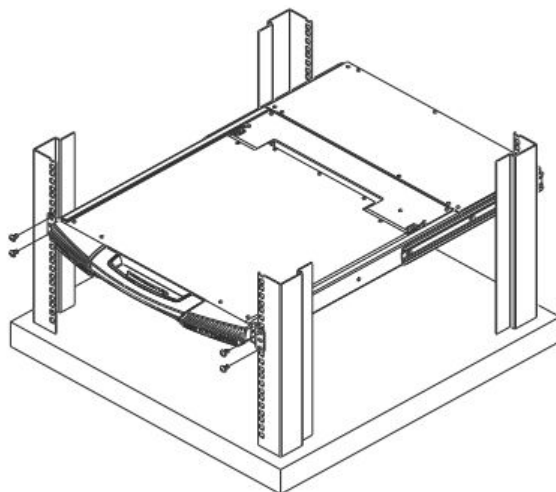
KL1508Ai/KL1516Ai には標準ラックマウントキットが同梱されています。この標準ラックマウントキットを使用して製品本体の取付ができるラックの奥行きは 42～77cm です。



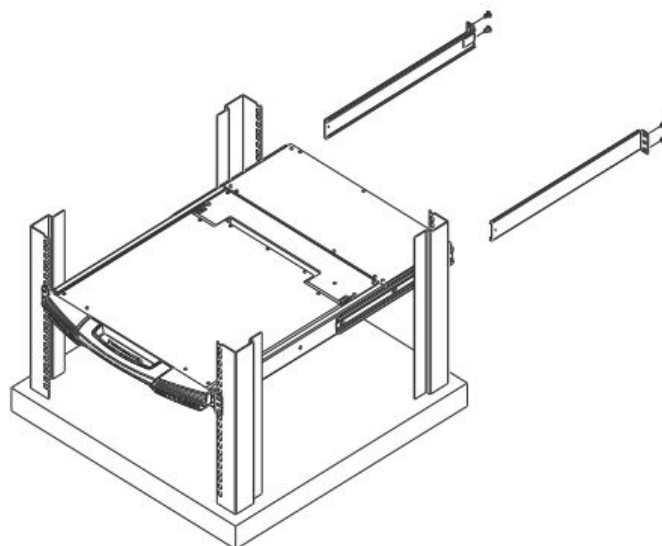
- 注意:**
1. 製品のラックへの取付作業は本製品を保持する作業者とネジ止めする作業者と
いうように 2 人以上で行うようにしてください。
 2. 標準ラックマウントキットにはネジやケージナットは同梱されておりません。ネジや
ケージナットを追加する必要がある場合は、ラックの販売店までお問い合わせく
ださい。
 3. 製品にはオプションのイージーセットアップマウントキットが同梱されています。イ
ージーセットアップラックマウントキットの取り付け方法は p.220 「ラックマウントの
オプション」を参照してください。

ラックへの取付は以下の手順で行ってください。

1. 1 人が本製品をラックの定位置まで持ち上げて保持し、もう 1 人がフロントブラケットをラックにゆるくネジ止めしてください。



2. 最初の作業員が本製品を定位置に保持したまま、もう 1 人の作業員は L 型レールを本製品のリア側からブラケットがラックに接触するまで差し込んでください。その後ラックマウントキットに同梱されているネジで L 型レールをラックにネジ止めしてください。



3. L 型レールが固定されたらフロントブラケットのネジもしっかりとネジ止めしてください。

注意: 適切なエアフローを確保するために製品の両側に少なくとも 5.1cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 12.7cm 程度の余裕を設けて設置してください。

単体使用

KL1508Ai/KL1516Ai を 1 台で使用する場合は、別の機器とデージーチェーン接続する必要はありません。p.34 の接続図 (図中の番号は手順の番号に対応) を参考にして、以下の手順でセットアップを行ってください。

1. 接地線の片側を設置ターミナルに接続し、接地線の反対側を適切な接地物に接続して、KL1508Ai/KL1516Ai を接地してください。

注意: サージや静電気から本製品が破損するのを防ぐためにも、この手順を省略しないでください。

2. セカンドコンソールを使用する場合は、キーボード、モニター、及びマウスを本製品のリアパネルにあるコンソールポートに接続してください。各ポートにはわかりやすくするために色付けされ、アイコンが表示されています。

注意: この手順はオプションです。

3. 今からセットアップするコンピューターそれぞれに対し、カテゴリ 5e/6 ケーブルを使用して、任意の KVM ポートとセットアップするコンピューターに適したコンピューターモジュールを接続してください (p.23 「コンピューターモジュール」を参照)。

注意: コンピューターモジュールまでの推奨最大延長距離は 50m です。

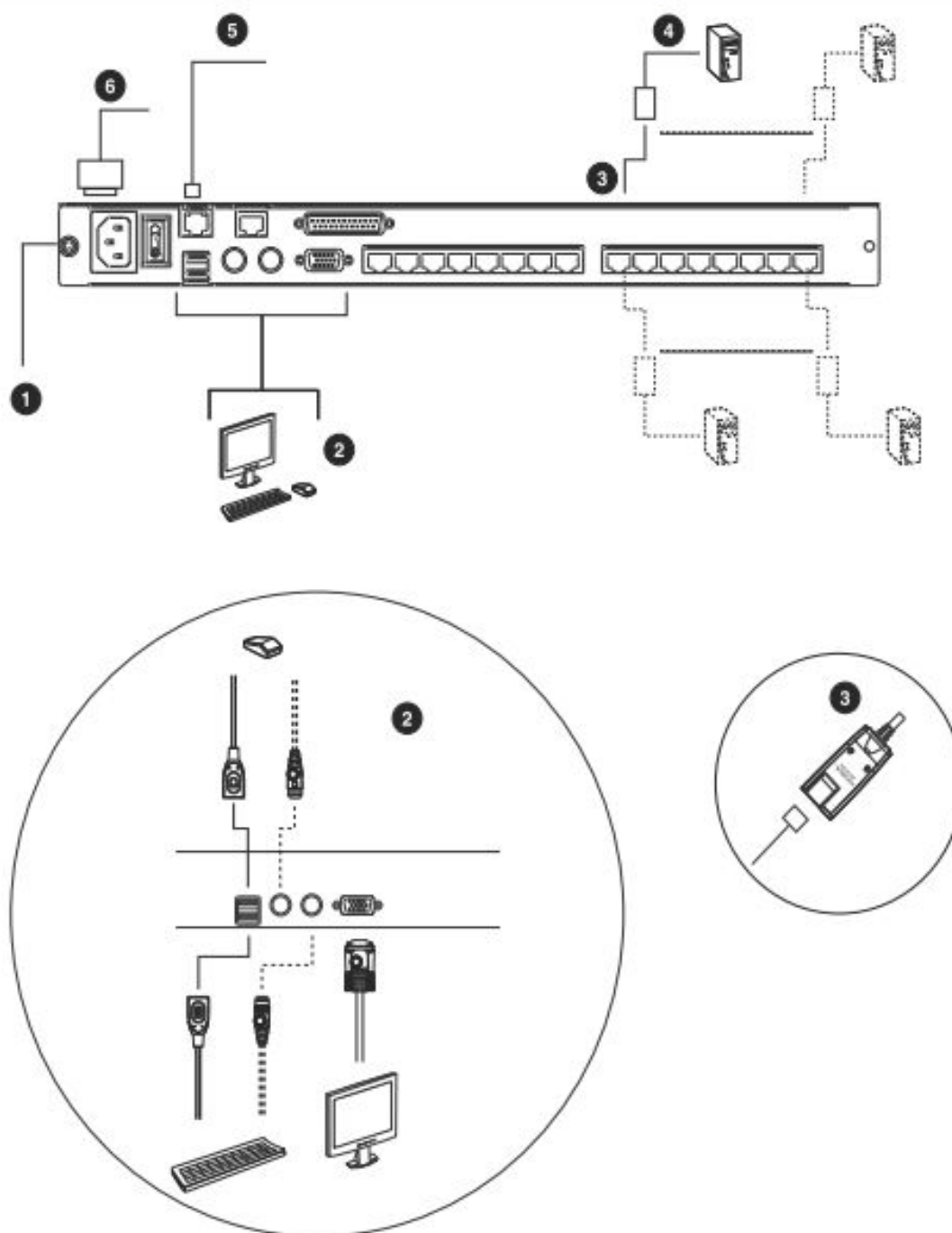
4. コンピューターモジュールをコンピューターに接続してください。p.35 「コンピューターモジュール接続図」を参照しながら、モジュールの各コネクタを、セットアップするコンピューターの適切なポートに接続してください。

5. LAN または WAN ケーブルを KL1508Ai/KL1516Ai の LAN ポートに接続してください。

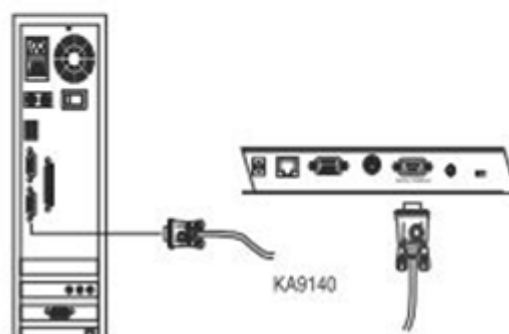
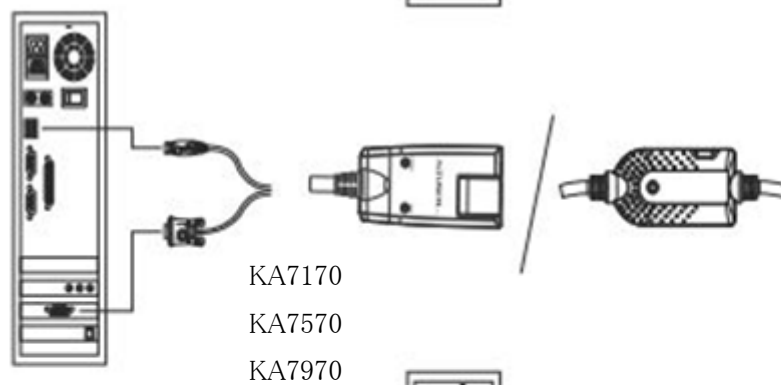
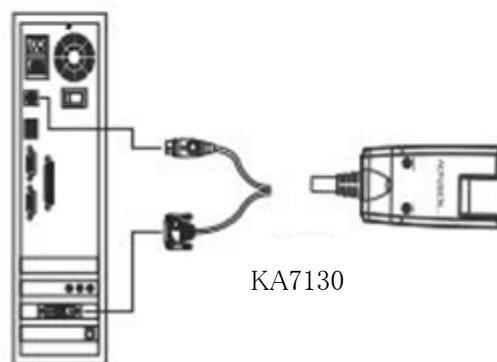
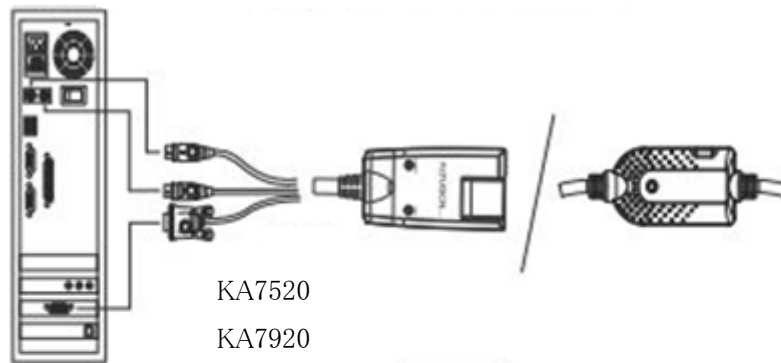
6. 電源コードで本製品を AC 電源コンセントに接続してください。

KL1508Ai/KL1516Ai の配線が完了したら、本製品に電源を入れてください。電源を入れた後、サーバーの電源を入れてください。

单体使用接続図



コンピューターモジュール接続図



デジチェーン接続

さらに多くのコンピューターを操作する場合、最初の KL1508Ai または KL1516Ai に最大 15 台までの KH1508A/KH1516A をデジチェーン接続させると、1 組のコンソールから最大 256 台のコンピューターを操作することができます。

注意: KL1508Ai/KL1516Ai をデジチェーン接続に使用するのには、無駄であり、コストもかかるため、代わりに LCD コンソールのない KVM スイッチを使用してください。KL1508Ai/KL1516Ai にデジチェーン接続できる ATEN の KVM スイッチについては p.218 「対応製品」を参照してください。

コンピューターの接続数と必要な KL1508Ai/KL1516Ai の台数に関する一覧表を p.217 に記載しています。

デジチェーン接続をセットアップする際には、今からセットアップする機器全てに電源が入っていないことを確認した後、p.37 「デジチェーン接続図」を参考にして以下の作業を行ってください。

1. デジチェーンケーブルセットを使用して、親機となる KL1508Ai/KL1516Ai の「Chain Out」ポートと子機となる KVM スイッチの「Chain In」ポートを接続してください(1 台目の「Chain Out」から 2 台目の「Chain In」、2 台目の「Chain Out」から 3 台目の「Chain In」・・・という要領で接続してください)。

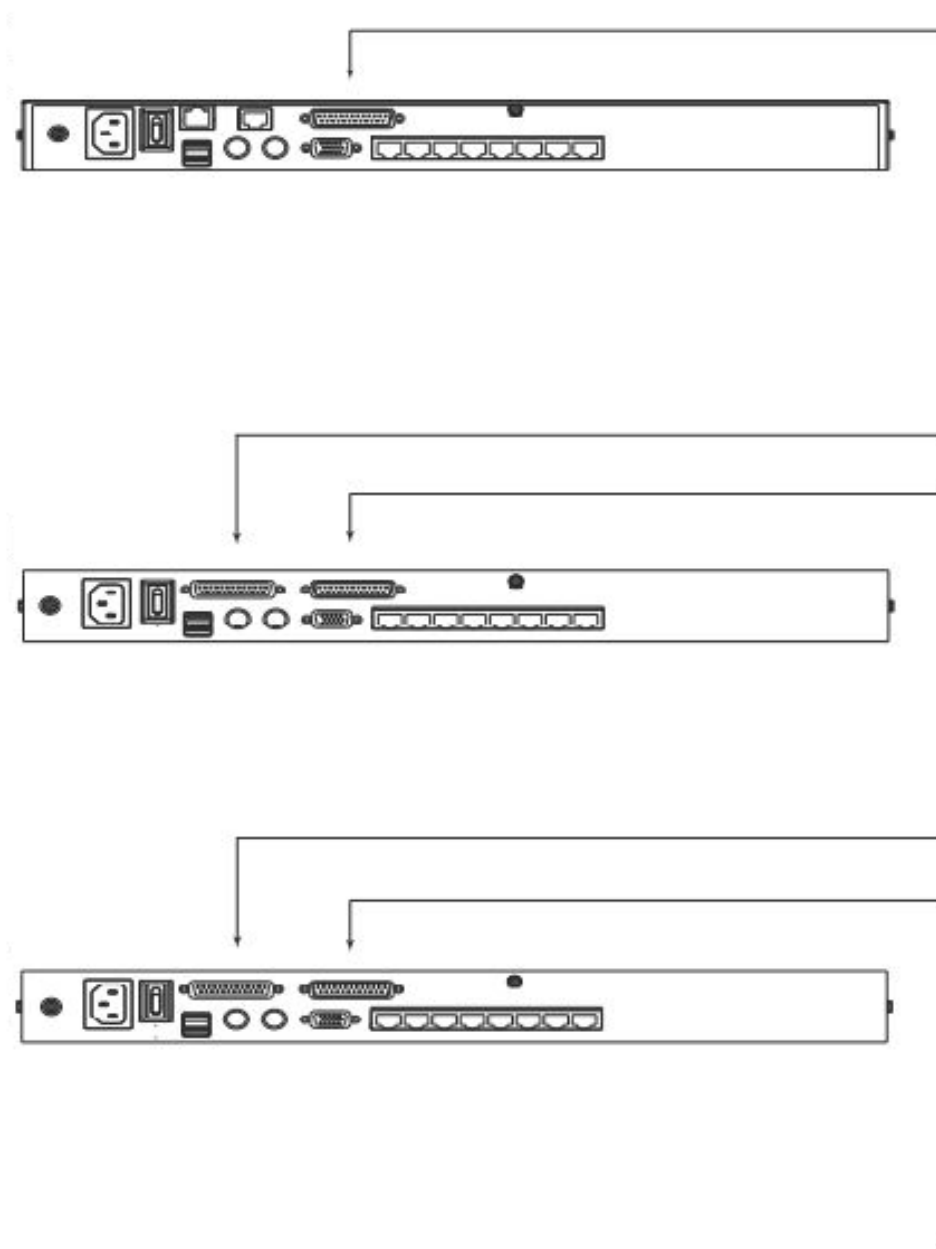
注意:

1. 1 台目の機器は最高レベルの親機となるので、その「Chain In」ポートは使用しないでください。
2. デジチェーンケーブルセットは別途ご購入ください。詳細は販売店までお問い合わせください。

2. コンピューターと本製品を、p.33 「単体使用」を参考にしながら接続してください。
3. 他に KVM スイッチをデジチェーン接続する場合は、上記手順を繰り返してください。
4. 以下の手順に従って接続機器の電源を入れてください。
 - a) 1 台目のステーションに電源コードを接続してください。その KL1508Ai/KL1516Ai がステーション ID を確定し、ステーション ID LED に表示するまで待ってください(1 台目のステーション ID は 01、2 台目のステーション ID は 03、3 台目のステーション ID は 03・・・というようにステーション ID が割り当てられます)。

- b) 次のステーションにある機器の電源を入れてください(2 台目の後に 3 台目の機器に電源を入れるというように順に電源を入れください)。いずれの場合でも、各機器のステーション ID が確定し、表示されてから、次のステーションにある機器の電源を入れてください。
- c) 全てのステーションに電源が入った後に、コンピューターの電源を入れてください。

デージーチェーン接続図



第3章 基本操作

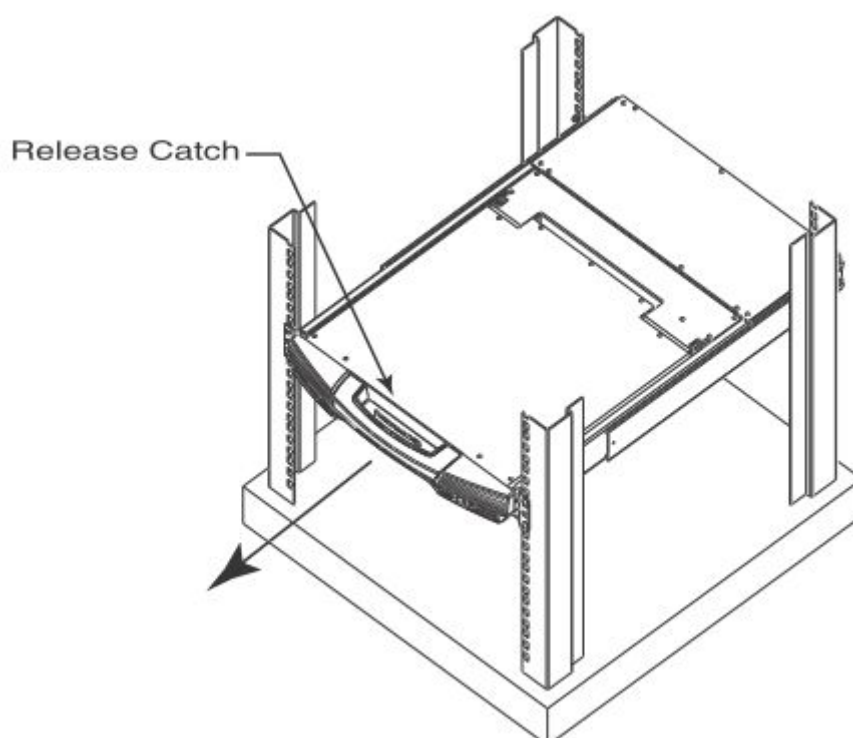
コンソールを開く

KL1508Ai/KL1516Ai コンソールは、上部パネルに取り付けられているLCD ディスプレイモジュール、及び下部パネルに取り付けられているキーボード/タッチパッドモジュールの2つの部分から構成されています。

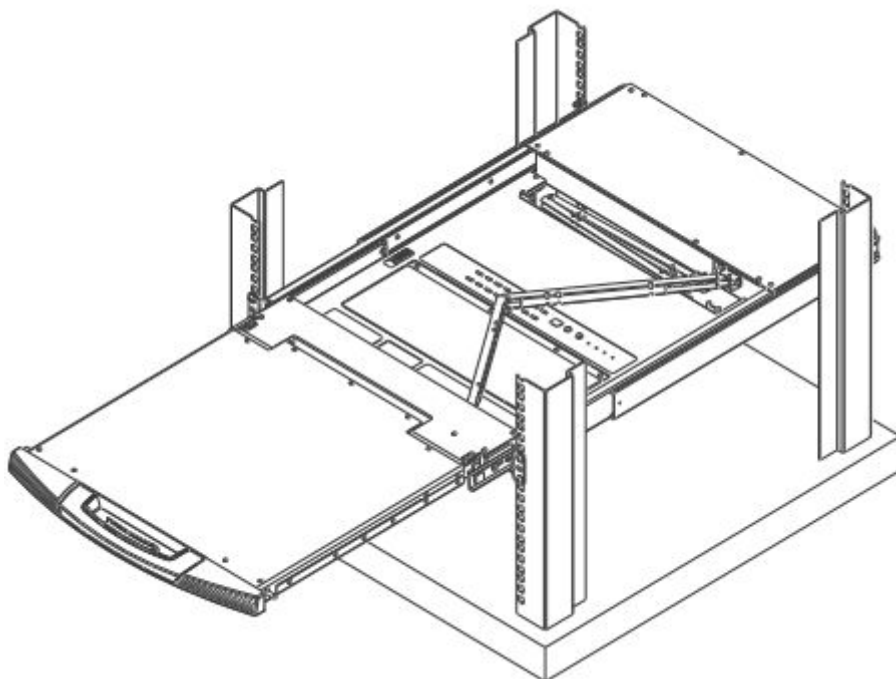
各モジュールは同時に使用することもできますし、それぞれ個別に動かすことも可能です。この機能によって、キーボード/タッチパネルモジュールが必要でない場合は、このモジュールを収納したままLCD ディスプレイだけを引き出して使用することができます。

モジュールを個別に開く場合

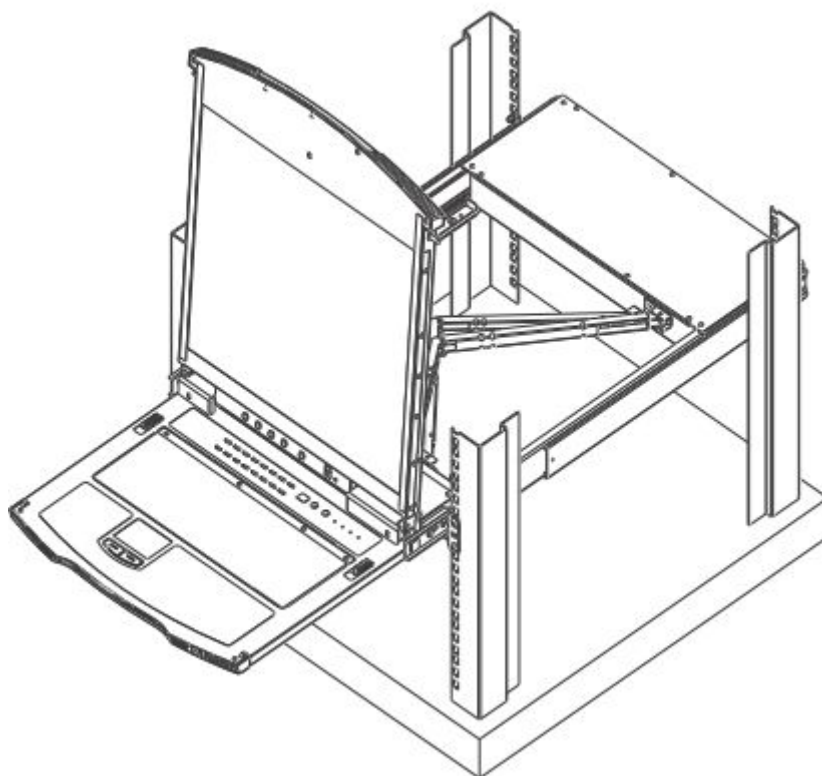
1. リリースキャッチを引っ張って、パネルを手前に数 cm 程引き出します。コンソールのロックが解除されたらリリースキャッチから手を離してください。



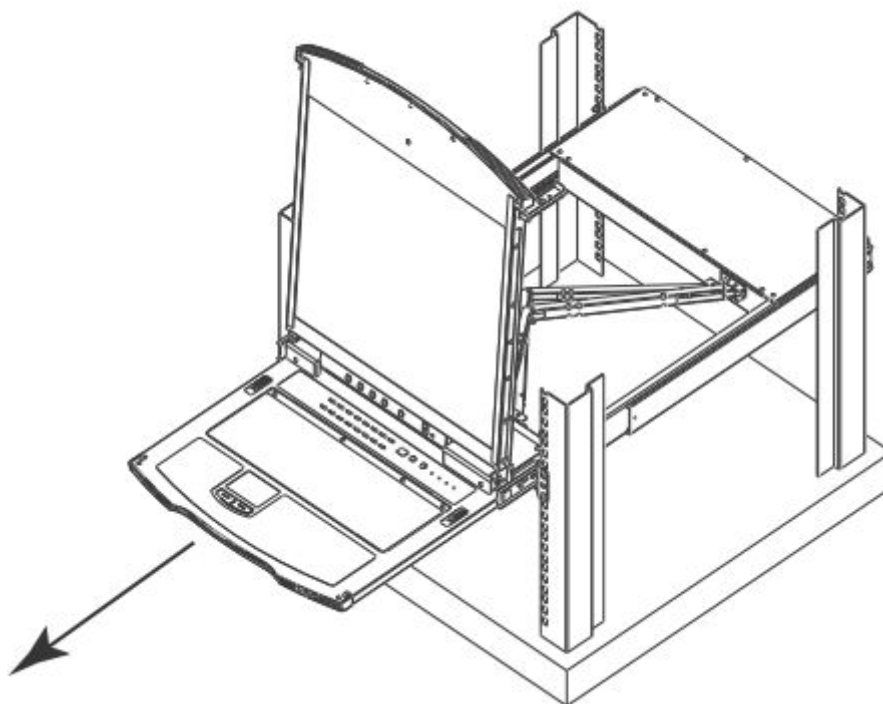
2. 「カチッ」という音がするまで LCD パネルを引き出してください。



3. LCD パネルが見えるように上部パネルを完全に起こしてください。



4. 下側のキーボードモジュールを「カチッ」という音がするまで、引き出してください。



モジュールを同時に開く場合

「モジュールを個別に開く場合」のセクションにある図を参考にして、以下の手順で行ってください。

1. リリースキャッチを引っ張って、上部と下部の両パネルをキーボードモジュールが「カチッ」という音がするまで引き出してください。

注意： コンソールのロックが解除されたら、リリースキャッチから手を離してください。

2. 上部パネルを「カチッ」という音がするまで引き出してください。

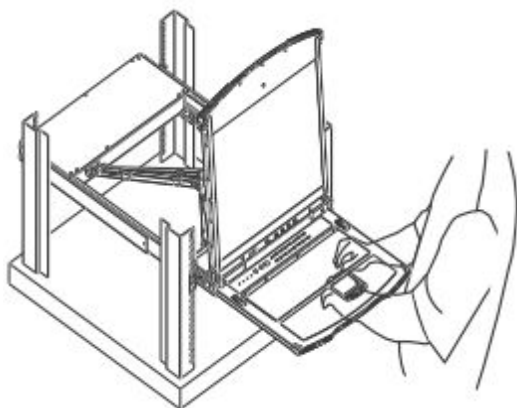
3. LCD パネルが見えるように上部パネルを完全に起こしてください。

注意： 次ページのキーボードモジュールの重量超過に関する注意事項を参照してください。

操作上の注意事項

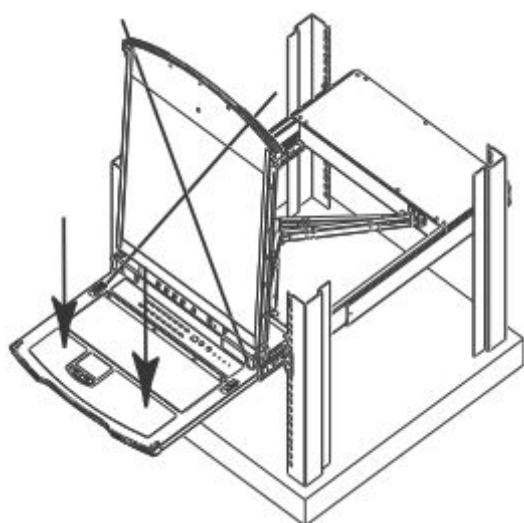


キーボードモジュールの最大積載重量は 30kg です。キーボードモジュールが破損するのを防ぐためにも下記のことを守ってください。



正しい使用方法

手を軽くキーボードモジュールに置いて作業する。

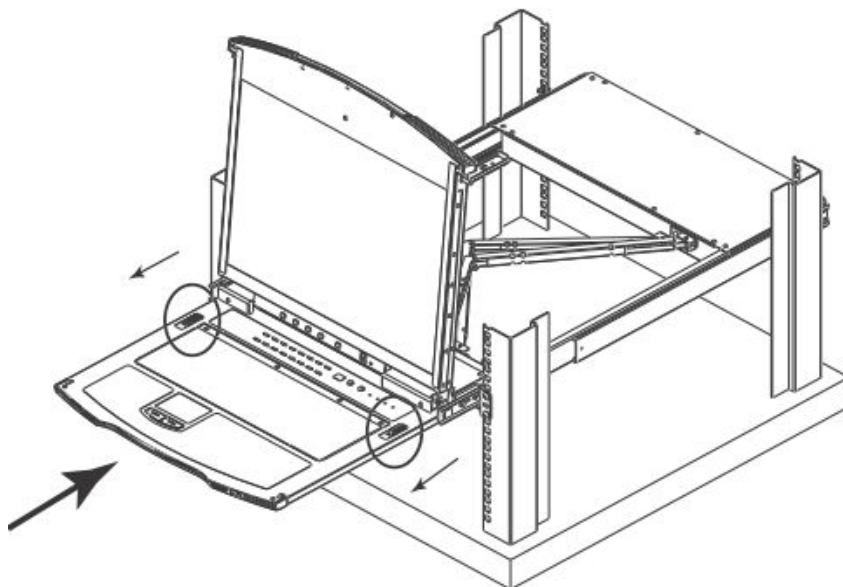


間違った使用方法

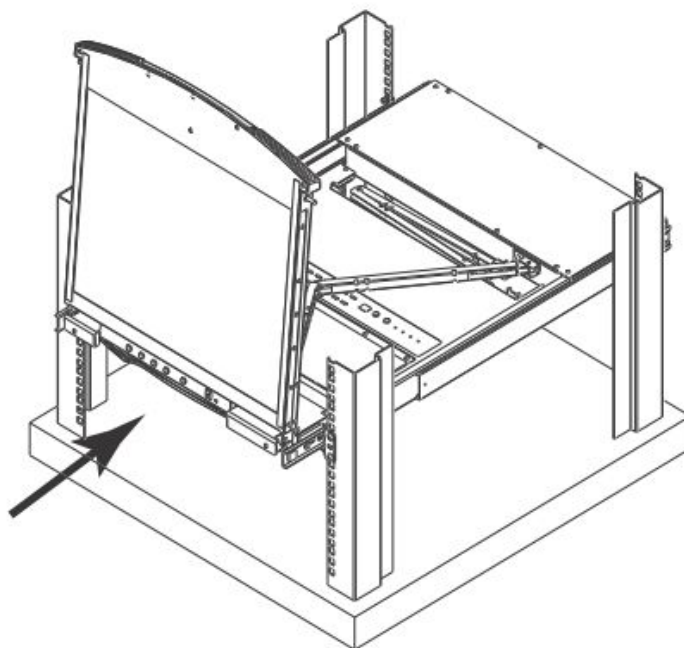
- ◆ キーボードモジュールに**体重**をかけないでください。
- ◆ キーボードモジュールに**重いもの**を載せないでください。

コンソールを閉じる

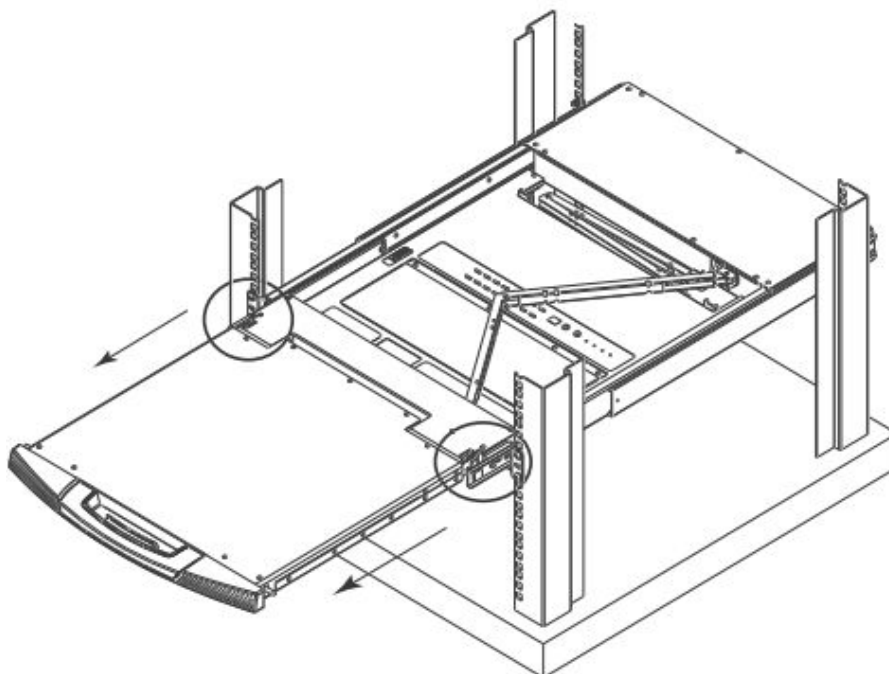
1. キーボードの両側についているリリースキャッチを手前に引いて、キーボードモジュールのロックを解除し、このパネルを奥へ少しスライドさせてください。



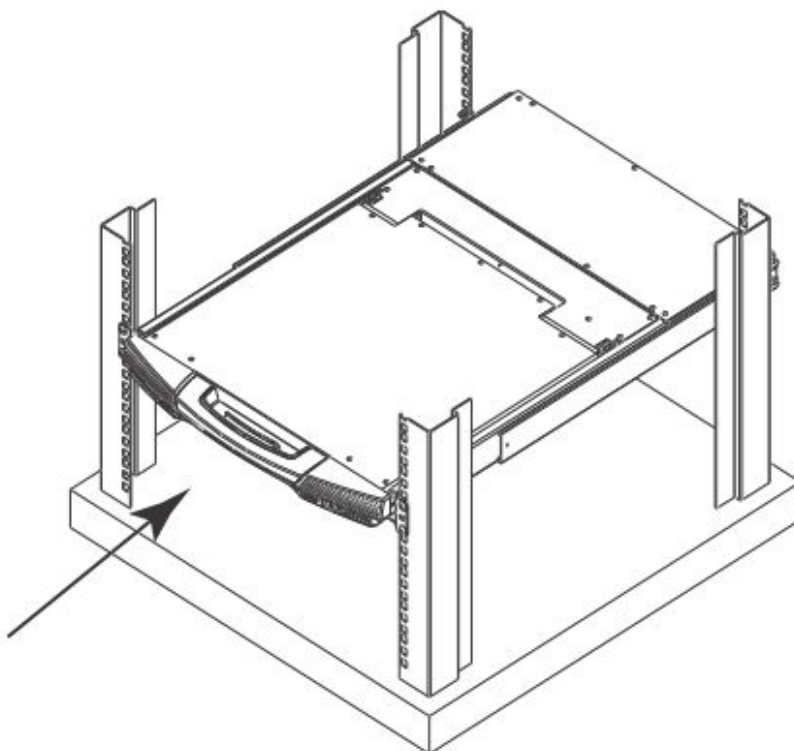
2. リリースキャッチから手を離してください。フロントハンドルを使用して、キーボードモジュールを奥へスライドさせてラックに格納してください。



3. LCD モジュールを下に倒してから、側面のリリースキャッチを引っ張って LCD モジュールのロックを解除してください。



4. フロントハンドルを使用して、LCD モジュールを奥へスライドさせてラックに格納してください。



LCD OSD の設定

LCD ボタン

LCD パネルの OSD を使用して LCD ディスプレイのセットアップや設定ができます。下表に示した 4 つのボタン (p.27 「LCD コントロール」を参照) を使用して設定を行ってください。

ボタン	機能
MENU	LCD OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すとメニュー機能が起動し、メインメニューが表示されます。
	このボタンでメニューの右または上を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
	このボタンでメニューの左または下を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	◆ LCD OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと、OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。 ◆ LCD OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。 ◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと、LCD OSD メニュー機能を終了します。

LCD の調整値設定

下表は LCD OSD の調整値設定について説明しています。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、LCD のフェーズ設定が正しくない可能性があります。この問題を解決するにはこれでフェーズを調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波 (モアレ) が生じている場合には、LCD のクロック設定が正しくない可能性があります。モアレを取り除くには、これでクロックを調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します (表示画面を左右の方向に動かして調整します)。
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します (表示画面を上下の方向に動かして調整します)。
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	メインメニューとサブメニューでの設定値 (言語は除く) を工場出荷時のデフォルト設定値にリセットします。

ポートの選択方法

KL1508Ai/KL1516Ai では、接続されたコンピューターの選択方法として、手動による選択、OSD/GUI による選択、ホットキーによる選択の 3 つの方法をご用意しております。

手動による切替

手動で切り替えるには、アクセスしたいデバイスが接続されたポートに対応するポート選択ボタンを押すだけです。

OSD/GUIによる切替

KL1508Ai/KL1516Ai ではコンピューターを選択するのに 2 通りのメニュー形式のインターフェースを使用しています。1 つはローカルコンソールからログインする際に使用するテキストベースの OSD で、もう 1 つはインターネットを通じてリモートからログインする際に使用する GUI です。ローカルコンソール OSD の操作方法については次章で、GUI の操作方法については第 5 章以降のインターネットブラウザ、Windows 及び Java ログインに続いて説明します。

ホットキーによる切替

ホットキーによる切替は、ポート選択ボタンを手動で押す代わりに、ローカルコンソールキーボードから手軽にコンピューターを選択して KVM 操作が行えるものです。詳細は p.63 「ホットキー操作」を参照してください。

ホットプラグ

KL1508Ai/KL1516Ai はホットプラグに対応しているので、本製品の電源を落とすことなく、ケーブルを抜いたり接続したりするだけで、機器を取り外したり追加したりすることができます。しかしながら、ホットプラグ機能が正しく動作するためにも下記の手順に従って作業を行ってください。

ステーション位置のホットプラグ

ステーション位置は古い親機から新しい親機にケーブルを付け替えることで簡単に変更できます。変更後は OSD メニューに新しい設定を反映させるために OSD をリセットする必要があります。詳細は p.58 「RESET STATION IDS」(ステーション ID のリセット)を参照してください。

KVM ポートのホットプラグ

KVM ポートを変更した後、OSD メニューにその変更内容を反映させるために、新しいポートの情報を OSD 情報に手動で設定する必要があります。詳細は、p.54 「F3:SET」及び p.57 「F4:ADM」機能のポート設定に関する項目を参照してください。

注意： ご使用のコンピューターの OS がホットプラグに対応していない場合は、本機能が正しく動作しないことがあります。

コンソールポートのホットプラグ

キーボード、モニター及びマウスはホットプラグでの接続が可能です。但し、マウスをホットプラグする場合は、以下のことに注意してください。

- ◆ 例えばマウスのリセットをするためにマウスを取り外し、再びマウスを接続する際には同じマウスを接続するようにしてください。
- ◆ マウスを取り外した後、異なるマウスを接続する場合は、ステーション及びコンピューターの全てを 10 秒間シャットダウンし、p.48 「シャットダウンと再起動」に記載の手順 6 に従って再起動してください。
- ◆ 古いタイプの OSの中にはホットプラグに対応していないものがあります。

注意： ホットプラグの後(またはいつでも)、キーボードやマウス入力ができない場合はリセットスイッチを押してキーボードとマウスをリセットしてください(詳細は p.69)。

シャットダウンと再起動

KL1508Ai/KL1516Ai をシャットダウンする必要がある場合や、電力不足で再起動をする必要がある場合、機器の問題が発生するのを防ぐためにも以下の手順に従ってください。

1. 接続しているコンピューター全てをシャットダウンしてください。
注意: キーボード起動機能がついているコンピューターの場合は、電源コードも抜いてください。
2. 10 秒経ってからステーションの電源を入れてください。2 台以上のステーションをシャットダウンした場合は、最上位のステーションから下位のステーションへと順番に電源を入れてください。また、各ステーションのフロントパネル LED にステーション ID が表示されてから次のステーションの電源を入れるようにしてください。
3. ステーション全ての電源を入れた後、コンピューターの電源を入れてください。

ポート ID の割り当て

各コンピューターにはポート ID が割り当てられています。ポート ID は 1~2 桁の数字で、そのコンピューターが接続されているステーションレベルとポート番号を表します。

最初の区分にある数字は 1 番目にあるステーションの KVM ポート番号を表し、次の区分にある数字は 2 番目のステーションの KVM ポート番号を表します。

1 番目のステーションに接続されたコンピューターには、それが接続された KVM ポート番号に対応する 1~16 の数字がポート ID として割り当てられます。

2 番目のステーションに接続されたコンピューターには 2 つの区分に数字が表示されるポート ID となります。

- ◆ 2 つ目の 2 桁の 1~16 という数字はコンピューターが接続された 2 番目のステーションの KVM ポート番号を表します。また、最初の 2 桁の 1~16 という数字は 2 番目のステーションが接続された 1 番目のステーションの KVM ポート番号を表します。
- ◆ 例えば、12-3 というポート ID を持つコンピューターは 2 番目にあるステーションの KVM ポート番号 3 に接続されており、その 2 番目にあるステーションは、1 番目にあるステーションの KVM ポート番号 12 に接続されているということを表します。

第4章

OSD 操作

OSD の概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)はメニュー形式でコンピュータの管理や切替操作を行うものです。これらの操作は全て OSD メイン画面からはじめます。メイン画面を表示するには、OSD ホットキーを2回押してください。

デフォルトのホットキーは[Scroll Lock]です。このホットキーは[Ctrl]または[Alt]に変更することもできます(p.54「OSD HOTKEY」参照)。

-
- 注意:**
1. [Ctrl]または[Alt]をホットキーにした場合は、右側のキーを2回または左側のキーを2回押すようにしてください。
 2. OSD を開始すると、キーボードの Lock キーは本製品で制御されます。[Num Lock]及び[Caps Lock]は OSD の操作中、常に有効となります。
-

OSD には2段階(アドミニストレーター/ユーザー)のパスワードシステムが組み込まれています。OSD メイン画面を呼び出す前にユーザー名とパスワードを入力するログインダイアログが表示されるので、有効なユーザー名とパスワードを入力して OSD メイン画面を呼び出してください。

初めて OSD を使用する時は、デフォルトのユーザー名とパスワードを入力してください。デフォルトのユーザー名は「administrator」、デフォルトのパスワードは「password」です。セキュリティの観点からも、初回ログインした後はユーザー名とパスワードを変更することを推奨します。

デフォルトのユーザー名とパスワードでログインした場合、アドミニストレーターモードの OSD メイン画面が表示されます。このモードではアドミニストレーターの権限があり、自在にアドミニストレーターとユーザー機能全てにアクセスでき、(将来のパスワード権限を含む)操作方法の設定ができます。

OSD を起動すると、下図のような画面が表示されます。



注意: この図はアドミニストレーターのメイン画面です。F4 及び F6 の機能はアドミニストレーターのみの権限で一般のユーザーはアクセスできないようになっているので、ユーザーのメイン画面には表示されていません。

OSD ナビゲーション

- ◆ メニューをキャンセルするまたは OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上にある「X」をクリックするか、[Esc]を押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、「F8」をクリックする、メイン画面の上部にある「ZZZ」マークをクリックするか、または[F8]を押してください。
- ◆ OSD メニューはツリー構造で表示されます。ある特定のステーションのポートを見る場合は、ステーション番号の前にある「+」をクリックするとポート番号のリストがドロップダウン表示されます。リストを閉じる場合は、ステーション番号の前にある「o」マークをクリックしてください。
- ◆ リスト表示を1行ずつ上下へ移動する場合は、三角のマーク「▲▼」をクリックするか、またはキーボードの上下矢印キーを押してください。メイン画面に表示されているもの以上の項目がある場合は画面がスクロールします。
- ◆ リスト表示を1ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印「↑↓」をクリックするか、またはキーボードの[Pg Up]と[Pg Dn]キーを使用してください。メイン画面に表示されているもの以上の項目がある場合は画面がスクロールします。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、またはハイライトバーを移動させてから[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらを実行した後、メニューは自動的に1段階上の状態に戻ります。

OSD メイン画面の項目

項目	説明
SN-SP	この列には接続された KVM ポート全てのポート ID 番号(ステーション番号ーポート番号)が表示されます。これをクリックするか、ハイライトバーを移動させてから[Enter]キーを押すと特定のコンピューターにアクセスできます。
QV	クイックビュースキャン(p.56「SET QUICK VIEW PORTS」参照)をするようにポートが選択されている場合、この列に矢印が表示されます。
	コンピューターに電源が入っていてオンライン状態である時にこの列に太陽マークが表示されます。
NAME	ポートに名前がつけられている(p.57「EDIT PORT NAMES」を参照)場合、この列にその名前が表示されます。

OSD 機能

OSD の設定や操作を行うには OSD 機能を使用します。例えば、任意のポートへ素早く切り替えたり、スキャンするポートを選択したり、閲覧できるリストを制限したり、クイックビューポートを設定したり、ポート名の作成や編集をしたり、OSD 設定の調整などがこの機能でできます。

OSD 機能にアクセスする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メイン画面の上部にある任意のファンクションキーをクリックするか、またはキーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されたら、それをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させてから **[Enter]** キーを押して選択してください。
3. **[Esc]** キーを押して一段階上のメニューに戻ってください。

F1: GOTO

GOTO 機能にアクセスして、ポート名またはポート ID を入力すると直接そのポートへと切り替えることができます。

- ◆ ポート名を入力する場合、**[1]** キーを入力してからポート名を入力し、**[Enter]** を押してください。
- ◆ ポート ID を入力する場合、**[2]** キーを入力してからポート ID を入力し、**[Enter]** を押してください。

注意： ポート名またはポート ID の一部を入力すると、現在のリスト表示の設定にかかわらず、そのポート名またはポート ID に該当するポートのうちユーザーが表示権限を持つものが全て画面にリスト表示されます（詳細は p.53 「F2 LIST」参照）。

ポートの選択をしないで OSD メインメニューに戻るには、**[Esc]** キーを押してください。

F2: LIST

OSD 機能のほとんどはメイン画面でリスト表示されているコンピューターだけを操作します。この「F2: LIST」機能を使用してリストに表示されるポートを増やしたり減らしたりできます。サブメニューの項目とその説明を下表に表しています。

項目	説明
ALL	接続されているポート全てをリスト表示します。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.56 「SET QUICK VIEW PORTS」を参照)として設定されたポートのみをリスト表示します。
POWERED ON	電源が入っているコンピューターのみリスト表示します。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(p.56 「SET QUICK VIEW PORTS」を参照)として設定されたポートであり、且つそのポートに接続されたコンピューターの電源が入っているポートをリスト表示します。

リストからポートを選択する場合は、ハイライトバーをそこへ移動させてから[Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

F3: SET

この機能でアドミニストレーター及びユーザー個々の作業環境の設定ができます。各ユーザーの個別プロファイルは OSD に保存され、ログイン時のユーザー名に反映されます。

設定を変更する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをそこへ移動させてから[Enter]キーを押してください。
2. 項目を選択したらサブメニューに更なる項目が表示されます。その項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをそこへ移動させてから[Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。設定項目の説明は下表に表しています。

項目	説明
OSD HOTKEY	OSD 機能を起動するホットキーを選択します。 [Scroll Lock][Scroll Lock]→[Ctrl][Ctrl]または[Alt][Alt] [Ctrl]または[Alt]キーの入力は動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるので、デフォルトでは[Scroll Lock]の2度押しとなっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面上のポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 マウス、矢印キーに加え、[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして [Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を使用してポート ID の表示位置を選んでから、クリックまたは[Enter]キーを押してその位置を決定し設定のサブメニューに戻ってください。 注意: この設定は現在選択しているポートのみに有効となります。デフォルトの表示位置を使用したくない場合は、各ポートそれぞれに表示位置を設定してください。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートを切り替えてから画面にポート ID を表示している時間を設定します。 設定は、 3 秒間 と Off (無) の2種類があります。
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID をどのように表示するかを設定します。 PORT NUMBER はポート番号のみ、 PORT NAME はポート名のみ、 PORT NUMBER + PORT NAME はポート番号とポート名の両方を表示します。デフォルトは PORT NUMBER + PORT NAME です。

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
SCAN DURATION	オートスキャンモード (p.62 「F7: SCAN」を参照) 時に各ポートを表示する時間を設定します。1～255 秒までの数字を入力した後、 [Enter] キーを押してください。デフォルトは 5 秒間です。 [0] を入力するとスキャン機能は無効となります。
SCAN/SKIP MODE	スキップモード (p.60 「F5: SKP」を参照) 及びオートスキャンモード (p.62 「F7: SCAN」を参照) でどのコンピューターにアクセスするかを選択します。 設定は、 ALL —アクセス可能と設定された全てのポート。 QUICK VIEW —アクセス可能と設定され、且つクイックビューポート (p.56 「SET QUICK VIEW PORTS」を参照) として設定されたポートのみ。 POWERED ON —アクセス可能で且つコンピューターの電源が入っているポートのみ。 QUICK VIEW + POWERED ON —アクセス可能でクイックビューポートとして設定されており、且つコンピューターの電源が入っているポートのみ。 の 4 つがあります。デフォルトは ALL です。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間コンソールからの入力がない場合、画面がブランクになります。1～30 分の時間を入力してから [Enter] キーを押します。 [0] を入力するとこの機能は無効となります。デフォルトでは無効です。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作 (p.63 「ホットキー操作」参照) がコンピューターで動作中のプログラムと競合している場合などに、ホットキー機能を有効/無効に切り替えます。デフォルトでは有効となっています。
HOTKEY	ホットキーモードを起動するキーを選択します (詳細は p.63 「第 5 章ホットキー操作」を参照)。 [Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] の 2 種類があります。デフォルトは [Num Lock] + [-] です。
OSD LANGUAGE	OSD に表示される言語を設定します。言語は英語、ドイツ語、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、スペイン語、ロシア語、フランス語があります。デフォルトは英語です。
SET CONSOLE KEYBOARD	コンソールキーボードのキーボード言語マッピングを設定します。デフォルトは Auto(自動) です。本製品がキーボードから自動的にキーボード言語マッピング情報を受信できない場合には、英語 (US) に設定されます。

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
SET LOGOUT TIMEOUT	ある一定時間コンソールからの入力がない場合に、ユーザーが自動的にログアウトするように設定する機能です。コンソールを再び使用するにはログインしなおす必要があります。 この機能で元のユーザーがもうコンピューターにアクセスしていない、またはログアウトするのを忘れてしまった場合に、他のユーザーがコンピューターにアクセスするようにできるようになります。タイムアウトの時間設定は、1～180分の時間を入力した後[Enter]を押してください。[0]を入力すると、この機能は無効となります。デフォルトでは無効となっています。
ACTIVATE BEEPER	ビープ音を有効にするなら[Y]、無効にするなら[N]を選択してください。有効を選択すると、ポートの切替時、オートスキャン機能 (p.62 「F7: SCAN」を参照) 時、OSD メニューに無効な入力をした時にビープ音が鳴ります。デフォルトでは有効になっています。
SET QUICK VIEW PORTS	この機能を使用してアドミニストレーターはどのポートをクイックビューポートとするか設定できます。 ◆ クイックビューポートとして選択する/選択しない場合は、ナビゲーションキーを使用してハイライトバーを移動させてから[スペースキー]を押してください。 ◆ クイックビューポートとして選択されたポートには、メイン画面の LIST の QV の列に矢印が表示されます。選択していないポートには、この矢印は表示されません。 ◆ クイックビューのオプションの 1 つがリストの一覧 (p.53 「F2: LIST」を参照) として選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ クイックビューのオプションの 1 つがオートスキャン (p.55 「SCAN/SKIP MODE」を参照) として選択されている場合、ここで選択されたポートだけをオートスキャンします。 デフォルトでは、どのポートも選択されていません。
TOUCHPAD	コンソールのタッチパネル機能を有効/無効にします。[Y]有効または[N]無効を選択してください。機能の状態(タッチパッドの有効/無効)が表示されます。

F4: ADM

「F4:ADM」はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能によりアドミニストレーターは OSD の操作全体を設定したり管理したりできます。設定を変更するには、「F4:ADM」をダブルクリックするか、上下の矢印キーを使用してハイライトバーをそこまで移動させてから[Enter]キーを押してください。

項目を選択したら、サブメニューに更なる項目が表示されます。変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させてから[Enter]キーを押してください。選択する前にアイコンが表示されます。設定項目を下表に表しています。

項目	説明
SET IP ADDRESS	この機能は KL1508Ai/KL1516Ai の IP アドレスを自動で割り当てる際 (DHCP)、または固定 IP アドレスを割り当てる際に使用します。 ◆ IP アドレスを自動的に割り当てる場合は DHCP を有効にしてください。 ◆ 固定 IP アドレスを設定し、IP、マスク、ゲートウェイをそれぞれ設定する場合は、DHCP を無効にしてください。 注意:デフォルト設定では DHCP は無効となっています。
EDIT PORT NAMES	どのコンピューターがどのポートに接続されているかを覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレーターはポート名を設定したり、編集したり、削除したりすることができます。ポート名の編集は以下の手順で行ってください。 1. 編集したいポートをクリックするか、ナビゲーションキーを使用してハイライトバーをそのポートまで移動させ、[Enter]キーを押してください。 2. 新しいポート名を入力するか、以前のポート名を編集/削除してください。ポート名に使用できる文字数は最大 14 文字で以下の文字が使用できます。 ◆ A~Z*のアルファベット文字全て ◆ 0~9 の数字全て *ポート名は大文字と小文字のどちらも使用できますが、OSD に表示されるポート名は「大文字」のみです。 3. ポート名の編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更を有効にしてください。編集を中止するには[Esc]キーを押してください。

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能は、ポート識別を補助するポート名の設定を除く、全ての変更事項を工場出荷時のデフォルト値に戻します(詳細は p.224 「OSD 工場出荷時デフォルト設定」を参照してください)。
CLEAR THE NAME LIST	ポート名設定を削除します。
RESET STASTION IDS	デイジーチェーン接続されているステーションの位置を変更した場合、OSD 設定にはその新しい位置が反映されません。その場合、この機能を使用して接続している機器全体のステーション位置をスキャンし、OSD に新しいステーション位置を反映させるようにしてください。 注意: ステーション番号のみが更新されます。ステーション位置の変更に影響されるポート名やアドミニストレーター権限での設定(例:クイックビューポートの設定等)は手動で変更しなければなりません。
SET OPERATING SYSTEM	各ポートに接続されたコンピューターの OS を設定します。必ず各ポートに対して OS の設定を行ってください。各ポートに対し、[スペースキー]を押して、OS(PC、Mac または Sun)を選択してください。これを繰り返してポート全ての OS を設定したら[Esc]キーを押してください。デフォルトの OS は PC です。 注意: Sun や Mac のコンピューターをお使いの場合、それを接続するポートに対して正しい OS を最初に設定しないと、初回起動時にコンピューターが起動しない場合があります。
SET CAT 5 LENGTH	ポートからコンピューターモジュールを接続するカテゴリ 5e/6 ケーブルの長さを設定します。[スペースキー]を使用して以下のケーブル長の中から選択してください。 S: Short (25m 以下のケーブル) M: Medium (20~35m のケーブル) L: Long (35m 以上のケーブル) 選択された S、M、L の値はポートの横に表示されます。
SET KEYBOARD LANGUAGE	各ポートに接続されたコンピューターのキーボード言語を設定します。[スペースキー]を押して言語を選択してください。デフォルトは英語(US)です。

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
FIRMWARE UPGRADE	KL1508Ai/KL1516Ai 及びコンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードさせるには、まず、この設定で「ファームウェアアップグレード」モードを有効にする必要があります (p.168 「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を参照)。 このメニューを選択すると現在のファームウェアのバージョン情報が表示されます。ファームウェアアップグレードモードを有効にする場合は[Y]を選択し、有効にせずメニューを終了する場合は[N]を選択してください。
ADAPTER UPGRADE	この機能によりアドミニストレーターはコンピューターモジュールのファームウェアのバージョン情報を確認することができます。このメニューを起動すると、現在のファームウェア情報が表示されます。上記の「FIRMWARE UPGRADE」も参照してください。
SET CONSOLE MODE	どのコンソール (LCD コンソール/セカンドコンソール) を有効にするかを設定することができます。 0:両方のコンソールが有効 1:LCD コンソールのみ有効 2:セカンドコンソールのみ有効 [スペースキー]を押して選択してください。デフォルトは 0 です。ログアウトするまで変更項目は反映されません。

F5: SKP

この機能を使用すると、現在 KVM 操作ができるポートから前後のポートへと簡単に KVM 操作を切り替えることができます。

- ◆ スキップモード切替ができるコンピューターの選択は、「F3: SET」機能における「SCAN/SKIP MODE」で行うことができます (p.55 参照)。
- ◆ スキップモードでは以下のキーで操作を行います。

←: 現在のポートからリスト内の 1 つ前のポートにスキップします。

→: 現在のポートからリスト内の 1 つ後のポートにスキップします。

↑: 現在のポートからリスト内の 1 つ前のステーションにある最後のポートにスキップします。

↓: 現在のポートからリスト内の 1 つ後のステーションにある最初のポートにスキップします。

注意: スキップする際は、「SCAN/SKIP MODE」(p.55 参照)の選択できる前後のコンピューターにしかスキップできません。

- ◆ ポートが「スキャン/スキップ」モードで選択されると、KVM 操作を切り替えた際にそのポート ID が表示される前に左向/右向の三角形が表示されます。
- ◆ スキップモードの有効時、通常のコソール操作はできません。コソールで操作する場合は、スキップモードを中止してください。
- ◆ スキップモードを中止するには[スペースキー]または[Esc]キーを押してください。

F6: BRC

「F6: BRC」はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能を有効にすると、コンソールからのコマンドは接続している全ての利用可能なコンピューターに一斉送信されます。

この機能は、例えばシステム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップグレード作業など、複数のコンピューターで同じ操作を繰り返し行う必要があるユーザーには特に便利な機能です。

- ◆ BRC モードの有効時は現在 KVM 操作ができるポートのポート ID が表示される前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードの有効時、マウス操作はできません。マウスを操作する場合は、BRC モードを中止してください。
- ◆ BRC モードを中止するには OSD ホットキーを使用して OSD を起動させ、「**F6**」フィールドをクリックするか、[F6]を押してください。

F7: SCAN

スキャン機能では手動で切替作業をすることなく、稼働中のコンピューターを一定の間隔で自動的に切り替え、コンピューターの動作状況を監視することができます。

- ◆ オートスキャン時を含め、表示するコンピューターの選択は「**F3: SET**」の「SCAN/SKIP MODE」の設定で行います (p.55 参照)。
- ◆ 各ポートの表示時間は「**F3: SET**」機能の「SCAN DURATION」で設定します (p.124 参照)。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているコンピューターにはポートIDの前に[S]マークが表示されます。
- ◆ オートスキャンモード中、任意のポートで一時停止したい場合は、[P]キーを押すかマウスを左クリックしてください。オートスキャンモードが一時停止状態になります。オートスキャンモードを再開するには任意のキーを押すかマウスを左クリックしてください。詳細は p.66 「オートスキャンモードによる切替」を参照してください。
- ◆ オートスキャンモード中、通常のコソール操作はできません。コソール操作を行う場合は、オートスキャンモードを中止してください。
- ◆ オートスキャンモードを中止する場合は、[スペースキー]または[Esc]キーを押してください。

F8: LOUT

「F8」フィールドをクリックするか、または[F8]キーを押すと OSD をログアウトし、コソール画面表示が消えます。これは OSD メイン画面を表示している間に[Esc]キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。

この機能を使用した場合、OSD に再びアクセスするにはもう一度最初からログインしなければならないのに対し、[Esc]キーを使用した場合は OSD に再びアクセスするには、OSD ホットキーを入力するだけです。

-
- 注意:**
1. ログアウト後に OSD に再びアクセスする際、ログインダイアログボックスが表示される以外は何も表示されません。ユーザー名とパスワードを入力してください (p.49 参照)。
 2. ログアウト後に再び OSD にアクセスし、OSD メニューからポートを選択しないまま [Esc]キーで OSD を解除すると、画面に Null Port のメッセージが表示されます。OSD 起動ホットキーを使用すると OSD メイン画面が表示されます。
-

第5章

ホットキー操作

ホットキーによるポートの操作

ホットキーによるポートの操作とはキーボード入力から直接コンピューターを切り替えて KVM 操作ができるようにするものです。KL1508Ai/KL1516Ai には、以下のようなホットキーによるポート操作ができます。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替
- ◆ スキップモードによる切替
- ◆ コンピューター キーボード/マウスリセット

ホットキーモードでは以下の設定も可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポートの OS 設定
- ◆ OSD のデフォルト値への復元

ホットキーモードの起動

ホットキー操作は全て「ホットキーモード」¹ を起動することから始まります。ホットキーモードを起動するには、下記の2通りのキー入力方法があり、どちらか1つだけを選んで入力することができます（詳細は p.70 「ホットキーのキー設定」を参照してください）。

[Num Lock]キーと[-](マイナス)キー

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-](マイナス)キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。

[Num Lock] + [-]

[Ctrl]キーと[F12]キー

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
2. [F12]キーを押して離してください。
3. [Ctrl]キーから指を離してください。

[Ctrl] + [F12]

ホットキー環境

ホットキーモードが有効である場合、

- ◆ 画面にコマンドラインが表示されます。コマンドラインのプロンプトは「Hotkey」です。青地に白い文字で入力したホットキー情報が表示されます。
- ◆ 通常のキーボード/マウス操作はできません。以下の項で説明するホットキーに関連したキー入力のみができます。

ホットキーモードの解除

[Esc]を押すとホットキーモードが解除できます。

1 「HOTKEY COMMAND MODE」が有効であり、ホットキーを正しく入力しているか、確認してください。詳細は p.55 を参照してください。

アクティブなポートの選択

各コンピューターにはポート ID が割り当てられています (p.48 「ポート ID の割り当て」参照)。接続されたコンピューターのポート ID を特定したホットキーで直接そのコンピューターにアクセスすることができます。手順は以下の通りです。

1. 以下のどちらかを入力してホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]
2. ポート ID を入力してください。
ポート ID は入力すると、コマンドラインに表示されます。入力を間違えた場合は、[Backspace] キーで消去してください。
3. [Enter]キーを押してください。
[Enter]キーの入力後、KVM 操作がそのコンピューターへと切り替わり、ホットキーモードは自動的に解除されます。

注意： ホットキーモードでは、無効なステーションやポート ID を入力した場合、ポートは切り替わりません。有効なステーションまたはポート ID を入力するか、ホットキーモードを解除するまでホットキーコマンドラインが画面に表示されたままになります。

オートスキャンモードによる切替

オートスキャン機能を使用すると、ログインしたユーザーがアクセスでき、且つアクティブなコンピュータのポートを一定の間隔で自動的に切り替えることができるので、コンピュータの動作を自動的に監視することができます (p.54 「F3: SET」の「SCAN/SKIP MODE」参照)。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンが各ポートを表示する時間は、OSD の「F3: SET」の「SCAN DURATION」 (p.124 参照) で設定します。ホットキーでオートスキャンを開始する前に、以下のホットキーでスキャンインターバルを変更することができます。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]
2. [A][n]を入力してください。
[A]はアルファベットの A で、[n]はオートスキャンを表示する秒数を表す 1～255 の数字です。
入力した A と数字はコマンドラインに表示されます。入力を間違えた場合は[Backspace]キーを使用して消去してください。
3. [Enter]キーを押してください。
[Enter]キーの入力後、ホットキーモードは解除され、オートスキャンを開始する準備ができます。

オートスキャンモードの起動

オートスキャンモードを起動するには、下記のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]
2. [A]+[Enter]を入力してください。
 - ◆ オートスキャンモード中に任意のポートで一時停止したい場合は、[P]キーを押してください。オートスキャンモードが一時停止状態になります。オートスキャンモードを一時停止した場合には、コマンドラインに「Auto Scan: Paused」と表示されます。
オートスキャンモード中にあるポートのコンピュータを監視し続けたい場合、オートスキャンモードを解除するより、この一時停止機能を利用したほうが便利です。オートスキャンモードを再開すると、その一時停止したコンピュータからオートスキャンが再開します。オートスキャンモードを解除してから再び開始させると、接続された最初のコンピュータからオートスキャンが始まります。

オートスキャンを再開するには任意のキーを押してください。一時停止したコンピューターからオートスキャンが再開します。

- ◆ オートスキャンモードの動作中は、通常のキーボード/マウス操作はできません。オートスキャンモードに対応したキー入力しかできません。通常のキーボード/マウス操作を再開するには、オートスキャンモードを解除してください。

オートスキャンモードの解除

オートスキャンモードを解除するには、[Esc]キーまたは[スペースキー]を押してください。オートスキャンモードを解除すると、オートスキャンが中止します。

スキップモードでの切替

この機能により、モニタリングするコンピューター間を手動で切り替えることができます。固定した時間間隔で自動的に切り替わるオートスキャン機能と違い、この機能では、任意のポートを任意の時間でモニタリングすることができます。

スキップモードの開始

スキップモードを開始するには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

2. [矢印]キーのいずれかを入力してください。

キーボードの矢印キーを入力した後、自動的にホットキーモードは解除され、下表の方法で切り替えたポートからスキップモードが開始します。

←	アクセス可能な最初のポートにスキップします(アクセスできるポートに関してはp.55「SCAN/SKIP MODE」を参照してください)。
→	アクセス可能な次のポートにスキップします。
↑	1つ前のステーションにあるアクセス可能な最後のポートにスキップします。
↓	1つ後のステーションにあるアクセス可能な最初のポートにスキップします。

スキップモード有効時は、矢印キーを押してポートをスキップしていくことができるので、再度、[Num Lock] + [-]などのホットキーを入力する必要はありません。

スキップモード有効時は、通常のキーボード/マウス操作はできません。スキップモードに対応したキーのみが入力できます。通常のキーボード/マウス操作を行うには、スキップモードを解除しなければなりません。

スキップモードの解除

スキップモードを解除するには、[Esc]または[スペースキー]を押してください。

コンピューター キーボード/マウスのリセット

現在選択しているポートに接続されたコンピューターでキーボードまたはマウスが動作しなくなった場合は、以下の手順に従ってキーボード/マウスのリセットを行ってください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

2. [F5]キーを押してください。

[F5]の入力後、ホットキーモードは自動的に解除され、KVM ポートに接続されたコンピューターでキーボード/マウス操作が再びできます。[F5]を入力後でもコンピューターでキーボード/マウス操作ができない場合は、システムをリセットする必要があります。詳細は、p.25 「Lock LED & リセットスイッチ」を参照してください。

この機能は、対象のコンピューターでキーボードやマウスを外して接続しなおすのと基本的に同じようなものです。

ホットキービープ音の ON/OFF 設定

ビープ音 (p.56 「ACTIVATE BEEPER」参照) は下記のホットキーで On または Off にできます。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押した後、ビープ音が On または Off になります。コマンドラインに 1 秒間「Beeper On」または「Beeper Off」と表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードを解除します。

ホットキーのキー設定

ホットキーモード (p.55 「HOTKEY COMMAND MODE」参照) を起動するためのキーは以下のどちらかに変更することができます。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

変更するには以下の手順に従ってください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]
2. [H]キーを押してください。
[H]キーを入力後、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」と1 秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードは解除されます。

OSD ホットキーのキー設定

OSD にアクセスする際に使用するホットキー (p.54 「OSD HOTKEY」参照) は以下の手順で [Scroll Lock][Scroll Lock]、[Ctrl][Ctrl]、または[Alt][Alt]のいずれかに変更することができます。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]
2. [T]キーを押してください。
[T]キーの入力後、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」と1 秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードは解除されます。

ポート OS の設定

以下の手順に従って、ポートに接続されたコンピューターに合った OS を各ポートに設定してください。

1. 下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

2. 下表に示された[ファンクション]キーのいずれかを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定する。
F2	ポート OS を Mac に設定する。
F3	ポート OS を Sun に設定する。

ファンクションキーの入力後、ホットキーモードは自動的に解除されます。

デフォルト値への復元

アドミニストレーターのみが下記の手順を行って KL1508Ai/KL1516Ai をデフォルト設定 (p.58 「RESTORE DEFAULT VALUES」を参照)に戻すことができます。

1. 下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

2. [R]キーを押してください。

3. [Enter]キーを押してください。

[Enter]キーの入力後、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」と3秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードは解除されます。

ホットキー一覧表

ホットキー	説明
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[A] [Enter] オートスキャンモードを起動します。 オートスキャンモード起動時に[P]または左クリックするとオートスキャンを一時停止します。 オートスキャンの一時停止時、任意のキーを押すか左クリックするとオートスキャンが再開します。
	[B] ビープ音を On/Off に切り替えます。
	[Esc]または [スペースキー] ホットキーモードを解除します。
	[F1] ポートの OS を Windows に設定します。
	[F2] ポートの OS を Mac に設定します。
	[F3] ポートの OS を Sun に設定します。
	[F5] 対象のコンピュータでキーボード/マウスをリセットします。
	[H] ホットキーモード起動キーを変更します。
	[Port ID] [Enter] ポート ID に対応したコンピュータへと切り替えます。
	[R] [Enter] アドミニストレーターののみが使用できます。製品本体の設定をデフォルト値に戻します。
	[T] OSD を起動するホットキーを[Scroll Lock][Scroll]、[Ctrl][Ctrl]、または[Alt][Alt]に切り替えます。
	[←] スキップモードを起動し、現在のポートから前のアクセス可能なポートへとスキップします。
	[→] スキップモードを起動し、現在のポートから次のアクセス可能なポートへとスキップします。
	[↑] スキップモードを起動し、現在のポートから 1 つ前のステーションにあるアクセス可能な最後のポートへとスキップします。
	[↓] スキップモードを起動し、現在のポートから 1 つ後にあるステーションにあるアクセス可能な最初のポートへとスキップします。

第6章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換(101/104 キー)キーボードは Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。エミュレーションマッピングは下表をご参照ください。

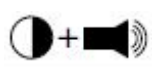
PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意： 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー)

を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーとほかのキーを組み合わせることで、PC 互換(101/104 キー)キーボードからキーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun のキーボードのファンクションキーを使用することができます。該当する機能については下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章 ログイン

概要

KL1508Ai/KL1516Ai へはローカル側では GUI インターフェースを通じてアクセスでき、リモート側ではインターネットブラウザ、Windows アプリケーション(AP)及び Java アプリケーション(AP)を通じてアクセスすることができます。

どのアクセス方法の場合でも、KL1508Ai/KL1516Ai の認証手続きには有効なユーザー名とパスワードの入力が必要です。間違ったログイン情報を入力すると、「Invalid Username or Password」(無効なユーザー名またはパスワード)または「Login Failed」(ログイン失敗)というメッセージが表示されます。このようなメッセージが表示された場合は、正しいユーザー名とパスワードを入力して再度ログインしてください。

注意: 無効なログインが定められた回数を超えると、タイムアウト時間が発生します。再度ログインするにはこのタイムアウト時間が過ぎるまで待つ必要があります。詳細は p.146 「Login Failures(ログイン失敗)」を参照してください。

ローカルログイン

ローカルで KL1508Ai/KL1516Ai にログインする手順については、p.49 「第 4 章 OSD 操作」を参照してください。

ブラウザログイン

KL1508Ai/KL1516Ai へはどの OS でもインターネットブラウザを通じてアクセスすることができます。本製品にアクセスするには以下の手順に従ってください。

1. ブラウザを開き、ブラウザの URL バーにアクセスする KL1508Ai/KL1516Ai の IP アドレスを入力してください。

注意:

1. セキュリティの面から、ログイン用の文字列がアドミニストレーターによって設定されているかもしれません(詳細は p.147 参照)。その場合、ログイン時には IP アドレスに続いてスラッシュとログイン用の文字列を含めるようにしてください。
例: 192.168.0.100/kl1516ai
2. IP アドレスやログイン用の文字列がわからない場合は、アドミニストレーターに問い合わせてください。KL1508Ai/KL1516Ai のデフォルト IP アドレスは 192.168.0.60 です。

2. セキュリティの警告ダイアログボックスが表示された場合は、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください(詳細は p.202 「信頼された証明書」を参照してください)。2 番目の証明書が表示された場合も同様にこれを受け入れてください。
証明書を受け入れると、ログインページが表示されます。



The image shows a login interface for the KL1516Ai device. It features a black header with the text 'KL1516Ai Login' in white. Below the header, there are two input fields: 'Username:' and 'Password:'. At the bottom, there are two buttons: 'Login' and 'Reset'.

3. アドミニストレーターが設定したユーザー名とパスワードを入力してから「Login」ボタンをクリックして Web メインページを起動してください。Web メインページの詳細は p.84 を参照してください。

Windows クライアント AP ログイン

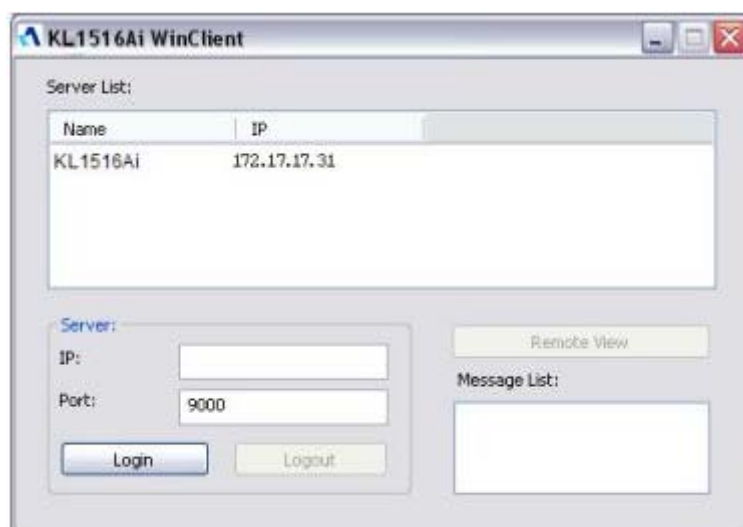
Windows AP クライアントを使用すれば、Windows コンピュータの利用者はブラウザを通さず、直接リモートから Windows コンピュータにアクセスすることができます(但し、初回時にブラウザページから Windows AP クライアントプログラムをダウンロードする必要があります。詳細は p.176 「第 15 章ダウンロード」参照)。KL1508Ai/KL1516Ai へアクセスするには、ダウンロードした Windows AP クライアントプログラムがあるハードディスクを検索し、アイコン (WinClient.exe) をダブルクリックしてください。初めてこのユーティリティを起動する場合は、シリアル番号を入力するダイアログボックスが表示されます。



シリアル番号はクイックスタートガイドに貼られているシールでご確認ください。各ボックスに 5 文字あるシリアル番号を入力した後、「OK」ボタンをクリックして下図のような Windows クライアント接続画面を表示してください。

- 注意:**
1. シリアル番号のアルファベットは大文字で入力してください。
 2. このダイアログボックスは初めてこのプログラムを起動する際のみ表示されます。以後は Windows クライアント接続画面が直接表示されます。

KL1508Ai/KL1516Ai に接続するには、(デスクトップにある)「WinClient.exe」プログラムアイコンをクリックして Windows クライアント接続画面を起動してください。



Windows クライアント AP 接続画面

接続画面の詳細は下表を参照してください。

項目	説明
Server List (サーバーリスト)	WinClient.exe ファイルを実行する度にこのファイルはユーザーのローカル LAN セグメントにある KL1508Ai/KL1516Ai を検索し、結果を一覧表示します。その中のユニットに接続するには、対象となるアイテムを ダブルクリック してください(詳細は p.80 「接続－Windows クライアント AP」を参照)。 注意: 「Enable Device List」(デバイスリストの有効)設定パラメーターが有効となっていない限り、ユニットはリストに表示されません。 - プログラムのアクセスポート設定が、このダイアログボックスにおけるサーバー・エリアでポートとして指定された番号に一致するユニットだけが、サーバーリストウィンドウに表示されます。
Server (サーバー)	このエリアはリモートでKL1508Ai/KL1516Aiに接続する場合に使用します。IPリストボックスをドロップダウンし、リストからIPアドレスを選択してください。もし選択したいIPがリストにない場合、IPの欄にそのIPアドレスを入力してからそのポートの欄のポート番号を入力してください(ポート番号が不明な場合はアドミニストレーターに問い合わせてください)。 ◆ IP アドレス及びポート番号を指定したら「Connect」(接続) ボタンをクリックしてください (p.80 「接続－Windows クライアント AP」を参照)。 ◆ セッションを終了し、このダイアログボックスの画面に戻るには「Disconnect」(切断) ボタンをクリックしてください。
Message List (メッセージリスト)	サーバーパネルの右側にあるメッセージリストパネルには KL1508Ai/KL1516Ai の接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューへの切替)	認証を受ける (p.80 「接続－Windows クライアント AP」を参照) とこのボタンが有効になります。これをクリックして GUI メインページへと切り替えてください。GUIメインページは p.88 で説明します。

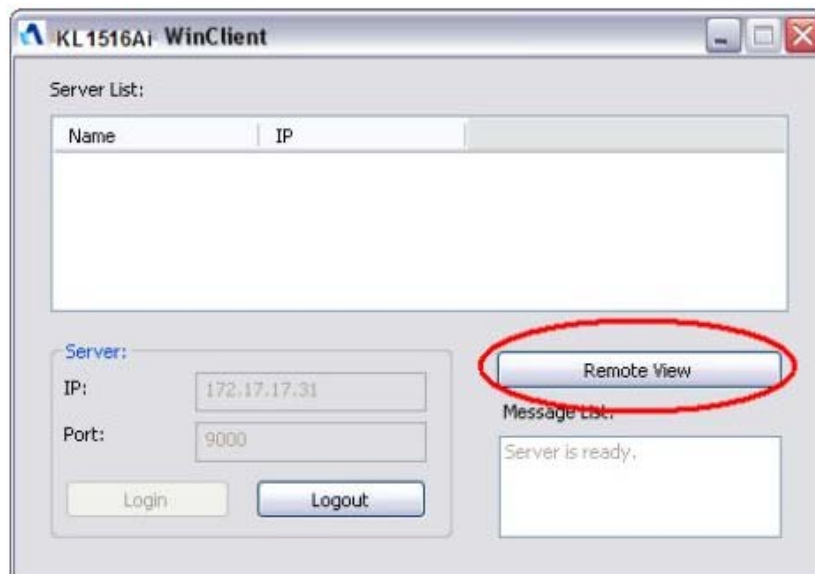
接続－Windows クライアント AP

KL1508Ai/KL1516Ai に接続するには以下の手順に従ってください。

1. サーバーリストボックスから接続したいサーバーを**ダブルクリック**してください。
または、サーバーIP とポート入力ボックスに IP アドレスとポート番号を入力してください。
2. 「**Connect**」(接続) ボタンをクリックしてください。
ログインダイアログボックスが表示されます。



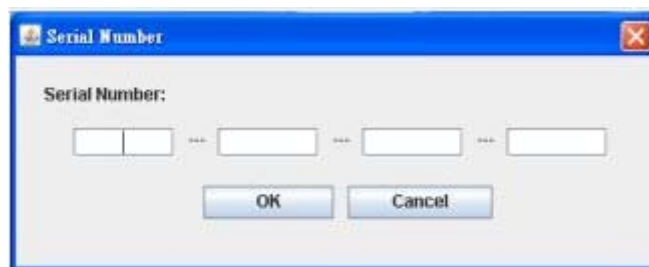
3. 有効なユーザー名及びパスワードを入力してから「**OK**」ボタンをクリックしてください。
4. 認証されたら「Remote View」(リモートビュー) ボタンが有効になります。



5. 「Remote View」ボタンをクリックして GUI メインページを起動してください。GUI メインページについては p.88 で説明します。

Java クライアント AP ログイン

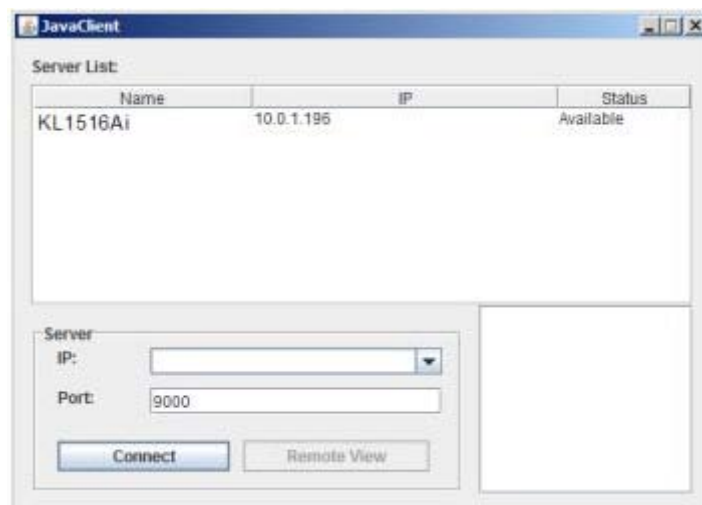
Java AP クライアントを使用すれば、Windows 以外の OS を使用するコンピュータにリモートから直接アクセスできるようになります (但し、初回使用時にはブラウザページから Java AP クライアントプログラムをダウンロードする必要があります。詳細は p.176 「第 15 章ダウンロードを参照」)。KL1508Ai/KL1516Ai へ接続するには、ダウンロードした Java AP クライアントプログラムがあるハードディスクを検索し、そのアイコン (JavaClient.exe) をダブルクリックしてください。初めてこのユーティリティを起動する場合は、シリアル番号を入力するダイアログボックスが表示されます。



シリアル番号はクイックスタートガイドに貼られているシールでご確認ください。各ボックスに 5 文字あるシリアル番号を入力した後、「OK」ボタンをクリックして下図のような Java クライアント接続画面を表示してください。

- 注意:**
1. シリアル番号のアルファベットは大文字で入力してください。
 2. このダイアログボックスは初めてこのプログラムを起動する際のみ表示されます。以後は Java クライアント接続画面が直接表示されます。

KL1508Ai/KL1516Ai に接続するには、(デスクトップにある)「JavaClient.jar」プログラムアイコンをクリックして Java クライアント接続画面を起動してください。



Java クライアント AP 接続画面

接続画面の詳細は下表を参照してください。

項目	説明
Server List (サーバーリスト)	JavaClient.jar ファイルを実行する度にこのファイルはユーザーのローカル LAN セグメントにある KL1508Ai/KL1516Ai を検索し、結果を一覧表示します。その中のユニットに接続するには、対象となるアイテムをダブルクリックしてください(詳細は p.83 「接続—Java クライアント AP」を参照)。 注意: 「Enable Device List」(デバイスリストの有効)設定パラメーターが有効となっていない限り、ユニットはリストに表示されません。 - プログラムのアクセスポートの設定が、このダイアログボックスにおけるサーバー・エリアでポートとして指定された番号に一致するユニットだけが、サーバーリストウィンドウに表示されます(詳細は p.138 「サービスポート」参照)。
Server (サーバー)	このエリアはリモートで KL1508Ai/KL1516Ai に接続する場合に使用します。IP リストボックスをドロップダウンし、リストから IP アドレスを選択してください。もし選択したい IP がリストにない場合、IP の欄にその IP アドレスを入力してからそのポートの欄のポート番号を入力してください(ポート番号が不明な場合はアドミニストレーターに問い合わせてください)。 ◆ IP アドレス及びポート番号を指定したら「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください(p.83 「接続—Java クライアント AP」を参照)。 ◆ セッションを終了し、このダイアログボックスの画面に戻るには「Disconnect」(切断)ボタンをクリックして接続を終了してください。
Message Panel (メッセージパネル)	サーバーパネルの右側にあるメッセージパネルには KL1508Ai/KL1516Ai の接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューへの切替)	認証を受ける(p.83 「接続—Java クライアント AP」を参照)とこのボタンが有効になります。これをクリックして GUI メインページへと切り替えてください。GUI メインページは p.88 で説明します。

接続ーJava クライアント AP

KL1508Ai/KL1516Ai に接続するには以下の手順に従ってください。

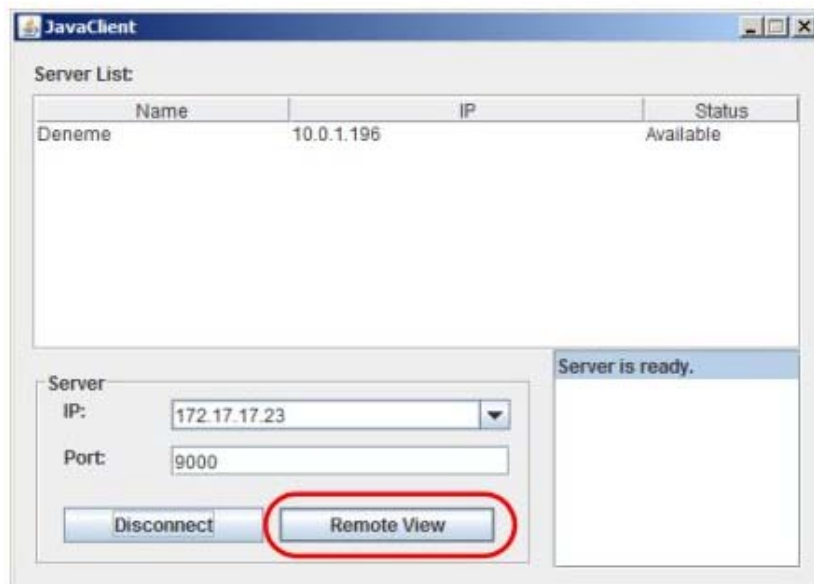
1. サーバーリストボックスから接続したいサーバーを**ダブルクリック**してください。
または、サーバーIP とポート入力ボックスに IP アドレスとポート番号を入力してください。

2. 「**Login**」(ログイン) ボタンをクリックしてください。

ログインダイアログボックスが表示されます。



3. 有効なユーザー名及びパスワードを入力してから「**OK**」ボタンをクリックしてください。
4. 認証されたら「Remote View」(リモートビュー) ボタンが有効になります。



5. 「Remote View」ボタンをクリックして GUI メインページを起動してください。GUI メインページについては p.88 で説明します。

第8章

ユーザーインターフェース

概要

Web ブラウザメインページ

マルチプラットフォームの操作性を確保するため、KL1508Ai/KL1516Ai へのアクセスはほとんどの標準的な Web ブラウザで可能です。ユーザーがログインし、認証を受けると(p.77 参照)、ポートアクセスページが開いた状態で Web ブラウザメインページが表示されます。



注意: この画面はアドミニストレーター用のページです。ユーザーのタイプや操作権限によっては、全ての項目が表示されるわけではありません。

ページ構成

Web ページ画面の構成を下表で説明しています。

番号	項目	説明
1	タブバー	タブバーには KL1508Ai/KL1516Ai のメイン操作項目が含まれています。このタブバーに表示される項目はユーザーアカウントが開設された際のユーザーのタイプと割り当てられた操作権限によって決まります。
2	メニューバー	メニューバーにはタブバーで選択した項目に関連する操作のサブメニューが含まれています。メニューバーに表示される項目はユーザーアカウントが開設された際のユーザーのタイプと割り当てられた操作権限によって決まります。
3	サイドバー	サイドバーでは様々なタブバーやメニューバーの選択に関連したポートをツリー表示します。サイドバーのノードをクリックすると関連する項目の詳細ページが開きます。
4	フィルター	サイドバーの下側にあるフィルターセクションでは下記のようにサイドバーに表示されるポートの範囲を広げたり狭めたりすることができます。 ◆ All (全て): 接続されたポート全てを表示します。 ◆ Quick View (クイックビュー): クイックビューポートとして選択されたポートのみを表示します。 ◆ Power On (電源オン): ポートに接続された電源が入っているデバイスのみを表示します。 ◆ Quick View + Power On: クイックビューポートとして選択され、且つそのポートに接続されたデバイスに電源が入っているもののみを表示します。
5	バージョン情報	本製品の現在のファームウェアバージョンに関する情報を表示します。
6	ログアウト	KL1508Ai/KL1516Ai のセッションからログアウトする際にこのボタンをクリックします。
7	ウェルカムメッセージ	この機能が有効になっている場合 (p.124 「Welcome Message*」参照)、ウェルカムメッセージがここに表示されます。
8	インタラクティブディスプレイパネル	これはメイン作業エリアです。表示される画面はメニューの選択とサイドバーのノード選択に反映します。

Tab Bar (タブバー)

ページのトップにあるタブバーに表示されるアイコンの数と種類はユーザーアカウントが開設された際のユーザーのタイプ(アドミニストレーターまたはユーザー)と割り当てられた権限内容によって決まります。各アイコンに関連する機能については下表で説明します。

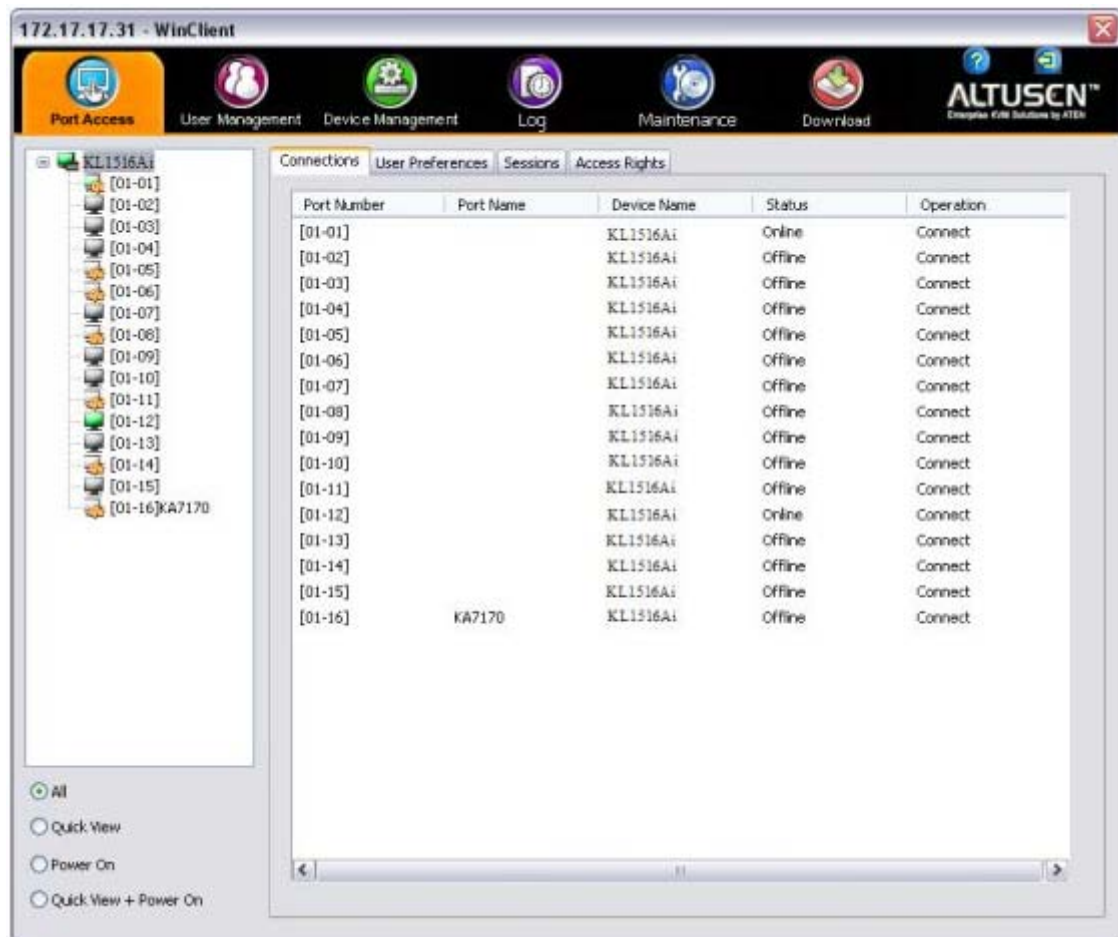
アイコン	機能
	Port Access (ポートアクセス): ポートアクセスページは KL1508Ai/KL1516Ai に接続されたデバイスにアクセスして操作する際に使用します。このページは全ユーザーで利用できます。
	User Management (ユーザー管理): ユーザー管理ページはユーザーやユーザーグループを作成する際に使用します。またユーザーにデバイスを割り当てる際にも使用します。ユーザー管理については p.128 で説明します。このタブはアドミニストレーターとユーザー管理権限を持ったユーザーのみが利用できるため、他のユーザーには表示されません。
	Device Management (デバイス管理): デバイス管理ページは KL1508Ai/KL1516Ai の全体的な操作方法を設定したり管理したりする際に使用します。このタブはアドミニストレーターとデバイス管理権限を持ったユーザーのみが利用できるため、他のユーザーには表示されません。
	Log (ログ): ログページはログファイルの内容を表示します。ログページについては p.158 で説明します。
	Maintenance (保守管理): 保守管理ページは新しいファームウェアをインストールしたり、設定やアカウント情報をバックアップ及び回復させたり、ネットワークデバイスへ ping でパケット送信したり、デフォルト値へ回復させたりする際に使用します。保守管理ページについては p.160 で説明します。このページはアドミニストレーターと保守管理権限を持ったユーザーのみが利用できるため、他のユーザーには表示されません。
	Download (ダウンロード): ユーザーはこのアイコンをクリックして Windows クライアント、Java クライアント及び Log サーバーの AP バージョンをダウンロードできます。このページは全ユーザーが使用できます。ダウンロードできるプログラムは、ユーザーの権限範囲によって異なります。

ページの一番右端には小さなアイコンが 2 つあります。その機能については下表で説明します。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると KVM Over the NET™ スイッチのファームウェアバージョンに関する情報を表したパネルが表示されます。
	このアイコンをクリックすると、ログアウトし、KVM Over the NET™ スイッチのセッションを終了します。

AP GUI メインページ

Windows クライアント AP 及び Java クライアント AP を使用したアクセスでは、ユーザーがログインする(p.75 「ログイン」参照)と、GUI メインページが表示されます。



GUI メインページは Web ブラウザに似ています。2 者の違いは下記の通りです。

1. AP GUI バージョンはタブバーの下メニューバーがなく、代わりにノートで使用するようなタブがあります。しかし、Web ブラウザインターフェースのようにメインタブバーとサイドバーで選択された項目によってタブページの内容の構成が変わります。
2. 画面の上側中央または下側中央に隠れた「Control Panel」(コントロールパネル)は、その位置にマウスを置くと見えるようになります(デフォルトでは画面の中央上部にあります)。

コントロールパネル

Windows クライアントコントロールパネル

Windows クライアントコントロールパネルにはほとんどの機能が含まれているので、この項では Windows クライアントコントロールパネルについて説明します。Java コントロールパネルにはこの Windows クライアントコントロールパネルにある機能が全て同じようにあるわけではなく、両方共にある機能は同じなので、Java コントロールパネルをご使用の際はこの項を参照してください。

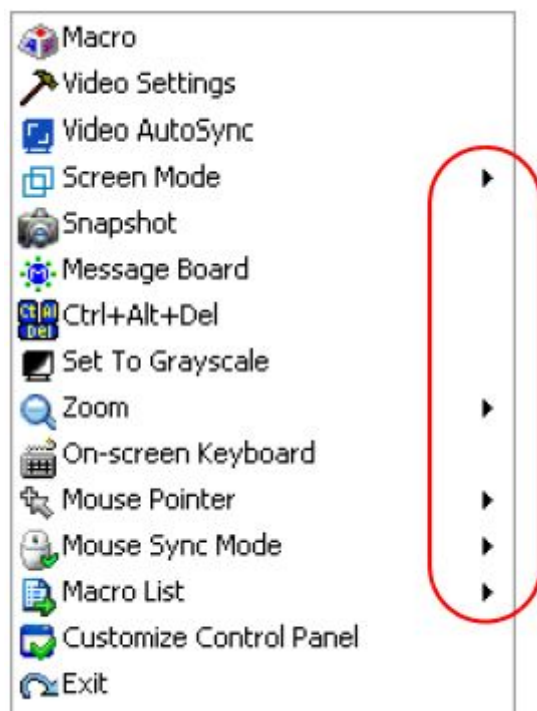
コントロールパネルは画面の上側中央または下側中央に隠れています(デフォルトでは画面上側中央)。その位置にマウスを置くと見えるようになります。パネルは 3 行あり、一番上の行にはアイコンが、中央の行と一番下の行にはテキストが表示されます。



注意: 上図はコントロールパネルの完全な状態を表しています。表示されるアイコンはユーザーで選択ができます。詳細は p.114 「コントロールパネルの設定」を参照してください。

- ◆ デフォルトでは、上側のテキスト行はリモートディスプレイのビデオ解像度を表示します。しかし、マウスポインターをアイコンバーまで動かすと、その上側のテキスト行にはアイコンの機能に関する情報が表示されます。さらに、他のユーザーからメッセージボードにメッセージが入力されたのに、自分自身ではメッセージボードを開いていない場合にはこの上側のテキスト行にそのメッセージが表示されます。
- ◆ 下側の行の左側には自分がアクセスしているデバイスの IP アドレスを表示します。

- ◆ テキスト行のエリアを右クリックするとツールバーのメニュースタイルバージョンが表示されます。さらに、「Screen Mode」(画面モード)、「Zoom」(ズーム)、「Mouse Pointer」(マウスポインター)タイプ及び「Mouse Sync Mode」(マウスの同期モード)のオプションが選択できます。これらの機能については後項で説明します。



- ◆ コントロールパネルを画面の違う場所に移動するにはマウスポインターをテキスト行のエリアまで移動させてから、クリックアンドドラッグしてください。

Windows クライアントコントロールパネル機能

コントロールパネル機能について、下表で説明します。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックするとコントロールパネルは他の画面の上部に常時表示されたままになり、再度クリックすると通常の表示に戻ります。
	クリックすると Macros (マクロ) ダイアログボックスを表示します (詳細は p.93 参照)。
	クリックするとビデオオプションのダイアログボックスを表示します。右クリックすると、クイックオートシンクを実行します (詳細は p.102 「Video Settings(ビデオ設定)」を参照)。
	クリックするとビデオとマウスのオートシンク機能を実行します。これはビデオオプションダイアログボックスの Auto-sync (オートシンク) ボタンをクリックするのと同じです (p.102 「Video Settings(ビデオ設定)」参照)。
	フルスクリーンモードとウィンドウモードと交互にディスプレイを切り替えます。
	クリックするとリモートディスプレイのスナップショット (画面キャプチャー) を撮ります。スナップショットのパラメーターに関する詳細は p.115 「Snapshot」を参照してください。
	クリックするとメッセージボードが開きます (p.106 「Message Board (メッセージボード)」参照)。
	クリックするとリモートシステムへ [Ctrl+Alt+Del] 信号を送ります。
	クリックすると、リモートディスプレイをカラーまたは白黒画面と交互に表示します。
	クリックするとリモートディスプレイのウィンドウをズームします。 注意: この機能はウィンドウモードでのみ利用できます (フルスクリーンモードでは無効)。詳細は p.108 「Zoom(ズーム)」を参照してください。
	クリックするとオンスクリーンキーボードが表示されます (p.109 「On-Screen Keyboard(オンスクリーンキーボード)」参照)。

(表は次ページへと続きます。)

アイコン	機能
	クリックするとマウスポインターのタイプを選択します。 注意:このアイコンはどのマウスポインターを選択したかによって異なります (p.111 「Mouse Pointer Type(マウスポインターのタイプ)」参照)。
	クリックするとマウスシンクを自動または手動設定するかを交互に選択できます。 ◆ 自動を選択するとアイコンに緑色の✓マークが表示されます。 ◆ 手動を選択するとアイコンに赤色の×が表示されます。 この機能に関する詳細は p.112 「Mouse DynaSync Mode(マウスダイナシンクモード)」を参照してください。
	クリックするとマクロダイアログボックスを使用するよりも便利にマクロにアクセスして実行するためのユーザーマクロのリストをドロップダウン表示します (上表の「マクロ」アイコン及び p.93 「Macros(マクロ)」の項参照)。
	クリックするとコントロールパネル設定のダイアログボックスを表示します。コントロールパネルの設定に関する詳細は p.114 「コントロールパネルの設定」を参照してください。
	クリックするとビューアーを終了します。 ◆ ブラウザビューアーを終了すると、Web ブラウザのメインページに戻ります。 ◆ Win Client AP セッションを終了すると、ログインダイアログボックスに戻ります。 ◆ Java クライアント AP セッションを終了すると、ログインダイアログボックスに戻ります。
	これらのアイコンはリモートコンピューターの[Num Lock]、[Caps Lock]及び[Scroll Lock]の状態を表します。 ◆ [Lock]の状況が「On」である場合、LED は明るいグリーンでロックの留め金は閉められています。 ◆ [Lock]の状況が「Off」である場合、LED は暗いグリーンでロックの留め金は開けられています。 このアイコンをクリックすると状態は交互に切り替わります。 注意:このアイコンはローカルキーボードアイコンと同期しています。アイコンをクリックするとご使用のキーボードの LED がそれに応じます。同様にキーボードの[Lock]キーを押すとアイコンの色もそれに応じて変化します。



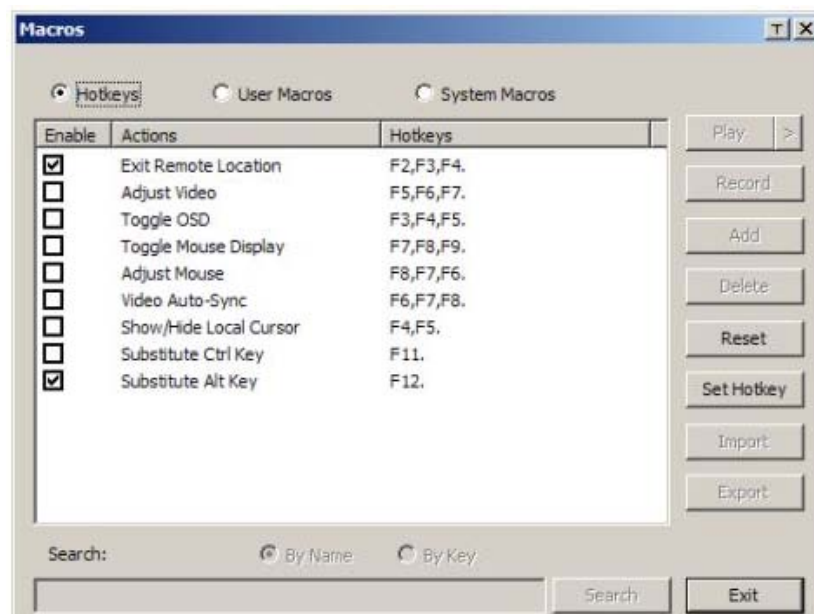
Macros (マクロ)

マクロアイコンでは、マクロダイアログボックスにあるホットキー及びユーザーマクロの 2 つの機能へアクセスすることができます。各機能については以下の項で説明します。

Hotkey (ホットキー)

リモートサーバーの操作に関連する様々なアクションは、ホットキーで遂行することができます。ホットキーセットアップユーティリティ(このアイコンをクリックしてアクセス可能)を使用して、どのホットキーがアクションを行うかを設定します。

アクションを行うホットキーはアクション名の右側に表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効/無効を設定してください。



アクションを実行するホットキーを変更するには以下の手順に従ってください。

1. 「Action」をハイライトしてから「**Set Hotkey**」(ホットキーの設定)ボタンをクリックしてください。
2. 選択したファンクションキーを押してください(1 回につき 1 つのみ)。選択した通りのキー名が「Hotkey」の場所に表示されます。
 - ◆ キー入力の順番が異なる限り、同じファンクションキーを 2 つ以上のアクションに使用することができます。
 - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」ボタンをクリックしてください。アクションのホットキーの場所を消去するには「**Clear**」ボタンをクリックしてください。
3. ホットキーを配列し、その入力が終了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

ホットキー全てをデフォルト値にリセットするには、「**Reset**」(リセット)ボタンをクリックしてください。

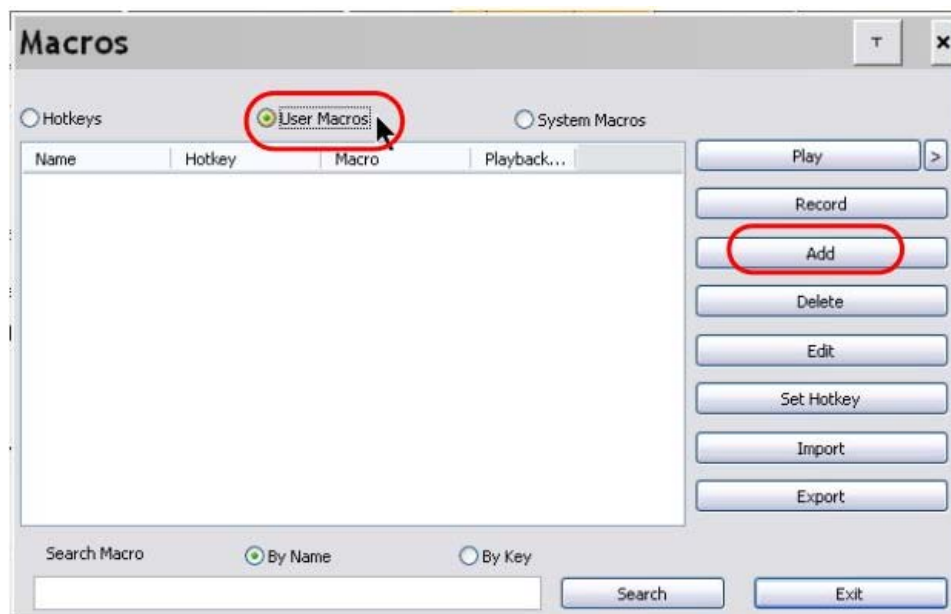
ホットキーアクションに関する説明は下表の通りです。

アクション	説明
Exit Remote Location	KL1508Ai/KL1516Ai への接続を切断し、ローカルクライアントコンピューターの操作へと戻ります。これはコントロールパネルの「Exit」アイコンをクリックする動作と同じです。デフォルトホットキーは、[F2][F3][F4]です。
Adjust Video	ビデオ設定ダイアログボックスを起動します。これはコントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックする動作と同じです。デフォルトホットキーは[F5][F6][F7]です。
Toggle OSD	OSD コントロールパネルを On と Off の交互に切り替えます。デフォルトホットキーは[F3][F4][F5]です。
Toggle Mouse Display	マウスポインターが 2 つ(ローカルとリモート)表示されて混乱する、または困る場合、この機能を使用すれば、機能していないポインターをかくらうじてわかる程度の大きさの円にまで縮小して、無視できるようになります。この機能は交互に切り替わるので再びこのホットキーを使用すればマウスポインターの表示を元の設定に戻すことができます。これはコントロールパネルの「マウスポインター」アイコンから「Single」(シングル)ポインターを選択するのと同じです。デフォルトホットキーは[F7][F8][F9]です。 注意: Java コントロールパネルではこの機能は使用できません。
Adjust Mouse	これはローカルとリモートのマウスの動作を同期するものです。デフォルトホットキーは[F6][F7][F8]です。
Video Autosync	これはオートシンク操作を行うもので、コントロールパネルの「ビデオオートシンク」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトホットキーは[F8][F7][F6]です。
Show/Hide Local Cursor	ローカルマウスポインターの表示を On と Off に交互に切り替えます。これはコントロールパネルにある「マウスポインター」から「Null」(無)ポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトホットキーは[F4][F5]です。
Substitute Ctrl key	ローカルクライアントコンピューターで[Ctrl]キーを組み合わせで使用している場合、その信号がリモートサーバーへ送信されるのを防ぐために[Ctrl]キーの代わりにファンクションキーを指定してリモートサーバーへ送信することができます。例えば[F11]キーを代替キーにして[F11+5]と入力すればリモートサーバーでは[Ctrl+5]と表示されます。デフォルトキーは[F11]です。
Substitute Alt key	キーボード入力のほとんどはキャプチャーされ KL1508Ai/KL1516Ai へと送信されますが、[Alt+Tab]と[Ctrl+Alt+Del]はローカルコンピューターでのみ動作します。リモートサーバーで動作させるには[Alt]キーの代替キーを指定します。例えば[F12]を代替キーにすれば[F12+Tab]と[Ctrl+F12+Del]と入力します。デフォルトキーは[F12]です。

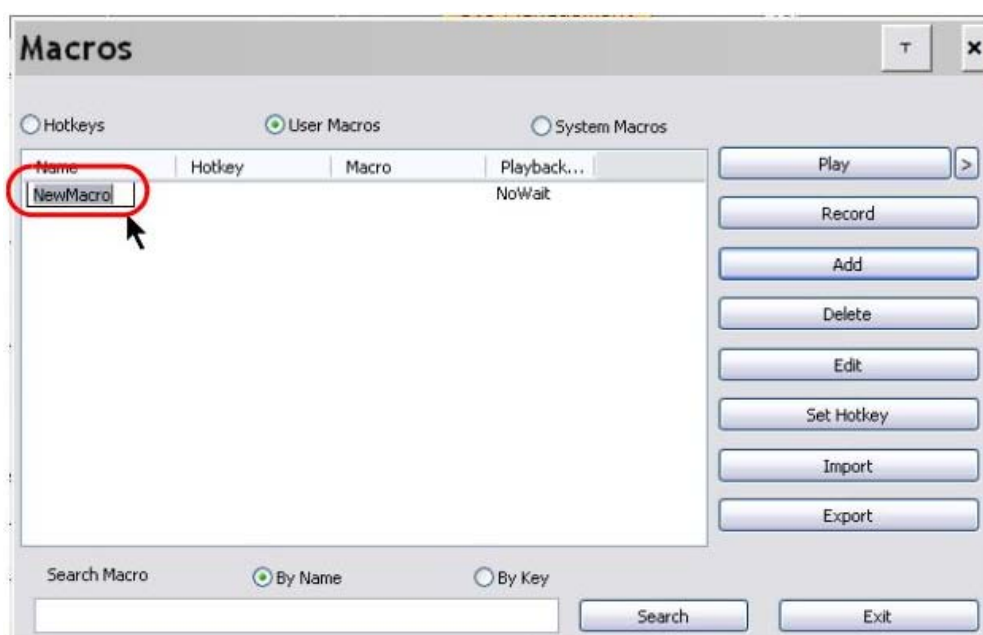
User Macros (ユーザーマクロ)

リモートサーバーで特定のアクションを実行するためにユーザーマクロを作成します。マクロを作成するには以下の手順を行ってください。

1. 「User Macros」を選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。



2. ダイアログボックスが表示されるので、「New Macro」とあるテキストからマクロとして選択した名前に置き換えてください。



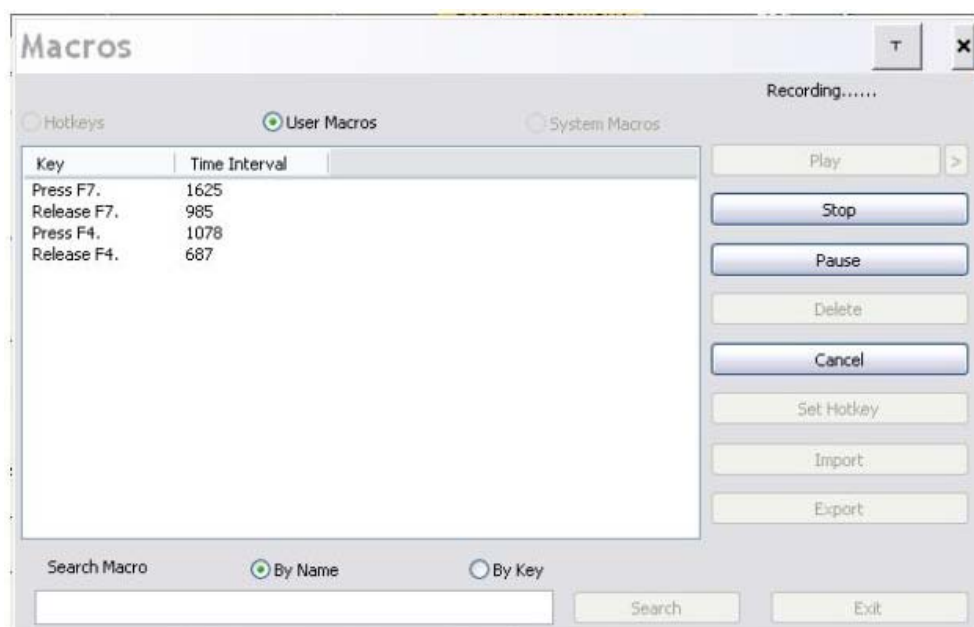
3. 「Record」(記録)をクリックしてください。

ダイアログボックスが表示され、小さいパネルが画面に左上に表示されます。



4. マクロ用のキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を一時停止するには、「Pause」ボタンをクリックしてください。再開するには「Pause」ボタンを再度クリックしてください。
- ◆ 「Show」ボタンをクリックするとキー入力全てとそれぞれにかかった時間をダイアログボックスに一覧表示します。

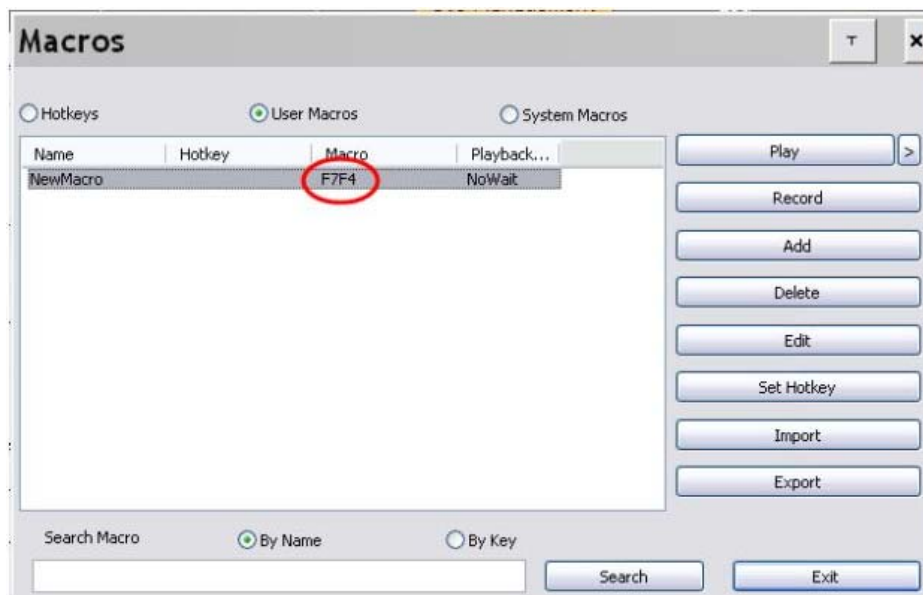


- ◆ キー入力全てをキャンセルするには「Cancel」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 終了する場合は「Stop」ボタンをクリックしてください(これは手順5の「Done」ボタンを押すのと同じです)。

注意:

1. 大文字/小文字は区別しません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
2. マクロの記録中、フォーカスはリモート画面にあり、マクロダイアログボックスにはありません。
3. デフォルトのキーボードの文字だけが使用できます。代替文字は使用できません。例えば繁体字中国語のキーボードデフォルトの文字が[A]である場合、キーボードの入力モードを切り替えて得た代替の漢字は記録されません。

5. 「Show」ダイアログを起動していない場合に、マクロの記録を終了するには、「Done」ボタンをクリックしてください。システムのマクロキー入力が「Macro」の列に表示されると共にマクロダイアログボックスに戻ります。



6. キー入力を変更するにはマクロを選択し、「Edit」ボタンをクリックしてください。「Show」ボタンと似たダイアログボックスが開くので、キー入力の内容や順番を変更してください。
7. 他のマクロを作成するには上記を繰り返してください。

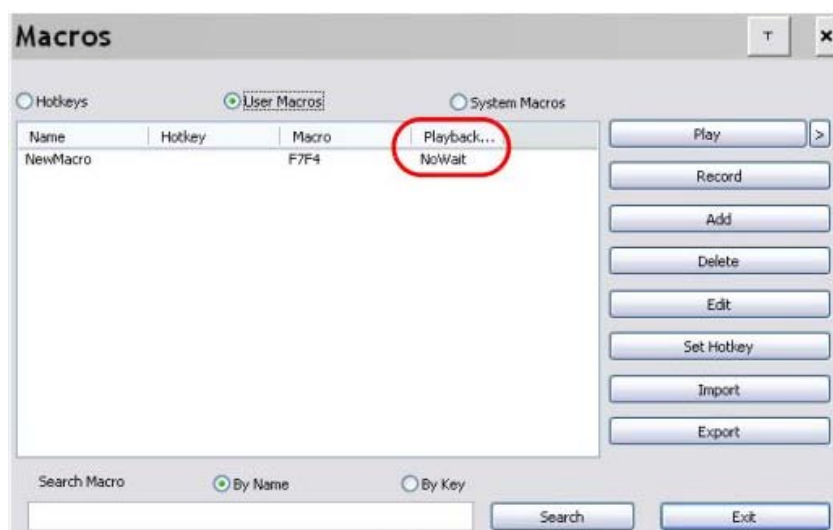
マクロを作成した後、以下 3 通りの方法のいずれかで実行することができます。

1. ホットキーを使用する(ホットキーが割り当てられた場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、実行したいものをクリックする(p.92 参照)。
3. この (Macros) ダイアログボックスを開き、
「Play」ボタンをクリックする。



このダイアログボックスからマクロを実行する場合、どのようにマクロを実行するか、以下のオプションがあります。

- ◆ 「Play Without Wait」を選択すると、マクロはキー入力を次から次へと遅れることなく実行します。
- ◆ 「Play With Time Control」を選択すると、マクロを記録した際のキー入力と、その時のキー入力の時間間隔を再現しながら実行します。決定するには「Play」ボタンの横の矢印をクリックしてください。
- ◆ リストを開かずに「Play」ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトのオプション(「Play Without Wait」または「Play With Time Control」)で実行されます。そのオプションは「Playback」の欄に表示されます。



現在のオプションをクリックするとデフォルトのオプションを他のものへ変更することができます(上図は「Play Without Wait」)。

-
- 注意:**
1. 「Search」(検索)機能については p.99 で説明します。
 2. ユーザーマクロは各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されるので、マクロの数、マクロ名のサイズやそれを起動するホットキーの作成に制限はありません。
-

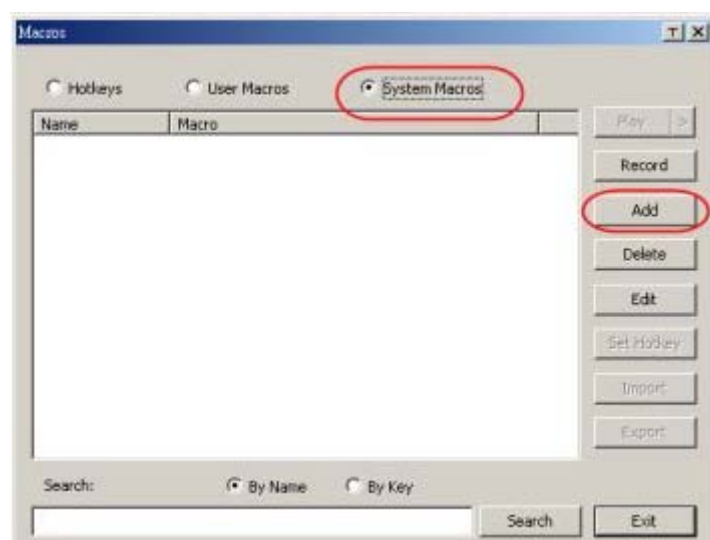
Search（検索）

ダイアログボックスの下側にある「Search」ボタンは、実行したり編集したりする大きな上側のパネルに表示されるマクロのリストをフィルターにかけます。ラジオボタンをクリックして、名前またはキー（文字列の入力）のどちらで検索するかを選択してから、「**Search**」ボタンをクリックしてください。検索の文字に合致するもの全てが上側のパネルに表示されます。

システムマクロ

システムマクロはセッションを閉じる際に終了するマクロを作成するために使用されます。例えば、セキュリティを追加するために、デバイスが次回にアクセスされた時にリモートサーバーのログインページが表示されるよう Windows キーと[L]キーの組み合わせを送信してマクロを作成することができます。マクロを作成するには、下記の手順に従ってください。

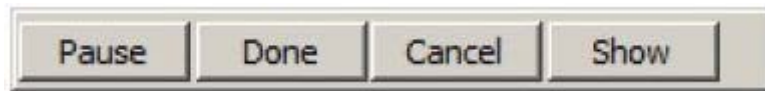
1. 「System Macro」を選択し、[Add] (追加) をクリックしてください。



2. ダイアログボックスが表示されるので、「New Macro」とあるテキストからマクロとして選択した名前に置き換えてください

3. 「Record」(記録)をクリックしてください。

ダイアログボックスが表示され、小さいパネルが画面の左上に表示されます。



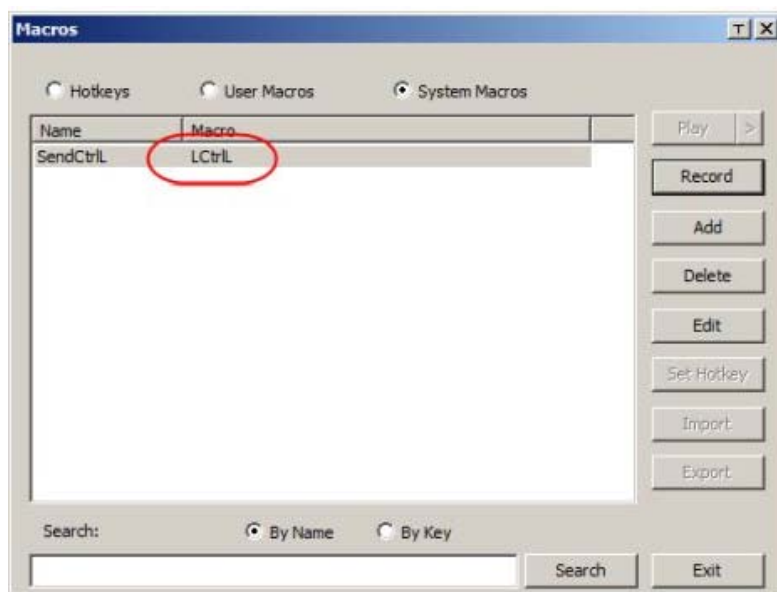
4. マクロ用のキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を一時停止するには、「Pause」ボタンをクリックしてください。再開するには「Pause」ボタンを再度クリックしてください。
- ◆ 「Show」ボタンをクリックするとキー入力全てとそれぞれにかかった時間をダイアログボックスに一覧表示します。

注意: 1. マクロの記録中、フォーカスはリモート画面にあり、マクロダイアログボックスにはありません。

2. 大文字/小文字は区別しません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。デフォルトのキーボードの文字だけが使用できます。代替文字は使用できません。例えば繁体字中国語のキーボードデフォルトの文字が[A]である場合、キーボードの入力モードを切り替えて得た代替の漢字は記録されません。
-

5. 「Show」ダイアログを起動していない場合に、マクロの記録を終了するには、「Done」ボタンをクリックしてください。システムのマクロキー入力が「Macro」の列に表示されると共にマクロダイアログボックスに戻ります。



6. キー入力を変更するにはマクロを選択し、「**Edit**」ボタンをクリックしてください。「Show」ボタンと似たダイアログボックスが開くので、キー入力の内容や順番を変更してください。
7. 他のマクロを作成するには上記を繰り返してください。

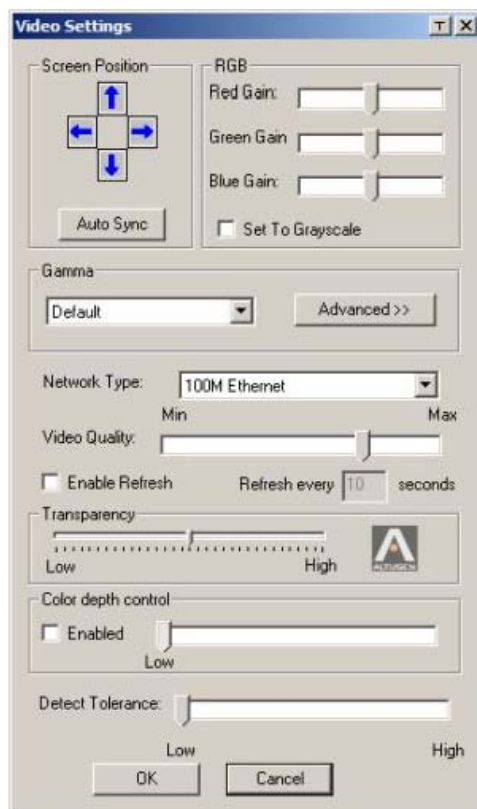
システムマクロが作成させると、それは各ポートで利用することができます。ポートの「Port Configuration」(ポート設定)→「Port Properties」(ポートのプロパティ)ページと選択して設定してください(詳細は p.153 「Port Configuration」(ポート設定) 参照)。

-
- 注意:**
1. 「Search」(検索)機能については p.99 で説明します。
 2. 各ポートに付きシステムマクロ 1 つが選択できます。
 3. システムマクロは製品本体に保存されるので、マクロ名は 64 バイトを超えないように、ホットキーの組み合わせは 256 バイトを超えないようにしてください(各キーは通常 3～5 バイトです)。
-



Video Settings (ビデオ設定)

コントロールパネルのハンマーのアイコンをクリックすると、「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログボックスが起動します。このダイアログボックスのオプションでご使用のモニターでのリモート画面の配置と画質を調整します。



ビデオ調整のオプションの内容は下表の通りです。

オプション	用途
Screen Position	矢印ボタンをクリックしてリモートサーバーウィンドウの水平/垂直位置を調整します。
Auto-Sync	「Auto-Sync」をクリックするとリモート画面の垂直/水平のオフセット値を検出し、自動的にローカル画面と同期させます。 注意: 1. ローカル及びリモートマウスポインターは同期しません。ほとんどの場合、この機能を実行するとポインターは同期されます。 2. この機能は明るい画面でよく動作します。 3. 結果が満足のいくものでなかった場合、「Screen Position」(画面位置)矢印を使用して手動でリモート画面の位置を調整してください。

(表は次ページへと続きます。)

オプション	用途
RGB	RGB(レッド、グリーン、ブルー) 値を調整するにはスライドバーをドラッグしてください。RGB 値が増加すると画像の RGB 構成もそれに合わせて増加します。 「Set Grayscale」(白黒モード)を有効にしている場合、リモートディスプレイはモノクロモードになります。
Gamma	これはビデオ表示のガンマレベルを調整するものです。この機能については次項の「Gamma Adjustment」(ガンマ値調整)で説明します。
Network Type	ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続のタイプを選択してください。本製品ではその選択内容に応じて自動的に画質と許容範囲を検知してビデオ表示を最適化します。 ネットワークの条件は多岐に渡るので、あらかじめ設定した選択があまり適していないようであれば、「Customize」(カスタマイズ)を選択して「Video Quality」(画質)と「Detect Tolerance」(許容範囲の追跡)のスライドバーを使用して、条件に合うように設定を調整してください。
Video Quality	全体的な画質を調整するにはこのスライドバーをドラッグしてください。値が大きくなると画質は良くなりますが、ネットワークの使用帯域が増加します。ネットワークの帯域幅によっては高い値にすると逆にレスポンスタイムに影響を与えます。
Enable Refresh	KL1508Ai/KL1516Ai は画面からブロックノイズ等を取り除くため、1～99 秒ごとに画面を再描画します。「Enable Refresh」(リフレッシュを有効にする)を選択して 1～99 の数字を入力してください。KL1508Ai/KL1516Ai は設定した時間ごとに画面をリフレッシュします。デフォルトではこの機能は無効になっています。この機能を有効にするには「Enable Refresh」の横のボックスをクリックしてチェックマークを入れてください。 注意: 1. 本製品はマウスの動きが止まった時点から時間を計り始めます。 2. この機能を有効にするとネットワークを伝送するビデオデータ量が増加します。低い値に指定するとより多くビデオデータが送信されます。あまりにも低い値に設定すると逆に操作全体的のレスポンスに影響する可能性があります。
Transparency	GUI ホットキー (例:[Scroll Lock][Scroll Lock])を起動して表示されるツールバーの透明度を調節します。見本のウィンドウがお好みの透明度になるまでバーをスライドさせてください。

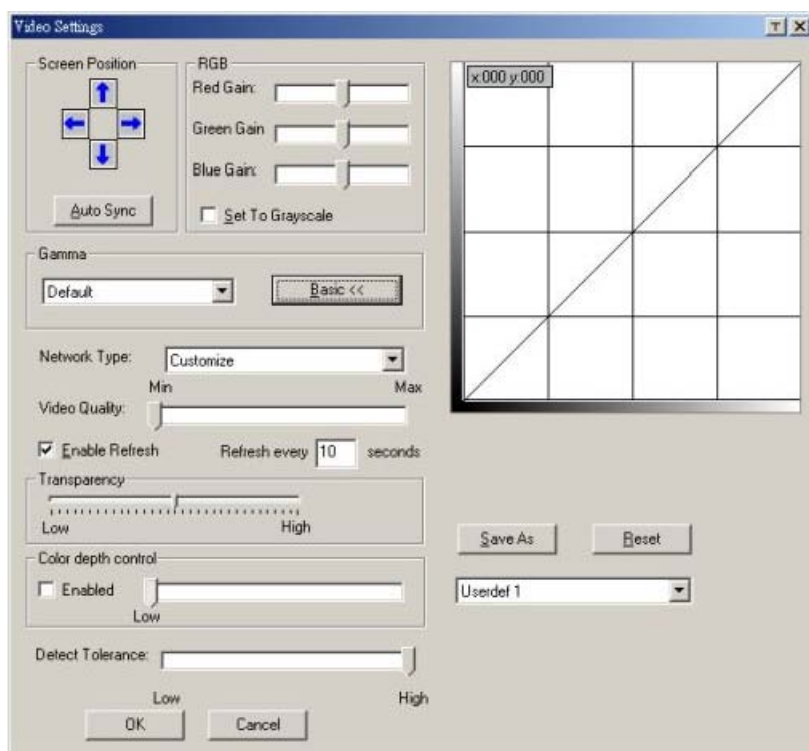
(表は次ページへと続きます。)

オプション	用途
Color Depth Control	この設定は色の情報量を調整してビデオ表示の豊富さを決定します。
Detect Tolerance	この設定は画質に関係し、ピクセル値の変更を検知するかまたは無視するかを管理します。高い設定にするとデータ転送量が減少するため画質が低くなります。低い設定にすると画質は良くなりますが、あまりにも低い値にすると大量のデータが転送されることになるのでネットワークのパフォーマンスに悪い影響を与えることになる可能性があります。

Gamma Adjustment (ガンマ値の調整)

リモートビデオ表示のガンマ値のレベルを修正する必要がある場合は、「Video Adjust」(ビデオ調整)ダイアログボックスの「Gamma」(ガンマ)機能を使用してください。

- ◆ 基本設定では選択できるプリセットが10、ユーザー定義のレベルが4あります。リストボックスをドロップダウンして適切なものを選択してください。
- ◆ さらに良い設定を行うには「Advanced」(上級)ボタンをクリックして以下のダイアログボックスを起動してください。



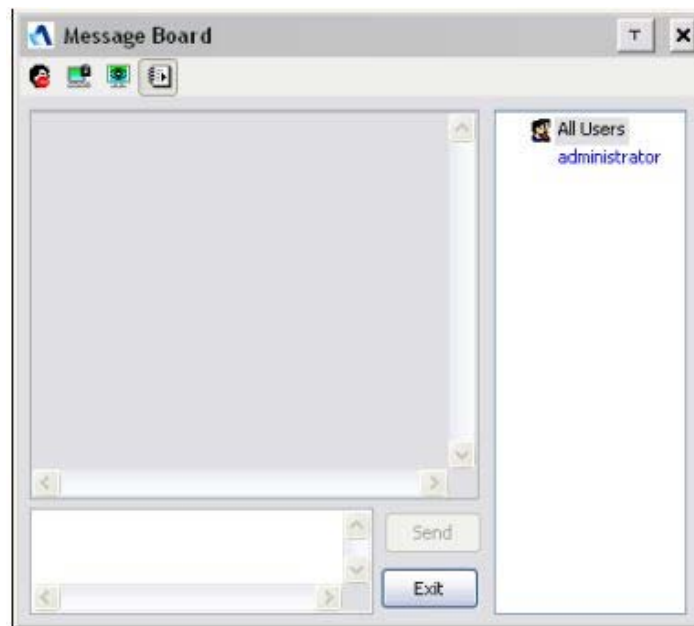
- ◆ ご希望のディスプレイ出力が達成できるのと同数のポイントで対角線をクリックしてドラッグしてください。
- ◆ この方法で設定した4つまでのユーザー定義の設定値を保存するために「Save As」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更を取り消し、ガンマ線を元の対角線の位置に戻すには「Reset」(リセット)ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更を保存したら「OK」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じてください。
- ◆ 変更を取り消すには「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じてください。

注意: 最良の結果を得るためにもリモートサーバーを見ながらガンマの値を変更してください。



Message Board (メッセージボード)

KL1508Ai/KL1516Ai はマルチユーザーログインに対応しているので、アクセスが競合する可能性があります。この問題を軽減するためにメッセージボードが提供されており、ユーザーがお互いに連絡を取り合うことができます。



Button Bar (ボタンバー)

ボタンバーのボタンは交互に切り替えることができます。各動作については下表で説明します。

ボタン	動作
	チャットの有効/無効: 無効にするとボードにアップしたメッセージは表示されません。このボタンはチャットを無効にすると暗くなります。ユーザーがチャット機能が無効にした場合、ユーザーリストパネルのユーザー名の横にアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスの使用/未使用: KVM の使用中、他のユーザーは画像を見ることができず、キーボードとマウス入力はできません。KVM の使用中はこのアイコンが暗くなります。ユーザーが KVM を使用している場合は、ユーザーリストパネルのユーザー名の横にアイコンが表示されます。
	キーボード/マウスの使用/未使用: KM の使用中、他のユーザーは画像を見ることができますが、キーボードとマウス入力はできません。KM の使用中はこのアイコンが暗くなります。ユーザーが KVM を使用している場合は、ユーザーリストパネルのユーザー名の横にアイコンが表示されます。

(表は次ページへと続きます。)

ボタン	動作
	ユーザーリストの表示/非表示: ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルは閉じます。ユーザーリストが開いている場合、ボタンは暗くなります。

メッセージディスプレイパネル

ボードにアップされたメッセージはシステムメッセージと同様にこのパネルに表示されます。しかしチャットを無効にした場合、アップされたメッセージはボードに表示されません。

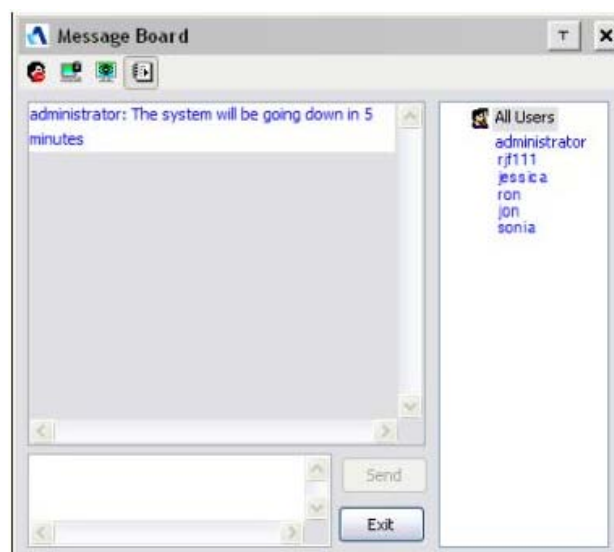
構成パネル

メッセージボードに投稿するメッセージはこのパネルに入力してください。ボードにメッセージを投稿するには「Send」(送信)をクリックするか、または[Enter]キーを入力してください。

ユーザーリストパネル

ログインしているユーザー全ての名前がこのパネルに一覧表示されます。

- ◆ あなたの名前は青字で、その他のユーザー名は黒字で表示されます。
- ◆ デフォルトではメッセージは全員に送られます。メッセージを特定のユーザーに送る場合はメッセージを送信する前にそのユーザー名を選択してください。
- ◆ ユーザー名を選択した後、メッセージをユーザー全員に送信する場合は、メッセージを送信する前に「All Users」(ユーザー全員)を選択してください。
- ◆ ユーザーがチャットを無効にしている場合、ユーザー名の前にアイコンでその旨を表します。
- ◆ ユーザーが KVM または KM を使用している場合、ユーザー名の前にアイコンでその旨を表します。





Zoom (ズーム)

Zoom (ズーム) アイコンはリモートビューウィンドウのズームの倍率を管理します。設定は下表の通りです。

設定	説明
100%	リモートビューウィンドウを 100%のサイズで表示します。
75%	リモートビューウィンドウを 75%のサイズで表示します。
50%	リモートビューウィンドウを 50%のサイズで表示します。
25%	リモートビューウィンドウを 25%のサイズで表示します。
1:1	リモートビューウィンドウを 100%のサイズで表示します。本設定と 100%に設定したものとの違いはリモートビューウィンドウがサイズ変更される場合、その内容がサイズ変更しないということです。つまり元のサイズのままということです。閲覧範囲外にあるものを見るには、マウスをウィンドウの端まで動かしてから画面をスクロールしてください。



On-Screen Keyboard (オンスクリーンキーボード)

KL1508Ai/KL1516Ai は多言語が利用できるように、各言語に合わせた標準キーを備えたオンスクリーンキーボードに対応しています。オンスクリーンキーボードを表示するにはこのアイコンをクリックしてください。



オンスクリーンキーボードを使用する最大のメリットはリモートとローカルシステムのキーボード言語が異なる場合に、どちらかのシステムの設定を変更する必要がなくなることです。オンスクリーンキーボードを起動してアクセスするサーバーで使用している言語を選択し、それからそのオンスクリーンキーボードを使用して通信することができます。

注意： キーはマウスでクリックしてください。実際のキーボードは使用できません。

言語の変更

言語を変更するには、以下の手順に従ってください。

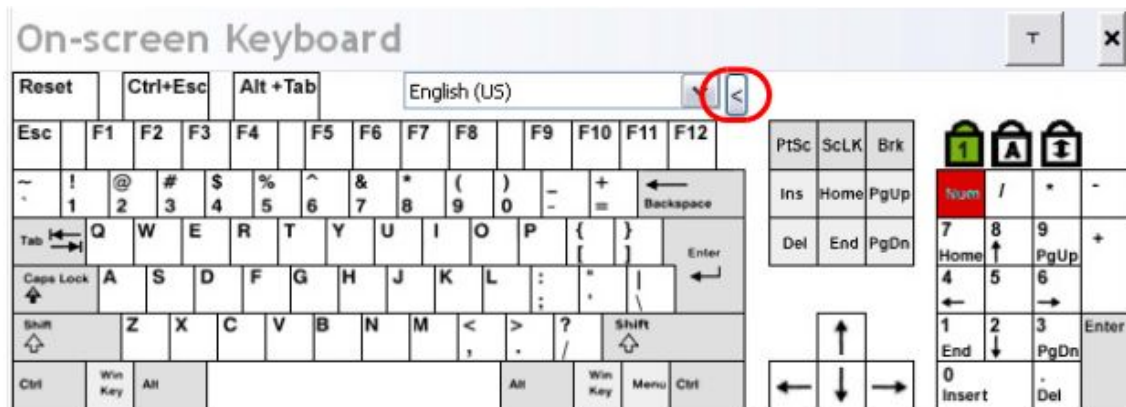
1. 現在選択している言語の隣にある逆三角形をクリックして言語リストをドロップダウンしてください。



2. リストから言語を選択してください。

キーボードの拡大

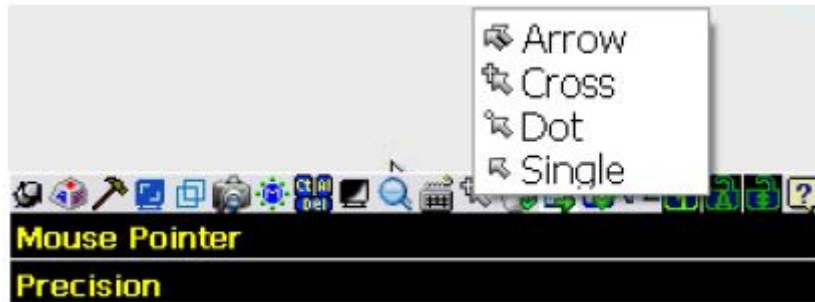
拡大キーボードキーを表示/非表示するには言語リストの逆三角形の右側にある矢印をクリックしてください。





Mouse Pointer Type (マウスポインターのタイプ)

KL1508Ai/KL1516Ai にはリモートディスプレイで動作するマウスポインターのオプションがいくつかあります。利用できるオプションを選択するにはこのアイコンをクリックしてください。



-
- 注意:**
1. ポートにアクセスする前は「Dual」(2 重ポインター)と「Crosshairs」(十字ポインター)のみが Windows ビューアーで使用できます。ポートにアクセスしたら、4 種類のポインターが利用できます。
 2. 「Dot」(ドット)ポインターは Java アプレットビューアーまたは Java クライアント AP では使用できません。
 3. ドットポインターを選択することは「Toggle mouse display」(マウス表示の切替)ホットキーと同じです(詳細は p.94 「Toggle mouse display」参照)。
 4. コントロールパネルのアイコンは選択したものに合うように変更します。
-



Mouse DynaSync Mode (マウスダイナシンクモード)

ローカルとリモートのマウスポインターを同期する方法は自動と手動の 2 通りがあります。

マウスの自動同期化「DynaSync」

「Mouse DynaSync」(マウスダイナシンク)はリモートとローカルのマウスポインターを自動的に固定するので、定期的に 2 つのポインターの動きを再同期化する作業が省けます。

注意: この機能は OS が Windows と Mac(G4 以降)で、そのコンピューターに接続されたコンピューターモジュールも Windows または Mac に設定された KA7170 である場合にご利用いただけます。

その他のマウスの同期化設定全ては手動で行ってください(詳細は次項で説明します)。

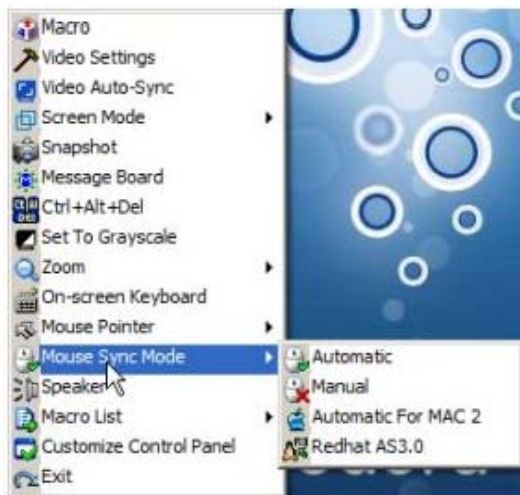
コントロールパネルのアイコンは、下表のような同期モードの状況を表しています。

アイコン	機能
	グレーで表示されたこのアイコンはマウスダイナシンク機能が利用できないことを示しているので、手動で同期作業を行ってください。これは KA7170 以外のコンピューターモジュール全てでのデフォルト値となっています。
	アイコンに緑色のチェックマークが付いている場合はマウスダイナシンク機能が利用でき、且つ 有効 であることを示しています。マウスダイナシンクが利用できる場合、これがデフォルト値となっています(上記を参照)。
	アイコンにレッドの×が付いている場合はマウスダイナシンクが利用できますが、 無効 となっていることを示しています。

マウスダイナシンクが利用できる場合、アイコンをクリックすれば有効/無効を交互に切り替えることができます。マウスダイナシンクモードを無効と設定した場合、p.113 「手動によるマウスの同期化」に記載した手順に従って手動で同期化させる必要があります。

Mac 及び Linux をご使用の場合

- ◆ Mac OS バージョン 10.4.11 以降をご使用の場合、2 つ目のダイナシンク設定方法があります。デフォルトのマウスダイナシンクの結果が満足のいくものでなかった場合、「Mac 2」設定を試してください。「Mac 2」設定を選択するには、コントロールパネルのテキストエリアを右クリックしてから「Mouse Sync Mode」(マウス同期モード)→「Automatic for Mac 2」(Mac 2 へ自動設定)を選択してください。



- ◆ Linux ではマウスダイナシンクモードに対応しておりませんが、Redhat AS3.0 に対してはマウス同期モードメニュー設定が使用できます。USB タイプのコンピューターモジュール(前ページの「注意」参照)及び Redhat AS3.0 を使用していて、デフォルトのマウス同期がうまくいかない場合は Redhat AS3.0 設定を試してください。Redhat AS3.0 以外の場合は、次項で説明するように手動でマウスを同期しなければなりません。

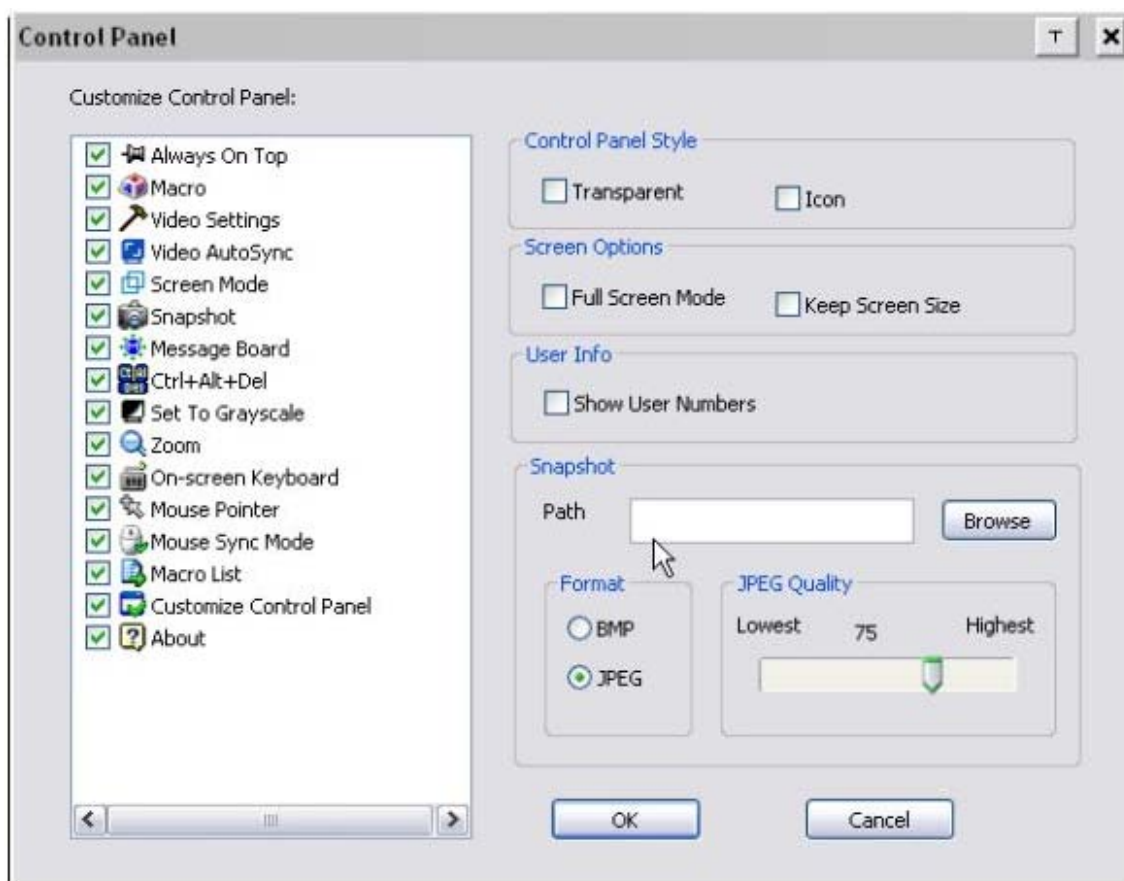
手動によるマウスの同期化

ローカルマウスポインターがリモートシステムのマウスポインターと同期しない場合、それを同期させる方法はいくつかあります。

1. コントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックして、ビデオとマウスの自動同期を実行してください(p.102 参照)。
2. ビデオ調整機能で「Auto Sync」(自動同期)を実行してください(詳細は p.102 「ビデオ設定」を参照)。
3. マウス調整ホットキーを使用してマウス調整機能を起動してください(詳細は p.94 「Adjust Mouse」を参照)
4. マウスポインターを画面の 4 つ角全てに移動してください(移動の順番は任意)。
5. コントロールパネルを画面の他の位置にドラッグしてください。
6. 本体に接続された、問題がある各サーバーでマウスポインターの速度と精度を設定してください。設定の仕方は p.215 「マウス同期の追加手順」を参照してください。

コントロールパネルの設定

コントロールパネルのアイコンをクリックしてダイアログボックスを表示すると、コントロールパネルにあるアイテムとグラフィックが設定できます。



ダイアログボックスの構成は下表の通りです。

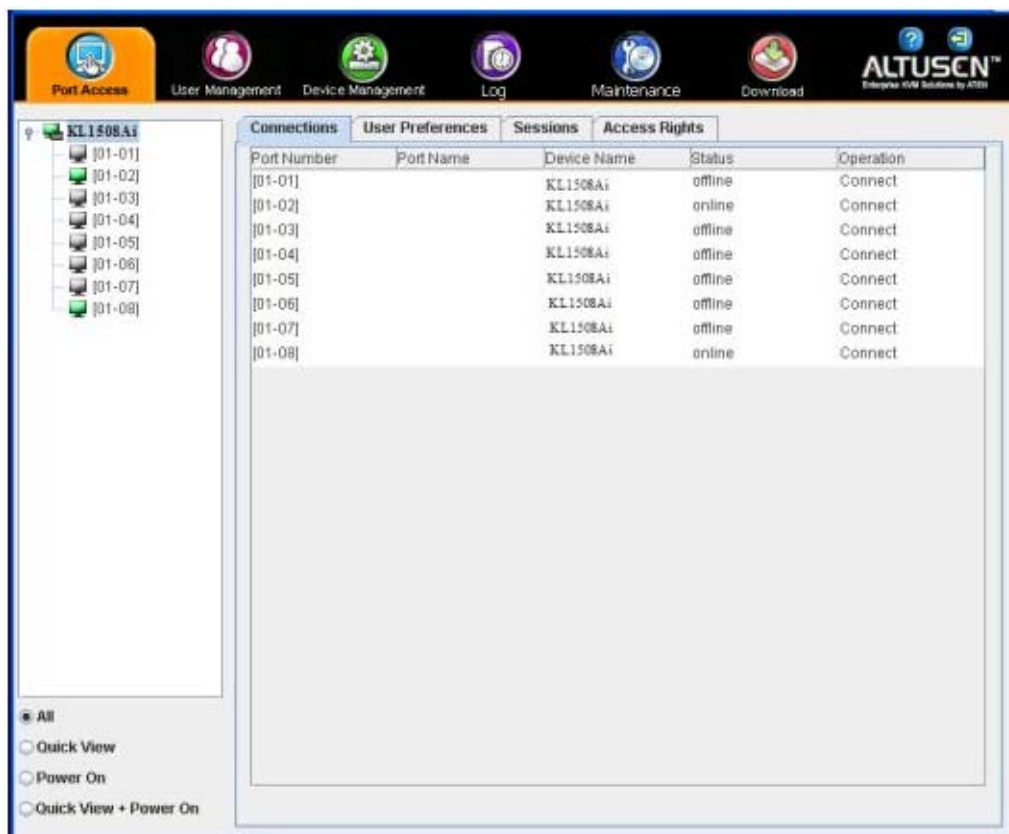
アイテム	説明
Customize Control Panel	コントロールパネルに表示するアイコンが選択できます。表示するアイコンにはチェックを入れ、表示しないアイコンにはチェックを入れないでください。
Control Panel Style	◆ 「Transparent」(透明)を有効にすると、コントロールパネルが半透明になりその下にある画面が透けて見えるようになります。 ◆ 「Icon」(アイコン)を有効にすると、コントロールパネルがアイコンとして表示され、そこにマウスを動かすとパネルがフル表示されるようになります。

(表は次ページへと続きます。)

アイテム	説明
Screen Options	◆ 「Full Screen」(フルスクリーン)モードが有効である場合、リモート画面が画面全体に映し出されます。 ◆ 「Full Screen」(フルスクリーン)モードが無効である場合、リモート画面はローカルデスクトップ画面にウィンドウとして表示されます。リモート画面がウィンドウより大きい場合、マウスポインターを見たい場所の近くにあるウィンドウの端まで動かすと、画面がスクロールします。 ◆ 「Keep Screen Size」(画面サイズの保持)を有効にすると、リモート画面はサイズ変更されません。 ➤ リモートの解像度がローカルモニターのより小さい場合、画面中央にウィンドウのように表示されます。 ➤ リモートの解像度がローカルモニターのより大きい場合、それは画面にセンタリングされます。画面に表示されていない範囲にアクセスするにはその見たい場所から一番近い所にある画面の角までマウスを動かすと、画面がスクロールします。 ◆ 「Keep Screen Size」(画面サイズの保持)を無効にすると、リモート画面はローカルモニターの解像度に合うようにサイズ変更されます。
User Info	「User Info」(ユーザー情報)が有効になっている場合、ユーザーの合計数がコントロールパネルの一番下の行の中央に表示されます。
Snapshot	この設定を使用するとユーザーは KL1508Ai/KL1516Ai のスクリーンキャプチャーのパラメーターが設定できます(詳細は p.91 「Windows クライアントコントロールパネル機能」の「スナップショット」を参照)。 ◆ 「Path」(パス)ではキャプチャーされた画面が自動的に保存されたディレクトリを選択します。「Browse」(閲覧)をクリックしてオプションのディレクトリを選択してから「OK」をクリックしてください。ディレクトリをここに明記したくない場合、スナップショットはご使用のデスクトップに保存されます。 ◆ キャプチャーした画面をBMPまたはJPEG(JPG)ファイルのどちらで保存するか、ラジオボタンを選択してクリックしてください。 ◆ JPEG ファイルを選択した場合、スライダーを使用して、キャプチャーしたファイルの画質を選択することができます。高品質にすると、画像イメージがよりよくなりますが、ファイルサイズも大きくなります。

Java コントロールパネル

Java クライアント AP コントロールパネルは Windows クライアントで使用されているパネルと似ています。



2 者の主な違いは下記の通りです。

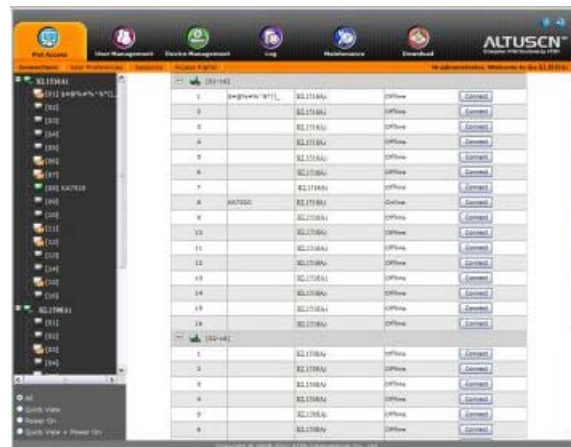
- ◆ 「Macros」(マクロ)ダイアログボックスでは「Toggle Mouse Display」(マウス表示の切替)はご利用できません。
- ◆ 「Dot」(ドット)マウスポインターはご利用できません。
- ◆ メッセージボードではユーザーリストを表示/非表示できる「Show/Hide」ボタンがありません。メイン画面とユーザーリストパネルを分けるバーの上にある矢印をクリックすれば、この機能がご利用いただけます。
- ◆ コントロールパネルの「Lock LED」アイコンはご使用のキーボードと同期していません。初回接続時はLED 表示が正しくない可能性があります。確実にするために、LED アイコンをクリックしてそれらを設定してください。
- ◆ 「Control Panel Configuration」(コントロールパネル設定)では、BMP スナップショットフォーマットは PNG に置き換わっています。

第9章 ポートアクセス

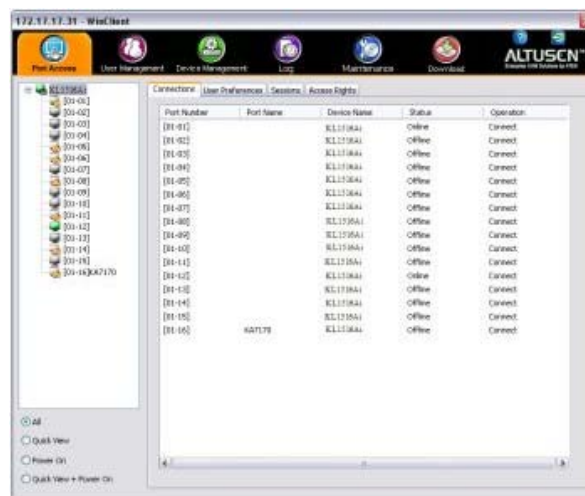
概要

製品にログインすると KL1508Ai/KL1516Ai の KVM 接続ページが表示されたポートアクセスページが表示されます。

ブラウザ GUI



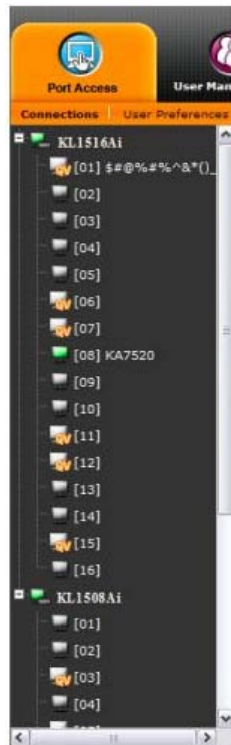
AP GUI



接続用ページはいくつかのメインエリアから構成されています。ユーザーがアクセスを許可されたデバイスとポート全てがこのページの左側にあるサイドバーに表示されます。サイドバーにあるポートまたはデバイスを選択してからメニューバー(ブラウザ GUI)またはタブバー(AP GUI)のエントリーをクリックすると、サイドバーで選択したアイテムに関する情報と設定ページが開きます。

サイドバー

KVM スイッチ全てが画面の左側にあるサイドバーにツリー構造で表示されます。

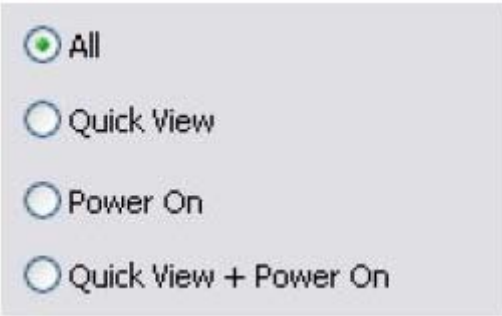


サイドバーのツリー構造

- ◆ ユーザーはアクセスが許可されたデバイスとポートだけを見ることができます。
- ◆ ポートと子機は親機の下に、入れ子表示させることができます。
ツリーを展開し、その下にあるポート/アウトレットを見るにはデバイスの前の「+」をクリックしてください。ツリーを折りたたんで下位層にあるポート/アウトレットを隠すには「-」をクリックしてください。
- ◆ ポート ID 番号はアイコンの横の角括弧に表示されます。
- ◆ オンライン中のユニットとポートではモニター画面のアイコンがグリーンになります。オフライン中のデバイスとポートはモニター画面がグレーになります。
- ◆ On であるアウトレットのアイコンはオレンジ色になり Off であるアウトレットのアイコンはグレーになります。
- ◆ ポートにアクセスして操作するにはそのアイコンをダブルクリックしてください。ポートの操作方法の詳細は p.177 「第 16 章ポート操作」で説明します。

表示フィルター

サイドバーの下にはサイドバーに表示するポートの数と種類が選択できる表示フィルターオプションがあります。



オプションの意味は下表の通りです。

オプション	説明
ALL	接続されたポート全てを表示します。
QUICK VIEW	クイックビューポートとして選択されたポートのみを表示します (p.56 「SET QUICK VIEW PORT」参照)
POWER ON	電源が入ったコンピューターが接続されているポートのみを表示します。
QUICK VIEW + POWER ON	クイックビューポートとして選択されたポート (p.56 「SET QUICK VIEW PORT」参照) であり、且つそのポートに電源が入ったコンピューターが接続されているもののみを表示します。

Connection (接続)

KL1508Ai/KL1516Ai では、「Connection」(接続) ページはデバイスレベルでポートステータス情報を表示し、ポート接続設定のオプションはポートレベルで表示します。

デバイスレベル

KL1508Ai/KL1516Ai がサイドバーで選択されている場合、接続ページにはユーザーがアクセスまたは閲覧を許可されているデバイスのポートのリストが表示されます。

Port Number	Port Name	Device Name	Status	Operation
[01-16]				
1	PMSSPS	KL1516Ai	Offline	Connect
2		KL1516Ai	Offline	Connect
3		KL1516Ai	Offline	Connect
4		KL1516Ai	Offline	Connect
5		KL1516Ai	Offline	Connect
6		KL1516Ai	Offline	Connect
7		KL1516Ai	Offline	Connect
8	KA7520	KL1516Ai	Online	Connect
9		KL1516Ai	Offline	Connect
10		KL1516Ai	Offline	Connect
11		KL1516Ai	Offline	Connect
12		KL1516Ai	Offline	Connect
13		KL1516Ai	Offline	Connect
14		KL1516Ai	Offline	Connect
15		KL1516Ai	Offline	Connect
16		KL1516Ai	Offline	Connect

各デバイスには下記の項目が表示されます。

- ◆ 「Port Number」: ユニットのポート番号。
- ◆ 「Port Name」: ポート名。ポートに名前が割り当てられている場合、ここに表示されます。
- ◆ 「Device Name」: デバイス名。ユニットに名前が割り当てられている場合、ここに表示されます。
- ◆ 「Status」: ポートの現在の状況 (オンラインまたはオフライン)。
- ◆ 「Operation」: 操作。「**Connect**」をクリックするとメインパネルから任意のポートにアクセスできます

注意: 表示された情報のソート順序は列の見出しをクリックして変更することができます。

ポートレベル

サイドバーでポートを選択すると、接続ページはポート接続設定プロパティを表示します。



The image shows a 'Port Configuration' dialog box with the following settings:

Property	Value
Port ID:	01-09
Port Status:	Online
Adapter Type:	KA9170B
Port Name:	
Port OS:	Win
OS Language:	English (US)
Cable Length:	Short
Access Mode:	Share
Exit Macro:	None

At the bottom right of the dialog box is a 'Connect' button.

このページではポートの現在の設定を見ることしかできません。このプロパティの詳細と設定方法については p.153 「Port Configuration(ポート設定)」を参照してください。

KL1508Ai/KL1516Ai に内蔵された Windows ビューアー (Windows インターネットエクスプローラー使用時) または Java ビューアー (その他の Web ブラウザ使用時) を通じてポート表示を見るには「**Connect**」(接続) ボタンをクリックしてください。

User Preference (ユーザー選択)

「User Preference」(ユーザー選択) ページではユーザーが自分の個人的な作業環境を設定することができます。製品内部では各ユーザプロフィールの設定記録を個別に保存し、ログインダイアログボックスに入力されたユーザー名を元に作業設定をセットアップします。

The screenshot shows the 'User Preference' interface. It has two main sections: 'Password' and 'Device Setting'. The 'Password' section includes three input fields for 'Old Password', 'New Password', and 'Confirm Password', with a 'Save' button below. The 'Device Setting' section includes various configuration options: 'Language' (English), 'OSD Hotkey' ([Scroll Lock][Scroll Lock]), 'ID Display' (Port Number + Port Name), 'ID Duration' (1 sec), 'Scan Select' (All), 'Scan Duration' (5 sec), 'Screen Blanker' (0 min), 'Logout Timeout' (0 min), 'Viewer' (Auto Detect / Java Client), and 'Welcome Message' (Hide / Show). Each section has a 'Save' button at the bottom right.

ページ設定は下表の通りです。

設定	説明
パスワードの変更	◆ ブラウザ GUI でパスワードを変更するには、入力ボックスに古いパスワードと新しいパスワードを入力します。新しいパスワードを「Confirm」(確定)入力ボックスに入力してから「Change Password」(パスワード変更)をクリックして変更を適用してください。 ◆ AP GUI バージョンでは「Change Password」(パスワード変更)をクリックしてから古いパスワードと新しいパスワードを各々の入力ボックスに入力します。新しいパスワードを「Confirm」(確定)入力ボックスに入力してから「Save」(保存)をクリックしてください。
Language	インターフェースに表示する言語を選択してください。
OSD Hotkey	どのホットキーで OSD 機能进行操作するか選択してください。デフォルトは [Scroll Lock][Scroll Lock] です。他のホットキーを選択する場合は、ボックスの右にある矢印をクリックして選択リストをドロップダウンしてください。

(表は次ページへと続きます。)

設定	説明
ID Display	以下のポート ID の表示方法を選択してください。「PORT NUMBER」:ポート番号のみ表示、「PORT NAME」:ポート名のみ表示、「PORT NUMBER+PORT NAME」:ポート番号とポート名の表示。デフォルトは「PORT NUMBER+PORT NAME」です。
ID Duration	ポートを変更してからどのくらいの間、ポートIDをモニターに表示するかを決定します。1～255 秒までが選択できます。デフォルトは 3 秒間です。「0」に設定すると、ポート ID は常に表示されます。
Scan Duration	オートスキャンモードで選択されたポートをどのくらいの間表示した後、次のポートへ移動するかを決定します (p.181 「オートスキャン」参照)。1～255 秒の数字を入力してください。デフォルトは 5 秒間です。「0」に設定するとスキャン機能を無効にします。
Screen Blanker	この機能ではコンソールからの入力がない場合に、どれくらいの時間が経つと画面をブランクにするかが設定できます。1～30 分の数字を入力してください。「0」に設定するとこの機能は無効になります。デフォルトは「0」(無効)です。 注意: この機能はローカルコンソールとリモートログインのどちらからでも設定できますが、動作するのはローカルコンソールモニターのみです。
Logout Timeout	この機能ではある時間内にユーザーの入力がない場合にユーザーが自動的にログアウトするように設定できます。KL1508Ai/KL1516Ai に再びアクセスするにはログインすることが必要になります。
Viewer*	この機能ではサーバーにアクセスした際にどちらのビューアーを使用するか選択できます。 ◆ 「Auto Detect」(自動検知):使用されている Web ブラウザに基づいて適切なビューアーを選択します。Windows インターネットエクスプローラーには Windows クライアント、それ以外のブラウザ(例:Firefox)では Java クライアントが選択されます。 ◆ 「Java Client」(Java クライアント):使用している Web ブラウザにかかわらず Java ベースのビューアーを開きます。
Welcome Message*	サブメニューバーにウェルカムメッセージを表示/非表示することが選択できます。デフォルトでは非表示になっています。
Save	ユーザー選択で設定した変更内容を保存するには「Save」(保存)をクリックしてください。

* この項目はブラウザバージョンのみご利用いただけます。

Sessions (セッション)

「Sessions」(セッション) ページでは、アドミニストレーターとユーザー管理の権限を持つユーザーはどのユーザーが現在KL1508Ai/KL1516Aiにログインしているか、そしてその各セッションに関する情報を見ることができます。

Select	Username	IP	Login Time	Client	Category
☐	administrator	10.0.13.226	10:01:16	Browser	Admin

End SessionRefresh

- 注意:**
1. 一般ユーザーはセッションページがご利用いただけません。
 2. ユーザー管理権限を持つユーザーは一般ユーザーのセッションのみを見ることができます。
 3. 表示される情報のソート順序は列の見出しをクリックして変更することができます。

ページの一番上にある見出しはほぼそのままの意味です。「IP」という見出しはユーザーがログインした IP アドレスを参照します。「Login Time」および「Client」ではユーザーがいつどのようにログインしたかを表します。「Category」という見出しではログインしているユーザーのタイプ(Admin:アドミニストレーター、Normal user:ユーザー)を一覧表示します。

このページではまた、アドミニストレーターはメインパネルの一番下にある「**End Session**」(セッション終了)をクリックしてユーザーを選択し、強制的にそのユーザーをログアウトさせることができます。

Access Rights (アクセス権)

アドミニストレーターは「Access Rights」(アクセス権)のページを使用して、ユーザーのポートへのアクセス権と設定権が設定できます。

注意: アクセスページはユーザー管理権のあるユーザーのみに表示され、他のユーザーはご使用いただけません。

ブラウザ GUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、下図のようなメインパネルが表示されます。

Name		Access Rights	
[01-02]			
	administrator		
	jonaschen		
	11111111		

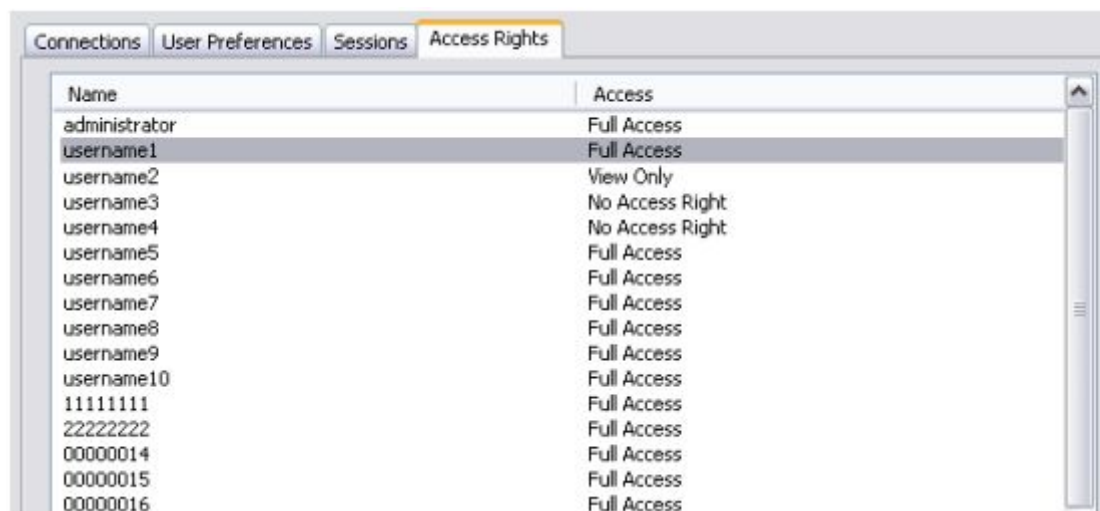
Save

メインパネルは「Name」(名前)と「Access Right」(アクセス権)という 2 列から構成されています。

- ◆ 「Name」では作成したユーザー全てが一覧表示されます。
- ◆ 「Access Right」はアクセスできる特権を持つユーザーを示します。チェックマーク「✓」が付いているユーザーはユニットの構成設定を変更する権限を持ちます(p.135 「第 11 章デバイス管理」参照)。「X」はこのユーザーが構成設定を変更する権限を拒否されたことを意味します。アイコンをクリックして、「Full Access」(フルアクセス)、「View Only」(閲覧のみ)、「No Access」(アクセス不可)のいずれかを選択してください。

AP GUI インターフェース

AP GUI の「Access Rights」(アクセス権)のページはブラウザ GUI バージョン(前ページ参照)と似ていますが、「Access」(アクセス)の列にチェックマークは付きません。



The screenshot shows the 'Access Rights' tab in the AP GUI. It contains a table with two columns: 'Name' and 'Access'. The table lists 17 entries, including 'administrator' and various 'username' and numeric IDs. The 'Access' column shows different levels of access, such as 'Full Access', 'View Only', and 'No Access Right'.

Name	Access
administrator	Full Access
username1	Full Access
username2	View Only
username3	No Access Right
username4	No Access Right
username5	Full Access
username6	Full Access
username7	Full Access
username8	Full Access
username9	Full Access
username10	Full Access
11111111	Full Access
22222222	Full Access
00000014	Full Access
00000015	Full Access
00000016	Full Access

- ◆ 「Access」(アクセス)の列のテキストをクリックして「Full Access」(フルアクセス)、「View Only」(閲覧のみ)、「No Access」(アクセス不可)のいずれかを選択してください。

変更の保存

「Access」(アクセス)ページで行った変更を保存するにはこのページの右下角にある「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

第10章

ユーザー管理

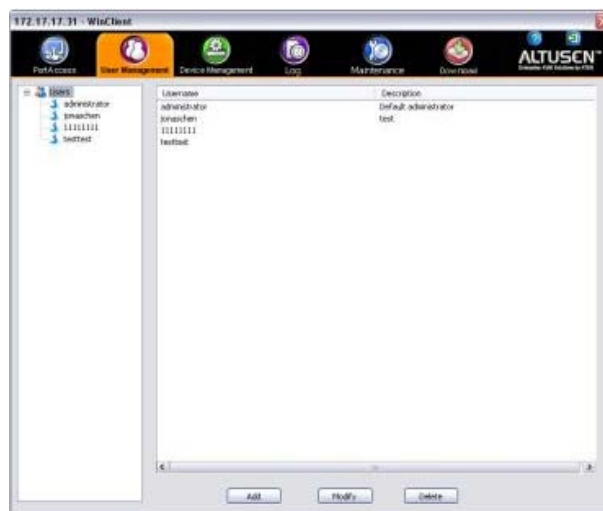
概要

「User Management」(ユーザー管理)のタブを選択すると、「Users」(ユーザー)ページの画面が表示されます。

ブラウザ GUI



AP GUI



- ◆ ユーザーはページの左側のパネルに表示されます。右側の大きなパネルには一目でわかる各ユーザーの詳細情報が表示されます。
- ◆ メインパネルの下側のボタンは次項で説明するように、ユーザーを管理するのに使用します。

Users (ユーザー)

KL1508Ai/KL1516Ai では下表のように 2 種類のユーザーに対応しています。

ユーザータイプ	役割
アドミニストレーター	ポートとデバイスにアクセスし、管理することができます。ユーザーとユーザーグループが管理できます。全体的なセットアップが設定できます。個人的な作業環境が設定できます。
ユーザー	権限を与えられたポートとデバイスにアクセスすることができます。権限を与えられたポートとデバイスを管理することができます。個人的な作業環境が設定できます。 注意: 権限を与えられたユーザーは他のユーザーを管理することもできます。

ユーザーの追加

ユーザーを追加し、権限を割り当てるには下記の手順に従ってください。

1. ブラウザ GUI をご使用の場合は、メニューバーにある「Users」(ユーザー)を選択してください。AP GUI をご使用の場合は、サイドバーにある「Users」(ユーザー)を選択してください。
2. ユーザーを追加するにはメインパネルの一番下にある「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。「User」(ユーザー) タブを選択した状態でユーザーノートが開きます。

User | Devices

User Information

Username:

Password:

Confirm Password:

Description:

Role

☒ Administrator ☐ User

Permissions

☒ Device Management ☒ User Management ☒ System Log ☒ Maintenance

☒ Power Management ☒ Windows Client ☒ Java Client

Save

3. 適切なフィールドに必要事項を入力してください。各欄の説明は下表の通りです。

欄	説明
User Name	1～16 文字までが入力できます。
Password	0～16 文字までが入力できます。
Confirm Password	パスワードに間違いがないように、再度ここにパスワードを入力してください。両方の入力が合致していなければなりません。
Description	追加したいユーザー情報をここに入力します。
Role	「Administrator」(アドミニストレーター)と「User」(ユーザー)という 2 つの分野があります。各分野で作成する数には制限がありません。 ◆ アドミニストレーターはセットアップ全体の設定とメンテナンス、ユーザー管理及びデバイスとポートの割り当てをする責任があります。アドミニストレーターの権限 (p.131 参照) は自動的にシステムによって割り当てられ、変更はできません。 ◆ ユーザーのデフォルトの権限は Win、Java、及び SSH クライアントが含まれますが、個々のユーザーに対し、権限のチェックボックスにチェックを入れるか入れないかを選んで、権限を変更することができます。 注意: ユーザー管理権限を持つユーザーはユーザーグループにアクセスしたり設定したりすることはできません。

(表は次ページへと続きます。)

フィールド	説明
Permissions	◆ 「Device Management」(デバイス管理)を有効にするとユーザーは KL1508Ai/KL1516Ai の操作全体を管理し設定することができます (p.135 「デバイス管理」参照)。 ◆ 「User Management」(ユーザー管理)を有効にするとユーザーはユーザーとグループのアカウントの作成、修正、消去ができます。 ◆ 「System Log」(システムログ)を有効にするとユーザーはシステムログにアクセスすることができます (p.158 「ログ」参照)。 ◆ 「Maintenance」(メンテナンス)を有効にするとユーザーはメンテナンスタブで利用できるメンテナンス操作を実行することができます (p.160 「メンテナンス」参照)。 ◆ 「Power Management」(電源管理)を有効にするとユーザーは Power Over the NetTM のログイン画面に接続できる PON AP がダウンロードできます (電源供給デバイスである ATEN の PN シリーズ製品に関する情報は弊社 Web サイトをご覧ください)。 ◆ 「Windows Client」(Windows クライアント)を有効にするとユーザーはブラウザからのアクセス方法に加え(またはその代わりに)Windows クライアント AP ソフトウェアをダウンロードして KL1508Ai/KL1516Ai にアクセスできます。 ◆ 「Java Client」(Java クライアント)を有効にするとユーザーはブラウザからのアクセス方法に加え(またはその代わりに)Java クライアント AP ソフトウェアをダウンロードして KL1508Ai/KL1516Ai にアクセスできます。

注意:
 一般ユーザーの場合デバイス管理、ポート設定、メンテナンスの権限を有効にすることに加え、それらを行うことを許可された各デバイスとポートに対し、各権限をユーザーに与えなければなりません。詳細は p.133 「デバイスの割り当て」を参照してください。

4. 選択したら、「**Save**」(保存)をクリックしてください。
5. 「Operation Succeeded」(操作成功)のメッセージが表示されたら「**OK**」をクリックしてください。
6. メイン画面に戻るにはサイドバーの「**Users**」(ユーザー)をクリックしてください。サイドバーリストとメインパネルに新しいユーザーが表示されます。
 - ◆ サイドバーの「Users」(ユーザー)リストは広げたり折りたたんだりできます。リストが広がっている場合、それを折りたたむにはユーザーアイコンの横にある「-」(マイナス)マークをクリックしてください。リストが折りたたまれている場合、それを広げるにはアイコンの横の「+」(プラス)マークをクリックしてください。
 - ◆ アドミニストレーターのアイコンには赤いバンドがあります。
 - ◆ 大きなメイン画面にはユーザー名、アカウント作成時に記載した説明、及びアカウントが最近アクティブまたは無効となっているが表示されます。

ユーザーアカウントの修正

ユーザーアカウントを修正するには、下記の手順に従ってください。

1. サイドバーの「Users」(ユーザー)リストにあるユーザー名をクリックしてください。または、メイン画面のユーザー名を選択してください。
2. 「**Modify**」(修正)をクリックしてください。
3. 「User」(ユーザー)ページが表示されるので、内容を変更してから「**Save**」(保存)をクリックしてください。

注意: 「User」(ユーザー)ページについては p.129、「Device」(デバイス)ページについては p.133 を参照してください。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除するには以下の手順に従ってください。

1. メイン画面のユーザー名を選択してください。
2. 「**Delete**」(削除)をクリックしてください。
3. 「**OK**」をクリックしてください。

デバイスの割り当て

ユーザーが KL1508Ai/KL1516Ai にログインすると「Port Access」(ポートアクセス) ページが表示されたインターフェースが表示されます。そして、ユーザーがアクセスを許可されたポート全てがこのページの左側のサイドバーに一覧表示されます。接続されたポートやデバイスへのアクセス権限は「User Management」(ユーザー管理) ページのサイドバーにある「User」(ユーザー) リストからポート毎に割り当てられます。

ユーザーメニューからのデバイスアクセス権限の割り当て

ユーザーメニューからユーザーにデバイスアクセス権限を割り当てるには下記の手順に従ってください。

1. 「User」(ユーザー) リストのユーザー名をクリックしてください。またはメイン画面のユーザー名を選択してください。
2. 「Modify」(修正) をクリックしてください。
3. ユーザーメニューが開いたら「Devices」(デバイス) タブを選択してください。下図に似た画面が表示されます。

Name	Access Rights
 [01-16]	
 [01] PMSSPS	
 [02]	
 [03]	
 [04]	
 [05]	
 [06]	
 [07]	
 [08] KA7520	
 [09]	
 [10]	
 [11]	

4. 下記の情報に基づいて各ポートに権限設定を行ってください。

「Name」(名前) : ユーザーがアクセスできる各ポートは「Names」(名前)の欄に一覧表示されます。

「Access」(アクセス) : 「Access」(アクセス)の欄はデバイスへのアクセス権が設定する場所です。設定したいポートのある行のアイコンをクリックしてオプションを循環表示させてください。アイコンの意味は下表の通りです。

	フルアクセス	ユーザーはリモート画面が閲覧でき、自分のキーボードとモニターからリモートサーバーが操作できます。
	閲覧のみ	ユーザーはリモート画面を閲覧することはできますが、リモートサーバーを操作することはできません。
	アクセス不可	アクセス権がありません。ポートはメイン画面のユーザーリストには表示されません。

5. 選択が終了したら「**Save**」(保存)をクリックしてください。

6. 確認のポップアップが表示されたら「**OK**」をクリックしてください。

注意: どの列においても[Shift]キーを押したままクリック、または[Ctrl]キーを押したままクリックして設定するポートのグループを選択することができます。グループ選択したポートのうち任意のポート 1 つをクリックしてオプションを循環表示させると、グループの残りのポートも同じように循環します。

第11章 デバイス管理

KVM デバイス

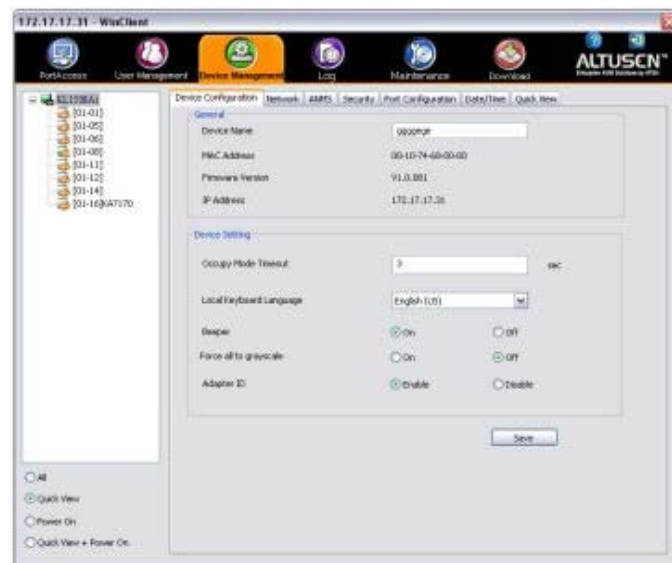
デバイス情報

デバイス管理ページはサイドバーで選択された最上層にある KL1508Ai/KL1516Ai とメニューバーで選択されたデバイス設定項目と共に開きます。

ブラウザ GUI



AP GUI



General (全般)

デバイス管理ページの「General」(全般)のセクションでは選択したデバイス名、ファームウェアバージョン、及びネットワーク設定に関する情報を表示します。

注意: AP GUI バージョンはブラウザバージョンと同じ情報を表示します。追加エントリーを見るにはリストをスクロールしてください。

Device Setting (デバイス設定)

下側のパネルには下記のようにデバイス設定に関する情報が表示されます。

- ◆ ポートの操作モードが「Occupy」(占有)と設定されているポートに対してユーザーの時間閾値を設定するには「Occupy Timeout Mode」(占有時間切れモード)を使用してください(p.153「ポート設定」参照)。ここで設定した時間の間、ユーザーが占有しているポートから何もアクティビティがない場合、ユーザーは時間切れとなり、そのポートへのキーボードとマウスの操作は開放され、その後キーボードとマウス入力をしたユーザーがそのポートを占有できます。しかし、このポートへ元々接続していたユーザーはポートのビデオ出力を見ることができます。デフォルトは 3 分間です。
- ◆ ドロップダウンメニューからローカルキーボードの言語を選択するには、「Use Local Keyboard Language」(ローカルキーボード言語の使用)を使用してください。デフォルトは英語 (US) です。
- ◆ 「Beeper」(ビープ音)を On または Off に切り替えてください。
- ◆ 「Force all to grayscale」(全てを強制的にグレースケール表示にする)を有効にすると KL1508Ai/KL1516Ai に接続されたデバイス全てのリモート画面がグレースケールに変更されます。これは帯域幅が低い時に I/O 送信をスピードアップさせることができます。
- ◆ 「Adapter ID」(コンピューターモジュール ID)機能が有効になっている (デフォルト) 場合、製品本体には各ポートのコンピューターモジュール情報を保存するので、コンピューターモジュールをあるポートから別のポートへ接続した場合でも製品本体は新しい位置でのモジュールのポートプロパティ情報を記憶しています。

Network (ネットワーク)

Network (ネットワーク) メニューはネットワーク環境を設定する際に使用します。

IP Installer
☒ Enabled ☐ View Only ☐ Disabled

Service Ports
Program:
HTTP:
HTTPS:

Network Configuration

IPv4 Configuration
☐ Obtain IP address automatically [DHCP]
☒ Set IP address manually [Fixed IP]
IP Address:
Subnet Mask:
Default Gateway:

☐ Obtain DNS server address automatically
☒ Set DNS server address manually
Preferred DNS server:
Alternate DNS server:

IPv6 Configuration
☒ Obtain IP address automatically [DHCP]
☐ Set IP address manually [Fixed IP]
IP Address:
Prefix Length:
Default Gateway:

☒ Obtain DNS server address automatically
☐ Set DNS server address manually
Preferred DNS server:
Alternate DNS server:

このページの各項目については次項で説明します。

IP Installer (IP インストーラー)

「IP Installer」(IP インストーラー)はKL1508Ai/KL1516AiへIPアドレスを割り当てるWindowsベースの外部ユーティリティです。

IP インストーラーユーティリティの「Enable」(有効)、「View Only」(閲覧のみ)、または「Disable」(無効)を選択するラジオボタンの一つをクリックしてください。IP インストーラーの詳細についてはp.198「IP インストーラー」を参照してください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」(閲覧のみ)を選択した場合、IP インストーラーのデバイスリストにあるKL1508Ai/KL1516Aiを閲覧することができますが、IPアドレスを変更することはできません。
 2. セキュリティ面から、使用後は「View Only」(閲覧のみ)または「Disable」(無効)を選択することを推奨します。
-

Service Ports (サービスポート)

セキュリティの観点からファイアウォールが使用されている場合、アドミニストレーターはファイアウォールが許可するポート番号を設定することができます。デフォルト以外のポートが使用されている場合、ユーザーはログインの際にIPアドレスの一部としてポート番号を設定しなければなりません。無効なポート番号を設定する、またはポート番号を設定しない場合、KL1508Ai/KL1516Aiは見つかりません。下表に各欄の説明を記載しています。

欄	説明
Program	これはWindowsクライアントActiveX Viewer、WindowsクライアントAP、Java アプレットビューアー、Java クライアント AP、またはバーチャルメディアを使用して接続するポート番号です。デフォルトは 9000 です。
HTTP	ブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは 80 です。
HTTPS	暗号化されたブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは 443 です。

-
- 注意:**
1. サービスポートの有効なエントリーは 1～65535 です。
 2. サービスポートは重複することができません。各ポートに異なるポート番号を設定してください。
 3. ファイアウォールがない場合(例:イントラネット)、影響がないのでこれらポート番号設定は重要ではありません。
-

Network Configuration (ネットワーク設定)

◆ IPv4 Configuration (IPv4 設定)

➤ IP Address (IP アドレス)

IPv4 は IP アドレスを設定する際に使用される従来の方法です。KL1508Ai/KL1516Ai は動的に IP アドレスを割り当てる方法 (DHCP) と固定 IP アドレスを割り当てる方法のいずれかの方法で IP アドレスの割り当てができます。

- 動的 IP アドレスの割り当てをするには、「Obtain an IP address automatically」(自動的に IP アドレスを取得する) のラジオボタンを選択してください (デフォルト設定)。
- 固定 IP を設定するには、「Set IP address manually」(手動で IP アドレスを設定する) のラジオボタンを選択し、ご使用のネットワークに適した値を各欄に入力してください。

注意: KL1508Ai/KL1516Ai がネットワークアドレスを割り当てる DHCP を使用したネットワーク上にある場合、IP アドレスを確かめる必要があります。詳細は p.198 「IP アドレスの決定」を参照してください。

◆ DNS Server (DNS サーバー)

- DNS サーバーアドレスの自動割り当てをするには、「Obtain DNS server address automatically」(自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する) のラジオボタンを選択してください。
- 手動で DNS サーバーのアドレスを指定するには、「Set DNS server address manually」(DNS サーバーアドレスを手動で設定する) のラジオボタンを選択し、ご使用ネットワークに適した値を優先及び代替 DNS サーバーの欄に入力してください。

注意: 代替の DNS サーバーアドレスを指定するのはオプションです。

◆ IPv6 Configuration (IPv6 設定)

➤ IP Address (IP アドレス)

IPv6 は IP アドレスを設定する新しい(128 ビット)フォーマットです(詳細は p.200 「IPv6」を参照)。KL1508Ai/KL1516Ai は動的に IP アドレスを割り当てる方法(DHCP)と固定 IP アドレスを割り当てる方法のいずれかの方法で IP アドレスの割り当てができます。

- 動的 IP アドレスの割り当てをするには、「Obtain an IP address automatically」(自動的に IP アドレスを取得する)のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定)。
- 固定 IP を設定するには、「Set IP address manually」(手動で IP アドレスを設定する)のラジオボタンを選択し、ご使用のネットワークに適した値を各欄に入力してください。

◆ DNS Server (DNS サーバー)

➤ DNS サーバーアドレスの自動割り当てをするには、「Obtain DNS server address automatically」(自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する)のラジオボタンを選択してください。

➤ 手動で DNS サーバーのアドレスを指定するには、「Set DNS server address manually」(DNS サーバーアドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、ご使用ネットワークに適した値を優先及び代替 DNS サーバーの欄に入力してください。

注意: 代替の DNS サーバーアドレスを指定するのはオプションです。

ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings、ネットワーク管理の詳細設定) ページは外部からのログイン認証及び承認管理を設定する際に使用します。その構成は下記の通りです。

Event Destination (イベントの通知先)



◆ Log Server (ログサーバー)

「Enable Log Server」(ログサーバーを有効)にチェックを入れると、KL1508Ai/KL1516Ai で起こったログインや内部ステータスメッセージなどの重要なやり取りが自動的にログファイルに保存されます。

- 「MAC address」(MAC アドレス)の欄にログサーバーが作動するコンピューターの MAC アドレスを指定してください。
- 「Port」(ポート)の欄にログの詳細を得るためのログサーバーが作動するコンピューターで使用するサービスポートを指定してください。有効なポート番号は 1～65535 です。デフォルトのポート番号は 9001 です。

注意: ポート番号は「Program」(プログラム)ポートで使ったポート番号とは違う番号にしてください(p.138 「Program」参照)。

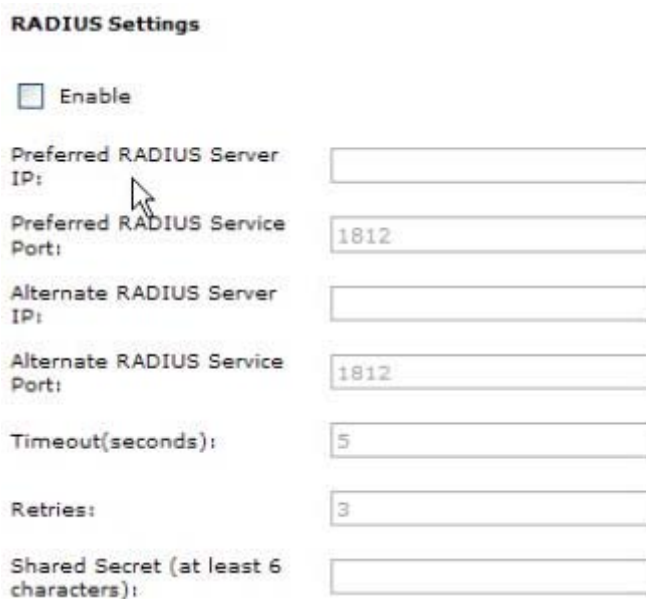
ログサーバーの設定方法については、p.187 「第 17 章ログサーバー」を、ログファイルについては p.159 をそれぞれ参照してください。

Authentication and Authorization (認証及び権限)

◆ Disable Local Authentication (ローカル認証を無効にする)

このオプションを選択すると、KL1508Ai/KL1516Ai のログイン認証機能が無効になります。製品には LDAP、LDAPS、MS Active Directory、RADIUS、または CC マネジメント認証以外からはアクセスできなくなります。

◆ RADIUS 設定



RADIUS Settings

☐ Enable

Preferred RADIUS Server IP:

Preferred RADIUS Service Port:

Alternate RADIUS Server IP:

Alternate RADIUS Service Port:

Timeout(seconds):

Retries:

Shared Secret (at least 6 characters):

RADIUS サーバーを通じて KL1508Ai/KL1516Ai への認証及び権限を許可するには下記の手順に従ってください。

1. 「**Enable**」(有効)をチェックしてください。
2. 優先と代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとサービスポート番号を入力してください。IP の欄では IPv4 アドレス、IPv6 アドレスまたはドメイン名が使用できます。
3. 「Timeout」(時間切れ)の欄では KL1508Ai/KL1516Ai が時間切れになる前に RADIUS サーバーからの応答を何秒間待つかを設定してください。
4. 「Retries」(再試行)の欄では RADIUS が再試行できる回数を設定してください。
5. 「Shared Secret」(共有シークレット)の欄では KL1508Ai/KL1516Ai と RADIUS サーバー間での認証に使われる文字列を入力してください。最低 6 文字が必要です。

6. RADIUS サーバーでユーザーは下記の方法のいずれかで認証を受けます。

- ユーザーのエントリを「su/xxxx」と設定してください。
- 「xxxx」は KL1508Ai/KL1516Ai でアカウントが作成されたユーザーに与えられたユーザー名を表します。
- RADIUS サーバーと KL1508Ai/KL1516Ai とで同じユーザー名を使用してください。
- RADIUS サーバーと KL1508Ai/KL1516Ai とで同じグループ名を使用してください。
- RADIUS サーバーと KL1508Ai/KL1516Ai とで同じユーザー名/グループ名を使用してください。

いずれの場合でもユーザーのアクセス権は KL1508Ai/KL1516Ai でグループユーザーが作成された時に割り当てられたものと同じです (p.129 「ユーザーの追加」参照)。

◆ LDAP/LDAPS の認証及び権限の設定

LDAP/AD Settings

☒ Enable

☐ LDAP ☒ LDAPS

☐ Enable Authorization

Server IP:

Server Port:

Timeout(seconds):

Admin DN:

Password:

Search DN:

Admin Group:

LDAP/LDAPS を通して KL1508Ai/KL1516Ai へ認証及び権限を許可するには、下表を参照してください。

項目	動作
Enable	LDAP/LDAPS での認証及び権限を許可するには「Enable」(有効)チェックボックスにチェックを入れてください。
Type	LDAP または LDAPS のどちらかを特定してラジオボタンをクリックしてください。
LDAP Server IP and Port	LDAP または LDAPS サーバー用の IP アドレスとポート番号を入力してください。 ◆ LDAP Server の欄には IPv4、IPv6 またはドメイン名が使用できます。 ◆ LDAP のデフォルトポート番号は 389、LDAPS のデフォルトポート番号は 636 です。
Timeout	時間切れになる前に KL1508Ai/KL1516Ai が LDAP または LDAPS サーバーからの応答を何秒間待つかを設定してください。
Admin DN	この欄に適したエン트리値を確認するには LDAP/LDAPS サーバー管理者に問い合わせてください。例えばエン트리値は下記のようなものです。 ou=kl1516ai, dc=aten, dc=com
Password	LDAP アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Admin Name	LDAP アドミニストレーターのユーザー名を入力してください。
Search DN	検索ベースの識別された名前を設定してください。これはユーザー名を検索し始めるところのドメイン名です。
Admin Group	KL1508Ai/KL1516Ai のアドミニストレーターユーザー用のグループ名を入力してください。 「Enable Authorization」(権限を有効にする)にチェックが入っていない場合、この欄はログインした権限のあるユーザーに使用されます。ユーザーがこのグループの場合、ユーザーはフルアクセス権を取得します。ユーザーがこのグループでない場合、アクセス権が制限されます。適切な値を確認するには LDAP/LDAPS サーバー管理者に問い合わせてください

LDAP/LDAPS サーバーでは下記のいずれかの方法でユーザーは認証を受けます。

- MS Active Directory スキーマ
- スキーマ無し:KL1508Ai/KL1516Ai で使用されているユーザー名のみが LDAP/LDAPS サーバーでのユーザー名と合致すれば認証されます。ユーザー特権は製品本体で設定されたものと同じになります。
- スキーマ無し:AD のグループが合致すれば認証されます。ユーザー特権はそのユーザーが属しているグループに製品本体で設定されたものと同じになります。
- スキーマ無し:AD のユーザー名とグループが一致すれば認証されます。ユーザー特権はそのユーザー自身に与えられたものとそのユーザーが属しているグループに製品本体で設定されたものと同じになります。

CC Management Setting (CC マネジメント設定)

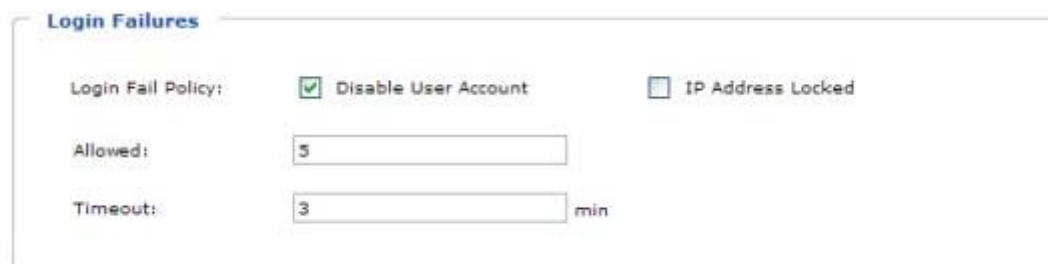
CC (Control Center、コントロールセンター)サーバーを通じた KL1508Ai/KL1516Ai への権限を許可するには「Enable」(有効)にチェックを入れ、適切な欄に CC サーバーの IP アドレスとサービスポートを入力してください。「CC Server IP」(CC サーバーIP)の欄には IPv4、IPv6 またはドメイン名が使用できます。

Security (セキュリティ)

「Security」ページには次項で説明するようなメインパネルが 6 つあります。

Login Failures (ログイン失敗)

セキュリティの観点から、「Login Failure」(ログイン失敗) パネルを使用してアドミニストレーターはユーザーがログインに失敗した際にどのような方針を採るか設定します。



The screenshot shows the 'Login Failures' configuration panel. It has a title bar 'Login Failures'. Below it, there's a 'Login Fail Policy:' label. To its right are two checkboxes: 'Disable User Account' (checked) and 'IP Address Locked' (unchecked). Below these are two input fields: 'Allowed:' with the value '5' and 'Timeout:' with the value '3' followed by 'min'.

ログイン失敗時の方針を設定するには、「Enable」(有効)チェックボックスにチェックを入れてください(デフォルトでは有効です)。項目の意味については下表で説明します。

項目	説明
Disable User Account	これを有効にすると、許可されたログイン失敗数を超えた後、ユーザーがログインを試みても自動的に締め出されてしまうようになります。ログインに失敗したユーザー名とパスワードではログインが受け付けられません。デフォルトでこの機能は有効です。
IP Address Locked	これを有効にすると、許可されたログイン失敗数を超えた後、その IP からコンピューターがログインを試みても自動的に締め出されてしまうようになります。ログインに失敗したコンピューターではログインが受け付けられません。デフォルトでこの機能は有効です。 注意: IP を変更すれば、そのコンピューターからログインできます。
Allowed	リモートコンピューターからのログイン失敗を許容できる回数を設定します。デフォルトは 5 回です。
Timeout	ログイン失敗許容数を超えてから再びログインできるまでリモートコンピューターが待たなければならない時間を設定します。デフォルトは 3 分間です。

注意: ログイン失敗機能が有効でない場合、ユーザーは無制限でログインを試みることができます。安全面からもこの機能を有効にし、締め出し方針を決めることを推奨します。

Login String (ログイン文字列)

「Login String」(ログイン文字列)のパネルはユーザーがブラウザからKL1508Ai/KL1516Aiにアクセスする際に IP アドレスに加える文字列をアドミニストレーターが設定する際に使用します。

例えば、IP アドレスが「192.168.0.126」で、ログイン文字列が「abcdefg」である場合、ユーザーが入力しなければならない文字列は下記ようになります。

192.168.0.126/abcdefg

-
- 注意:**
1. ユーザーは IP アドレスと文字列の間にスラッシュを入れなければなりません。
 2. ここでログイン文字列を設定しない場合、IP アドレスを使用するだけでだれでも KL1508Ai/KL1516Ai ログインページにアクセスすることができてしまいます。このような状態は接続機器の安全性を低くします。
-

以下の文字がログイン文字列として使用できます。

0 から 9、a から z、A から Z、～ ! @ \$ % & * () _ - = + [] , . |

以下の文字はログイン文字として使用できません。

% ^ " : / ? # \ ' { }; ' < > [スペースキー] É Ç ñ 等の合成文字

セキュリティ対策のために時々このログイン文字列を変更することをお勧めします。

Security (セキュリティ)

The screenshot shows a web interface titled "Security". It contains two sections for configuring filters. The first section is for IP filters, with a checkbox "IP Filter Enable" and two radio buttons: "Include" and "Exclude" (which is selected). Below these is a large empty rectangular box for the filter list. To the right of this box are three buttons: "Add", "Modify", and "Delete". The second section is for MAC filters, with a checkbox "MAC Filter Enable" and two radio buttons: "Include" and "Exclude" (which is selected). Below these is another large empty rectangular box for the filter list. To the right of this box are three buttons: "Add", "Modify", and "Delete".

◆ IP 及び MAC フィルター

IP 及び MAC フィルターでは、接続しようとするクライアントコンピューターの IP と(または) MAC アドレスに基づいた KL1508Ai/KL1516Ai へのアクセスが管理できます。IP フィルターは最大 100 個、MAC フィルターも最大 100 個利用できます。フィルターが設定されると IP フィルターと(または)MAC フィルターのリストボックスにそれが表示されます。

IP フィルターと(または)MAC フィルターを有効にするには「IP Filter Enable」(IP フィルター有効)と(または)「Mac Filter Enable」(MAC フィルター有効)のチェックボックスを**クリック**してチェックを入れてください。

- 「include」(含む)ボタンをチェックすると、フィルター範囲内のアドレス全てがアクセスを許可され、それ以外のアドレスはアクセスが拒否されます。
- 「exclude」(含まない)ボタンをチェックするとフィルター範囲内のアドレス全てはアクセスが拒否され、それ以外のアドレスはアクセスが許可されます。

◆ フィルターの追加

IP フィルターを追加するには以下の手順に従ってください。

1. 「**Add**」(追加)をクリックしてください。スクリプトプロンプトダイアログが表示されます。
2. IPv4 または IPv6 をフィルタリングするかどうか指定してください。
3. 「Start」の欄にフィルタリング範囲の開始アドレスを入力してください。
4. 「**OK**」をクリックしてください。
5. 「End」の欄にフィルタリング範囲の終了アドレスを入力してください。

注意: この説明は AP GUI 用のものです。ブラウザ GUI は下記の点が異なります。

1. IPv4 または IPv6 を選択するオプションがありません。IPv4 フィルタリング用の「From」と「To」の欄があるだけです。
 2. シングル IP アドレスを指定するチェックボックスがありません。IPv4 アドレス 1 つだけをフィルタリングするには、「From」と「To」の欄に同じアドレスを入力してください。
-
6. 「**OK**」をクリックしてください。
 7. フィルタリングしたい IP アドレスやフィルタリングを行う IP アドレスの範囲を追加するには上記手順を繰り返してください。

MAC フィルターを追加するには下記手順に従ってください。

1. 「**Add**」(追加)をクリックしてください。スクリプトプロンプトダイアログボックスが表示されます。
2. ダイアログボックスに MAC アドレスを指定してから「**OK**」をクリックしてください。
3. フィルタリングしたい MAC アドレスを追加するには上記手順を繰り返してください。

◆ IP フィルター/MAC フィルターの矛盾

IP フィルターと MAC フィルターとで矛盾している場合、つまり、あるコンピューターのアドレスが片方のフィルターでは許可されているのに、もう片方では拒否されているような場合は、拒否しているフィルターが優先的に使用されます(コンピューターのアクセスは拒否されます)。

◆ フィルターの修正

フィルターを修正するには IP フィルターまたは MAC フィルターのリストボックスを選択してから「**Modify**」(修正)をクリックしてください。「Add」(追加)ダイアログボックスに似た「Modify」(修正)ダイアログボックスが開くので、古いアドレスを新しいアドレスに置き換えてください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除するには IP フィルターまたは MAC フィルターのリストボックスを選択してから「**Delete**」(削除)をクリックしてください。

Encryption (暗号化)

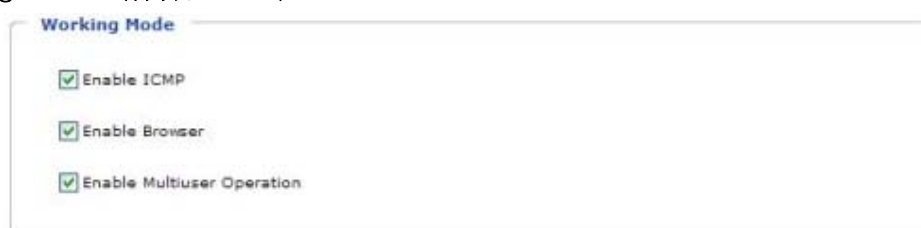


キーボード/マウス及びビデオ用の暗号の選択肢は DES、3DES、AES、RC4 またはランダム循環があり、任意のまたは全ての機器に対してこれらを柔軟に組み合わせて使用することができます。

暗号化を有効にするとシステムのパフォーマンスに影響を与えます。暗号化しない場合は、最良のパフォーマンスが得られ、暗号化をより複雑にするとパフォーマンスが低下していきます。暗号化を有効にした場合、パフォーマンスへの留意事項は下記の通りです。

- ◆ RC4 は一番パフォーマンスへの影響が少ないです。次に DES、それから 3DES または AES となります。
- ◆ RC4+DES の組み合わせは他の組み合わせのものより一番パフォーマンスへの影響が少ないです。

Working Mode (作業モード)



「Working Mode」(作業モード)の項目に関する説明は下表の通りです。

項目	説明
Enable ICMP	ICMPが「 Enable 」(有効)である場合 KL1508Ai/KL1516Aiはネットワーク接続を確認します。無効の場合は確認をしません。デフォルトは有効です。
Enable Multiuser Operation	「Multiuser Operation」(マルチユーザー操作)を有効にするとリモートバスを共有して同時に32名までのユーザーがログインできます。無効の場合は1回に1人のユーザーしかログインできません。デフォルトは有効です。
Enable Browser	「Enable Browser」(ブラウザの有効)はブラウザアクセスが許可されていることを意味し、無効の場合、ユーザーはHTTP URLを使用して製品本体にアクセスしなければなりません。

Private Certificate (個人用の証明書)

安全な(SSL)接続を通じてログインする際に、ユーザーがログインしたサイトを検証するのに署名証明書が使用されます。より高い安全性を確保するために「Private Certificate」(個人用の証明書)のセクションではユーザーがデフォルトの ATEN からの証明書ではなく、個人の暗号キーと署名証明書を使用することができます。



個人用の証明書を開設するには自分で署名した証明書を作成する方法とサードパーティーの証明機関(CA)が署名した証明書を入手する方法の2通りの方法があります。

◆ 自分で署名した証明書を作成する方法

自分で署名した証明書を作成するには、「openssl.exe」という無料のユーティリティを Web サイトからダウンロードすることができます。オープン SSL を使用して自分自身の個人用暗号キーと SSL 証明書を作成する方法の詳細については p.205 を参照してください。

◆ 証明機関が署名した SSL サーバー証明書を入手する方法

より安全性を強化するためにサードパーティー証明機関が署名した証明書を使用することを推奨します。サードパーティー証明機関(CA)が署名した証明書を入手するには CA の Web サイトをご覧ください。CA より証明書と個人用暗号キーが送られてきたら、それをご使用のコンピュータの任意の場所に保存してください。

◆ 個人用証明書のインポート

個人用証明書をインポートするには以下の手順に従ってください。

1. 「Private Key」の右側の「**Browse**」ボタンをクリックしてください。個人用暗号キーのファイルがある場所を検索してからそれを選択してください。
2. 「Certificate」の右側の「**Browse**」ボタンをクリックしてください。証明書ファイルがある場所を検索してからそれを選択してください。
3. 「**Upload**」(アップロードする)ボタンをクリックしたらこの作業は完了です。

注意:

1. 「**Restore Default**」(デフォルトに戻す)ボタンをクリックすると、デバイスはデフォルトの ATEN の証明書を使用します。
2. 個人暗号キー及び署名付証明書の両方とも同時にインポートしなければなりません。

Port Configuration (ポート設定)

「Port Configuration」(ポート設定)ページにはステータス状況が表示され、サイドバーで選択したポートのプロパティを設定することができます。

The screenshot shows the 'Port Configuration' interface. It includes the following fields and values:

- Port ID: 01-09
- Port Status: Online
- Adapter Type: KA9170B
- Adapter F/W Version: V3.2.316
- Port Name: (empty text box)
- Port OS: Win (dropdown menu)
- OS Language: English (US) (dropdown menu)
- Cable Length: Short (dropdown menu)
- Access Mode: Share (dropdown menu)
- Exit Macro: None (dropdown menu)

設定欄について下表で説明します。

項目	説明
Port OS	ポートに接続されたサーバーの OS を指定します。Windows、Mac、Sun、その他から選んでください。デフォルトは Windows です。
OS Language	ポートに接続されたサーバーで使用する OS 言語を指定します。リストをドロップダウンして利用可能な選択肢をご覧ください。デフォルトは US 英語です。
Cable Length	サーバーをポートに接続するのに使用するカテゴリ 5e/6 ケーブル長を指定します。「Short」(10m 未満)、「Medium」(10～25m)、「Long」(25m 以上)から選択してください。デフォルトは「Short」です。 注意: ケーブル長は画質に影響します。一般的に短いケーブルのほうがよりよい画質になります。この設定はケーブル長にあわせて補正するように設計されています。ご使用の接続状況に合わせた設定を試してください。

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
Access Mode	複数のユーザーがログオンした際にポートがどのようにアクセスされるかを指定します。 「Exclusive」(排他):最初にポートに切り替えたユーザーがそのポートを排他的に操作できます。他のユーザーはポートの画面を見ることもできません。この設定がされたポートでは「Timeout」(タイムアウト)機能も動作しません。 「Occupy」(占有):最初にポートに切り替えたユーザーがそのポートを操作できます。しかし他のユーザーはそのポートの画面を見ることができます。最初のユーザーがポートを使用していない時間が「Timeout」機能で設定した時間を越えた場合、ポートの操作権は他のユーザーに移り、マウスとキーボードが使用できるようになります。 「Share」(共有):ユーザーは同時にポートの操作を共有することができます。ユーザーからの入力待ち行列に入れられ、順に実行されます。
Exit Macro	「Exit Macro」パネルにはユーザーが作成したシステムマクロのドロップダウンリストが含まれています。リモートサーバーを終了する際に実行するマクロをリストから選択できます。「Exit Macro」の作成に関する詳細は p.99 「システムマクロ」を参照してください。

Date/Time（日付/時間）

「Date/Time」(日付/時間)ダイアログページでは KL1508Ai/KL1516Ai の時間パラメーターが設定できます。下記に従ってパラメーターを設定してください。

Time Zone (タイムゾーン)



The Time Zone dialog box contains a dropdown menu with the selected option "(GMT+08 00) Taipei". Below the dropdown is a checkbox labeled "Daylight Savings Time", which is currently unchecked.

- ◆ KL1508Ai/KL1516Ai がある場所のタイムゾーンを設定するには、「Time Zone」(タイムゾーン)リストをドロップダウンして、KL1508Ai/KL1516Ai がある場所に一番近い場所の都市を選択してください。
- ◆ サマータイムを実施している国や地域の場合、対応するチェックボックスにチェックを入れてください。

Date（日付）



The Date dialog box features a month/year selector at the top with "September" selected and "< 2010 >" to its right. Below this is a calendar grid for "September 2010". The days of the week are abbreviated as Su, Mo, Tu, We, Th, Fr, Sa. The dates 1 through 30 are displayed in the grid, with the 30th highlighted in yellow.

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

- ◆ ドロップダウンリストボックスから月を選択してください。
- ◆ 「<」または「>」をクリックして年度を前後させてください。
- ◆ カレンダーでは日付をクリックしてください。
- ◆ 時間を設定するには、24 時間式フォーマットの HH:MM:SS (時:分:秒)を使用してください。
- ◆ 設定を保存するには「Set」(セット)をクリックしてください。

Time（時間）



The image shows a 'Time' configuration window. It contains three input fields for time: '15' for hours, '04' for minutes, and '58' for seconds. To the right of these fields is a button labeled 'Set'.

手動で時間を設定するにはボックスに値を入力してから「Set」（セット）をクリックしてください。

Network Time（ネットワーク時間）



The image shows a 'Network Time' configuration window. It includes a checkbox for 'Enable Auto Adjustment'. Below this are two sections for time servers. The first section has a dropdown for 'Preferred Time Server' (showing 'US CA | clock.sjc.he.net') and a checkbox for 'Preferred Custom Server IP' with an input field '0.0.0.0'. The second section has a dropdown for 'Alternate Time Server' (showing 'AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU') and a checkbox for 'Alternate Custom Server IP' with an input field '0.0.0.0'. At the bottom, there is a label 'Adjust Time Every' followed by an input field '1' and the word 'Days', and a button 'Adjust Time Now'.

ネットワークのタイムサーバーに自動的に時間を同期させるには、以下の手順に従ってください。

1. 「Enable auto adjustment」（自動設定を有効にする）チェックボックスにチェックを入れてください。
2. 優先タイムサーバーを選択するにはタイムサーバーリストをドロップダウンしてください。または、「Preferred custom server IP」（優先カスタムサーバーIP）チェックボックスにチェックを入れ、使用するタイムサーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレスまたはドメインネームを入力してください。
3. 代替のタイムサーバーを設定したい場合は「Alternate time server」（代替タイムサーバー）チェックボックスにチェックを入れ、手順 2 を繰り返して代替タイムサーバーのエントリーを入力してください。
4. 次の同期化作業を行うまでの日数を入力してください。
5. すぐに時間を同期化する場合は、「Adjust Time Now」（時間をいますぐ調整する）をクリックしてください。

クイックビューポートの設定

「Device Management」(デバイスの管理) ページの「Quick View」(クイックビュー)を使用してアドミニストレーターはどのポートをクイックビューポートに含めるかを選択することができます。

- ◆ ポートをクイックビューポートに選択/非選択するには、そのポートに対し「Enable Quick View」(クイックビューを有効)ボックスにチェックを入れてください。
- ◆ ポートがクイックビューポートとして選択されるとサイドバーにあるポート番号の横とメイン画面のポートリストにアイコンが表示されます。ポートがクイックビューポートとして選択されていない場合、このアイコンは消えます。
- ◆ 設定を保存するにはこのページの一番下にある「Save」(保存)をクリックしてください。

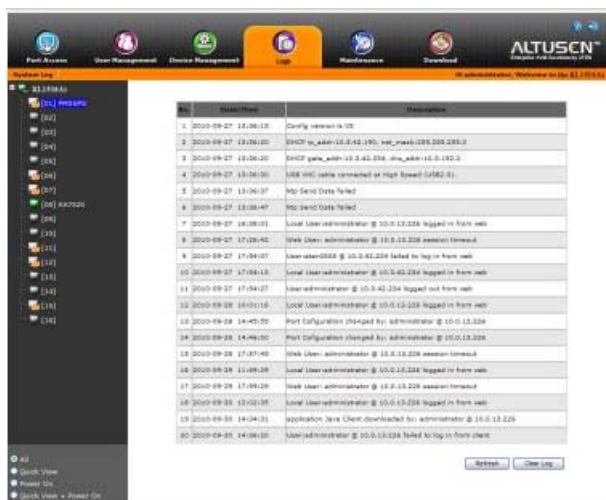
第12章

ログ

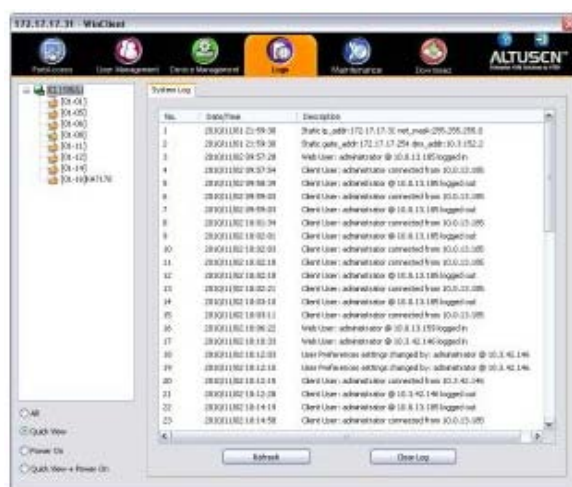
概要

KL1508Ai/KL1516Ai では発生したイベント全てを記録しています。ログの内容を見るには「Log」(ログ)のタブをクリックしてください。下図のようなログ情報ページが表示されます。

ブラウザ GUI



AP GUI



ログ情報

「Log」(ログ)ページでは KL1508Ai/KL1516Ai では発生したイベントを表示し、各イベントの時間、ユーザー及び説明の概要を提供します。列の見出しをクリックして、表示する順番を変更することができます。

ログファイルは最大 512 個のイベントが追跡できます。制限値を超えると一番古いイベント情報は破棄され、新しいイベント情報が記録されます。

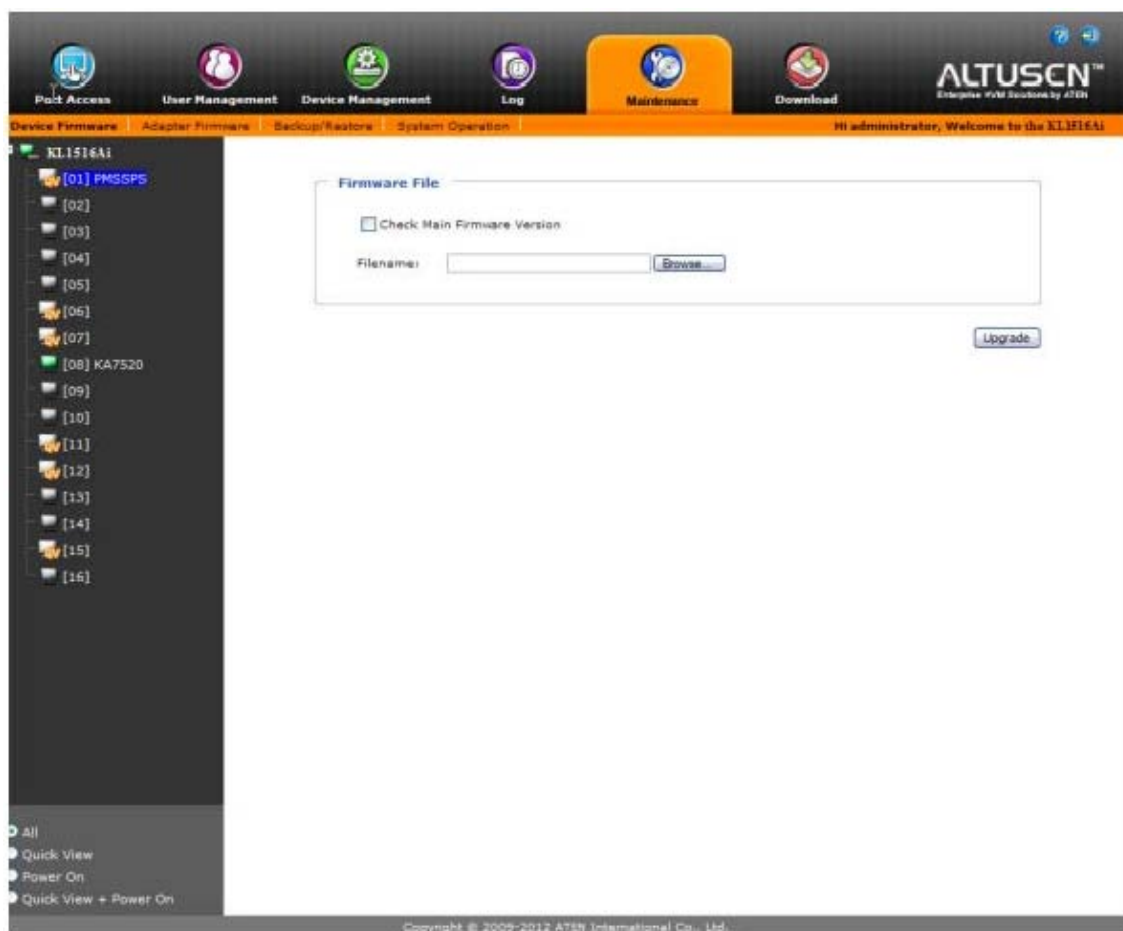
第 13 章

メンテナンス

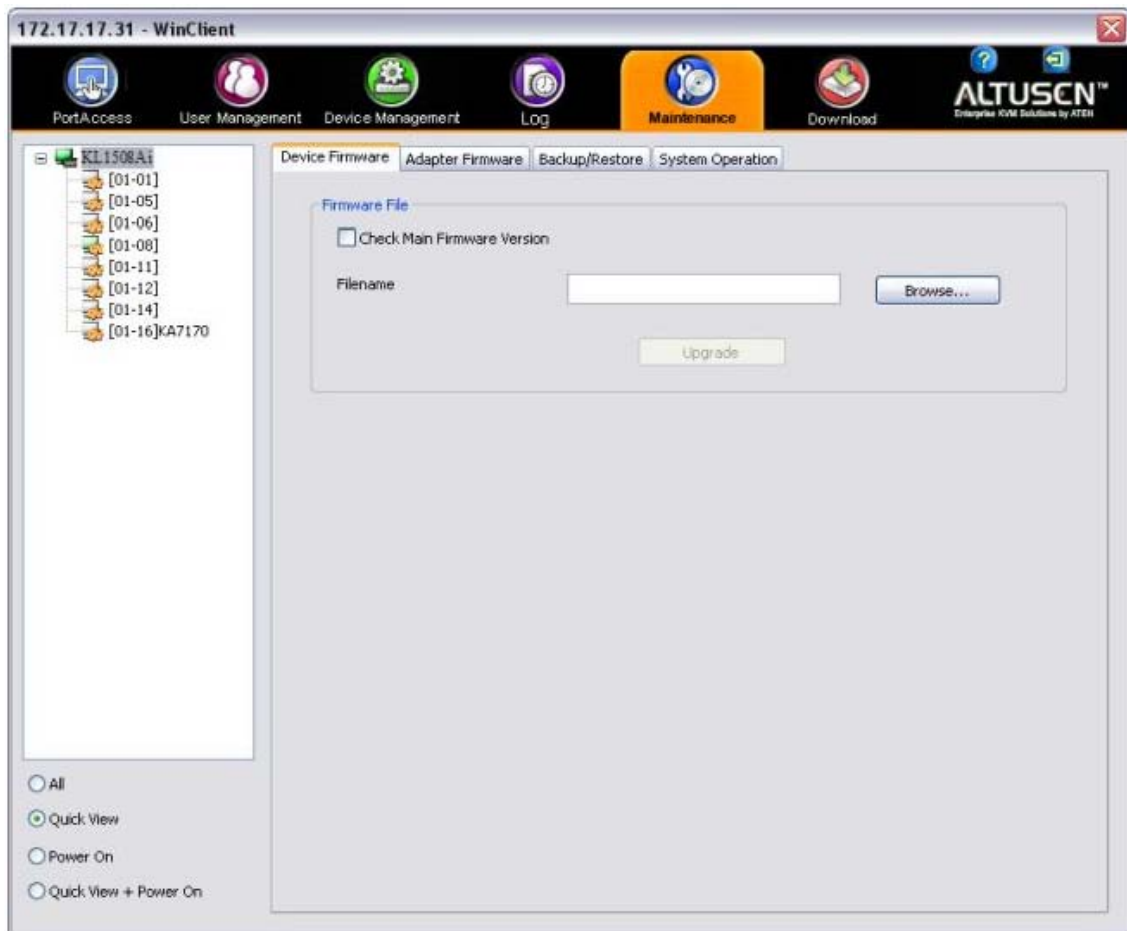
概要

「Maintenance」(メンテナンス)機能は、ファームウェアのアップグレード、設定やアカウント情報のバックアップや復元、及びデフォルト値への復元を行う際に使用します。

ブラウザ GUI



AP GUI

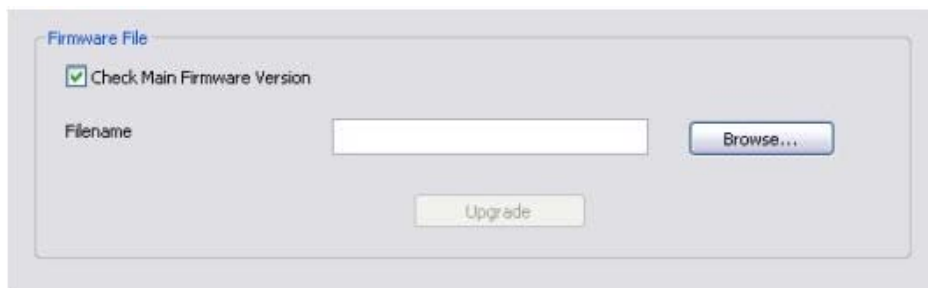


デバイスのファームウェアアップグレード

ファームウェアの新しいバージョンが利用可能になると、ATEN の Web サイトからダウンロードできるようになります。最新情報やパッケージがあるかどうか、弊社の Web サイトを定期的にご確認ください。

デバイスのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. ご使用のコンピューターへ新しいファームウェアをダウンロードしてください。
2. KL1508Ai/KL1516Ai にログインし、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。「Maintenance」タブから「Firmware File」(ファームウェアファイル)ページが開きます。

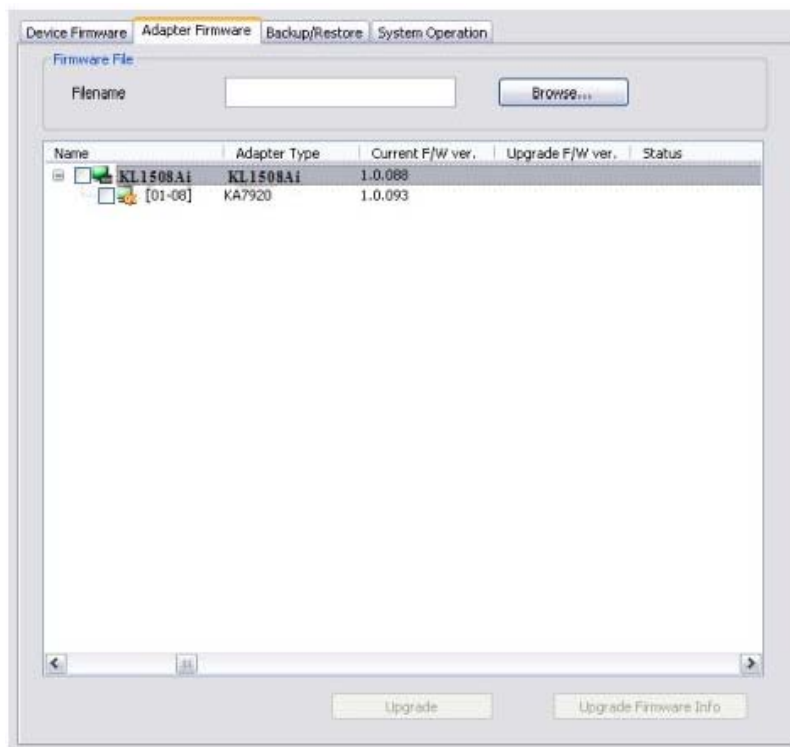


3. 「Browse」(参照)をクリックしてください。新しいファームウェアファイルがあるディレクトリを探し、それを選択してください。
4. 「Upgrade Firmware」(ファームウェアをアップグレード)をクリックしてアップグレードを開始してください。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」(メインファームウェアバージョンの確認)を有効にしている場合、現在のファームウェアのバージョンとアップグレードファイルのバージョンとを比較します。現在のバージョンがアップグレードファイルと同等、もしくはそれよりも新しい場合はその旨とアップグレード作業を中止するように知らせるポップアップメッセージが表示されます。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」(メインファームウェアバージョンの確認)を無効にしている場合、アップグレードファイルはそのバージョンを比較することなくインストールされます。
 - ◆ アップグレードの進行中は、その進捗状況がプログレスバーに表示されます。
 - ◆ アップグレードが成功すると、製品本体はリセットされます。
5. 再びログインしてファームウェアのバージョンが新しいものに変更されたかを確認してください。

注意: アップグレードの失敗から回復する場合は p.165 「ファームウェアアップグレードの回復」を参照してください。

コンピューターモジュールのアップグレード

「Adapter Firmware」(コンピューターモジュールのアップグレード)のページはコンピューターモジュールをアップグレードさせる際に使用します。



アップグレードするには、下記の手順に従ってください。

1. KL1508Ai/KL1516Ai にログインしてください。「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックして「Adapter Firmware」(コンピューターモジュールのファームウェア)メニューを選択してください。メインファームウェアに保存されているコンピューターモジュールのファームウェアバージョンリストを起動してください。メインファームウェアをアップグレードした場合、現在のモジュールのバージョンより新しいバージョンのコンピューターモジュール用ファームウェアが含まれていることがあります。
2. メインファームウェアに保存されたコンピューターモジュールのバージョンとメインパネルの「Current F/W Version」(現在のファームウェアバージョン)の列に表示されたバージョンとを比較してください。ファームウェアに保存されたバージョンがコンピューターモジュールのものよりも新しい場合はモジュールをアップグレードする必要があります。
3. メインパネルの「Name」(名前)の列から、アップグレードするモジュールのあるポートにチェックを入れてください。

4. アップグレードを開始するには「**Upgrade Adapters**」(モジュールのアップグレード)をクリックしてください。

- ◆ 「Check Adapter Firmware Version」(コンピューターモジュールのファームウェアバージョンの確認)を有効にしている場合、現在のファームウェアのバージョンとアップグレードファイルのバージョンとを比較します。現在のバージョンがアップグレードファイルと同等、もしくはそれよりも新しい場合、アップグレードは利用できずアップグレード作業を中止することを知らせるメッセージがモジュールの進捗状況の列に表示されます。
- ◆ 「Check Adapter Firmware Version」(コンピューターモジュールのファームウェアバージョンの確認)を無効にしている場合、アップグレードファイルはそのバージョンを確認することなくインストールされます。
- ◆ アップグレード作業が完了すると新しいファームウェアのバージョンが表示されます。

-
- 注意:**
1. コンピューターモジュールの古いファームウェアバージョンでも製品本体は動作しますが、最良な互換性を得るためにも本体のメインファームウェアに保存されたコンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードすることを推奨します。
 2. モジュールをセットアップされた機器に追加したらいつでもアップグレードを実行することができますが、それが最新のファームウェアバージョンであることを確認してください。
 3. アップグレードの失敗から回復するには、p.165 「ファームウェアアップグレードの回復」を参照してください。
-

ファームウェアアップグレードの回復

製品のメインファームウェアのアップグレード作業に失敗した場合、本体は使用できなくなるので、下記のファームウェアアップグレードの回復手順に従って問題を解決してください。

1. 製品本体の電源を切ってください。
2. リセットスイッチを押したままにしてください(p.25 「Lock LED & リセットスイッチ」参照)。
3. リセットスイッチを押したまま、製品本体に電源を入れてください。

この手順を行うと製品本体は工場出荷時にインストールされたメインファームウェアバージョンを使用するようになります。本体が操作できるようになったら、もう一度メインファームウェアのアップグレードを試してください。

コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの回復

コンピューターモジュールのうちの一つのファームウェアアップグレードに失敗した場合、そのモジュールは使用できなくなるので、下記のコンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの回復手順に従って問題を解決してください。

1. サーバーに接続しているコンピューターモジュールを外してください。
2. カテゴリ 5e コネクターの横にあるファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」(回復)の位置にスライドさせてください。
3. モジュールを元のサーバーに接続してください。
4. モジュールのアップグレード手順を繰り返してください。
5. モジュールのアップグレードに成功したら、接続しているサーバーからモジュールを外してください。それからファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「NORMAL」(通常)の位置に戻した後、再び元のサーバーにモジュールを接続してください。

Backup/Restore (バックアップ/復元)

「Backup/Restore」(バックアップ/復元)メニューを選択すると製品本体の設定とユーザープロフィール情報をバックアップすることができます。

The screenshot shows the 'Backup/Restore' utility window. It has four tabs: 'Device Firmware', 'Adapter Firmware', 'Backup/Restore' (which is active), and 'System Operation'. The 'Backup/Restore' tab is split into two main areas. The top area, labeled 'Backup', contains a 'Password' text box and a 'Backup' button. The bottom area, labeled 'Restore', contains a 'Filename' text box with a 'Browse...' button, a 'Password' text box, and three radio buttons: 'All', 'User Account', and 'User Define' (which is selected). Below the radio buttons are two columns of checkboxes, all of which are checked: 'Device Configuration', 'Network-DNS Server', 'ANMS', 'User Account', 'Network-Port & Installer', 'Network-IP Address', 'Security', and 'Date/Time'. At the bottom of the 'Restore' section is a 'Restore' button.

Backup (バックアップ)

デバイスの設定をバックアップするには下記の手順に従ってください。

1. 「Password」(パスワード)の欄にファイルのパスワードを入力してください。

注意:

 1. パスワードの設定はオプションです。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードの指定をせずに復元されます。
 2. パスワードを設定した場合、ファイルを復元する際にパスワードが必要になるので、それをメモに取ってください。

2. 「**Backup**」(バックアップ)をクリックしてください。
3. ブラウザから、ファイルの扱いをどうするかを聞かれるので、「Save to disk」(ディスクに保存)を選択してから任意の場所にそのファイルを保存してください。

System Operation (システム操作)

「System Operation」(システム操作)のページでは、KL1508Ai/KL1516Aiで行った設定変更を元の工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。



このページで実行できる機能は下記の通りです。

Clear Port Names (ポート名の消去)

このボタンをクリックするとポートに割り当てたポート名を削除することができます。

Reset to Default (デフォルトへリセットする)

このボタンをクリックするとポート名を除く、KL1508Ai/KL1516Ai でカスタマイズしたネットワークページのネットワーク転送速度を含むページ変更を元の工場出荷時のデフォルト設定値に戻すことができます。

System Reset (システムのリセット)

このボタンをクリックすると、ログアウト時に KL1508Ai/KL1516Ai 自体をリセットし、全て新しい設定に変更されます(リセット後、再度ログインするまで約 30～60 秒間待つ必要があります)。

注意: 変更した IP 設定は無視され、ネットワーク設定の欄に残ったままとなります。つまり、次回このページを開いた際に「Reset on exit」(終了時にリセットする)チェックボックスが自動的に有効になり、製品本体がリセットされると、放棄したと思っていた IP 設定がこの製品で使用されることとなります。この問題を回避するにはネットワーク設定のページに戻り、その欄に表示された IP 設定が使用したいものであるかどうか確認してください。

第 14 章

ファームウェアアップグレード ユーティリティ

はじめに

Window ベースのファームウェアアップグレードユーティリティを使用して KL1508Ai/KL1516Ai 及び対応するコンピューターアダプターのファームウェアを自動的にアップグレードさせることができます。アップグレードのプログラムは各デバイスに対して個別のファームウェアアップグレードパッケージの一部として現れます。

KL1508Ai/KL1516Ai の最新ファームウェア及び対応するコンピューターモジュールは弊社の Web サイトにファームウェアアップグレードパッケージとして公開されています。弊社 Web サイトにて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

-
- 注意:**
1. アップグレードパッケージ単体には製品本体のメインボードと対応するコンピューターモジュール全てに対するアップグレードファイルが含まれています。
 2. コンピューターモジュールはダイアログボックスによっては「I/O モジュール」と呼んでいます。
-

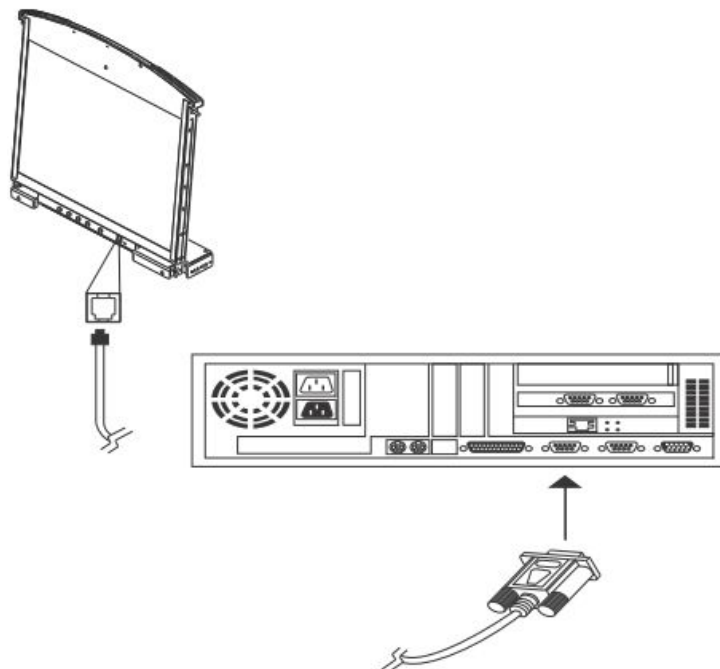
作業を始める前に

アップグレードを始める前に、以下の作業を行ってください。

1. 製品に接続されていないコンピューターから ATEN のインターネットサポートサイトにアクセスし、お使いのデバイス (KL1508Ai/KL1516Ai) の型番をリストから選択して、利用可能なファームウェアアップグレードパッケージの一覧を表示してください。
2. インストールしたいファームウェアアップグレードパッケージ (通常は最新版) を選択し、このパッケージをお使いのコンピューターにダウンロードしてください。

(次ページへと続きます。)

3. 本製品に同梱されているファームウェアアップグレードケーブルを使用して、ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしたコンピュータの COM ポートと本製品のファームウェアアップグレードポートとを接続してください。



注意： デイジーチェーン接続をしている場合は、最初のステーションのユニット(親機)に接続してください。同じ型番のデイジーチェーン接続されたステーション(子機)はデイジーチェーンケーブルを通じてアップグレードパッケージを受信します。

4. アップグレードする必要があるコンピューターモジュールが接続されたコンピューターを除く全てのコンピューターをシャットダウンしてください。コンピューターモジュールはアップグレードする際にコンピューターからの電源を必要とします。アップグレードするステーションもシャットダウンしないでください。
5. 本製品に搭載されたコンソールから OSD(p.49 参照)を起動し、「F4 ADM」を選択してください(p.57 参照)。
6. 「FIRMWARE UPGRADE」までスクロールダウンしてください。[Enter]キーを押してから、[Y]を入力してファームウェアアップグレードモードを開始してください(p.59 参照)。

注意： コンピューターモジュールへのアップグレードは、本製品とコンピューターモジュールが接続されたカテゴリ 5e/6 ケーブルを通じて行われるので、別途ファームウェアアップグレードケーブルを接続する必要はありません。

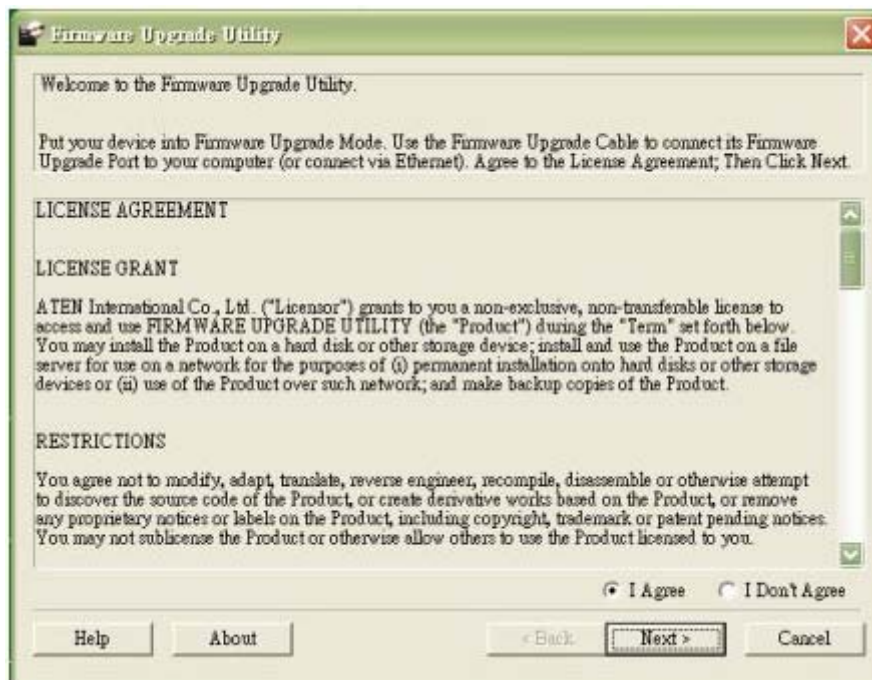
アップグレードの実行

アップグレードの開始

お使いのファームウェアをアップグレードするには以下を行ってください。

1. アイコンをダブルクリックするか、フルパスをコマンドラインに指定するかしてファームウェアアップグレードパッケージを実行してください。

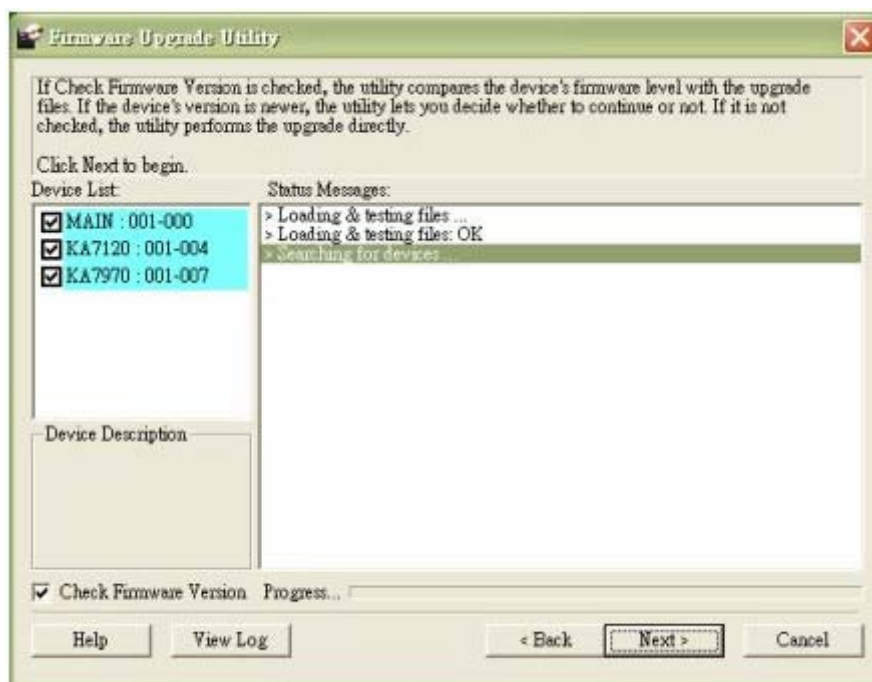
「Firmware Upgrade Utility」の初期画面が表示されます。



2. ライセンス使用許諾契約を確認し、同意する場合は「I Agree」ボタンを有効にしてください。

(次ページへと続きます。)

3. 「Next」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。



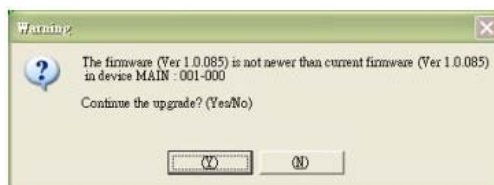
ユーティリティにて KL1508Ai/KL1516Ai がファームウェアアップグレードモードにあるかを確認し、「Device List」に必要なファームウェアが全て表示されます。

- 注意:**
1. 「Device List」にはアップグレードが必要なコンピューターモジュールの型番全てが表示されます。型番を選択すると、その型番のデバイス全てをアップグレードします。
 2. ユーティリティがファームウェアの表示に失敗した場合は、KL1508Ai/KL1516Ai が接続されており、かつファームウェアアップグレードモードであることを確認してください。確認しても問題ない場合は、ファームウェアパッケージが破損したり、不適切なバージョンであったりすることが考えられるため、ファイルから新たなコピーを取得して、再試行してください。

4. メインボードのファームウェアをアップグレードするには「MAIN」を選択してください。アップグレードする必要のないコンピューターモジュールは選択しないでください。選択をした後は「Next」をクリックしてアップグレードを実行してください。



- ◆ 「Check Firmware Version」:これを選択するとユーティリティは「MAIN」のアップグレードファイルとメインボードのファームウェアのバージョンとを比較します。デバイスのファームウェアのバージョンがアップグレードファイルのバージョンよりも新しければ、ダイアログボックスにその旨が表示されるので、このままアップグレードを続けるか、キャンセルするかを選択してください。



「Check Firmware Version」を有効にしなかった場合、ユーティリティはデバイスのファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較せずにそのままインストールされます。

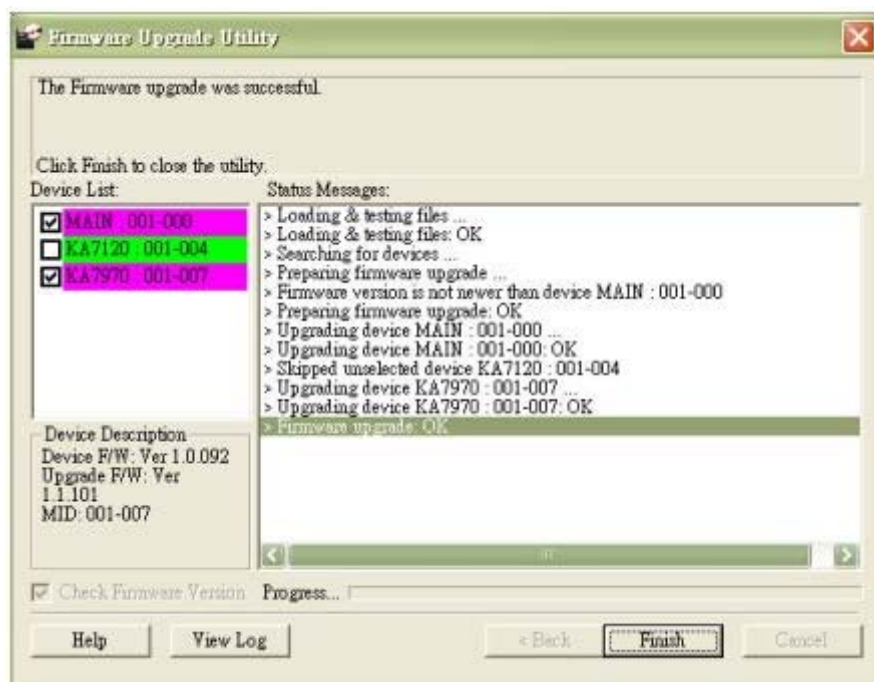
- ◆ アップグレードの進行具合は「Status Message Panel」に表示され、またプログレスバーに進捗状況が表示されます。
- ◆ アップグレードが完了する前に、アップグレードを停止する場合は「Cancel」をクリックしてください。

アップグレードが完了する前にアップグレードを停止する場合、ダイアログボックスにアップグレードが完了していない旨の警告が表示されるので、キャンセルを実行するか中止するかを選んでください。アップグレードを途中でキャンセルすると、本製品を再起動した際に、メインボードとOSDのファームウェアが消去されたり、破損したりする可能性があります。

消去されたり、破損したりしたファームウェアを修復するには、p.174 「ファームウェアアップグレードの復元」を参照してください。

アップグレードの成功

アップグレードが完了すると、以下の画面が表示され、アップグレードが成功したことを表します。



「Finish」をクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

注意: アップグレードが成功すると、KL1508Ai/KL1515Ai は再起動します。

アップグレードの失敗

アップグレードが完了せず、失敗すると、再度アップグレードを行うかどうかを問うダイアログボックスが表示されます。「Yes」をクリックすると、アップグレードを再試行し、「No」をクリックすると「Upgrade Failed」(アップグレード失敗)という画面が表示されます。

ファームウェアアップグレードユーティリティを終了するには、「Cancel」をクリックしてください。その後の作業については、次項「ファームウェアアップグレードの復元」を参照してください。

ファームウェアアップグレードの復元

製品上のファームウェアが消失したり破損したりすると、製品本体の操作や起動ができなくなる場合があります。これは以下の原因が考えられます。

- ◆ ファームウェアアップグレードモード(p.59「FIRMWARE UPGRADE」を参照)を開始した途中でアップグレードをキャンセルした場合。
- ◆ ファームウェアアップグレード中に割り込みが入った場合。
- ◆ ファームウェアアップグレードの進行が失敗した場合。
- ◆ 本製品のファームウェアが不明な理由により中断された場合。

メインボードファームウェアアップグレードの復元

ファームウェアアップグレードの復元を行うには、以下の作業を行ってください。

1. 本製品の「ファームウェアアップグレードスイッチ」(p.27 を参照)を「**Recover**」(復元)の位置にスライドしてください。
2. p.48「シャットダウンと再起動」に記載の手順に従って、本製品をシャットダウンし、再起動してください。
3. p.170「アップグレードの実行」に記載の手順に従ってファームウェアのアップグレードを実行してください。
4. アップグレードが完了したら、本製品をシャットダウンしてください。
5. 本製品の「ファームウェアアップグレードスイッチ」を「**Normal**」(通常)の位置にスライドしてください。
6. 本製品の電源を入れてください。

注意: 子機の KVM スwitch のアップグレードが失敗した場合、デイジーチェーン接続からその子機を外し、別途ファームウェアの復元とアップグレードを行ってください。アップグレードに成功してから、その子機をデイジーチェーン接続するようにしてください。

コンピューターモジュールのアップグレードの復元

コンピューターモジュールのアップグレードを復元するには、以下の作業を行ってください。

1. コンピューターモジュールを接続しているコンピューターから外してください。
2. RJ-45 コネクターの横にある「ファームウェアアップグレードスイッチ」を「**Recover**」(復元)の位置にスライドしてください。
3. コンピューターモジュールを再度コンピューターに接続してください。
4. 本製品のコンソールから OSD(p.50 を参照)を起動し、「**F4 ADM**」機能を選択してください。
5. 「FIRMWARE UPGRADE」までスクロールダウンした後、**[Enter]**を押してください。
6. **[Y]**を押して、ファームウェアアップグレードモードを起動してください。
7. p.170 「アップグレードの実行」に記載したようにファームウェアのアップグレードが進行します。
8. アップグレードが完了し、本製品が再起動した後、コンピューターからコンピューターモジュールを外し、「ファームウェアアップグレードスイッチ」を「**Normal**」(通常)の位置にスライドしてください。
9. コンピューターモジュールをコンピューターに再度接続してください。

第 15 章 ダウンロード

概要

「Download」(ダウンロード)は Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーや PON AP というスタンドアロンの AP バージョンをダウンロードする際に使用します。



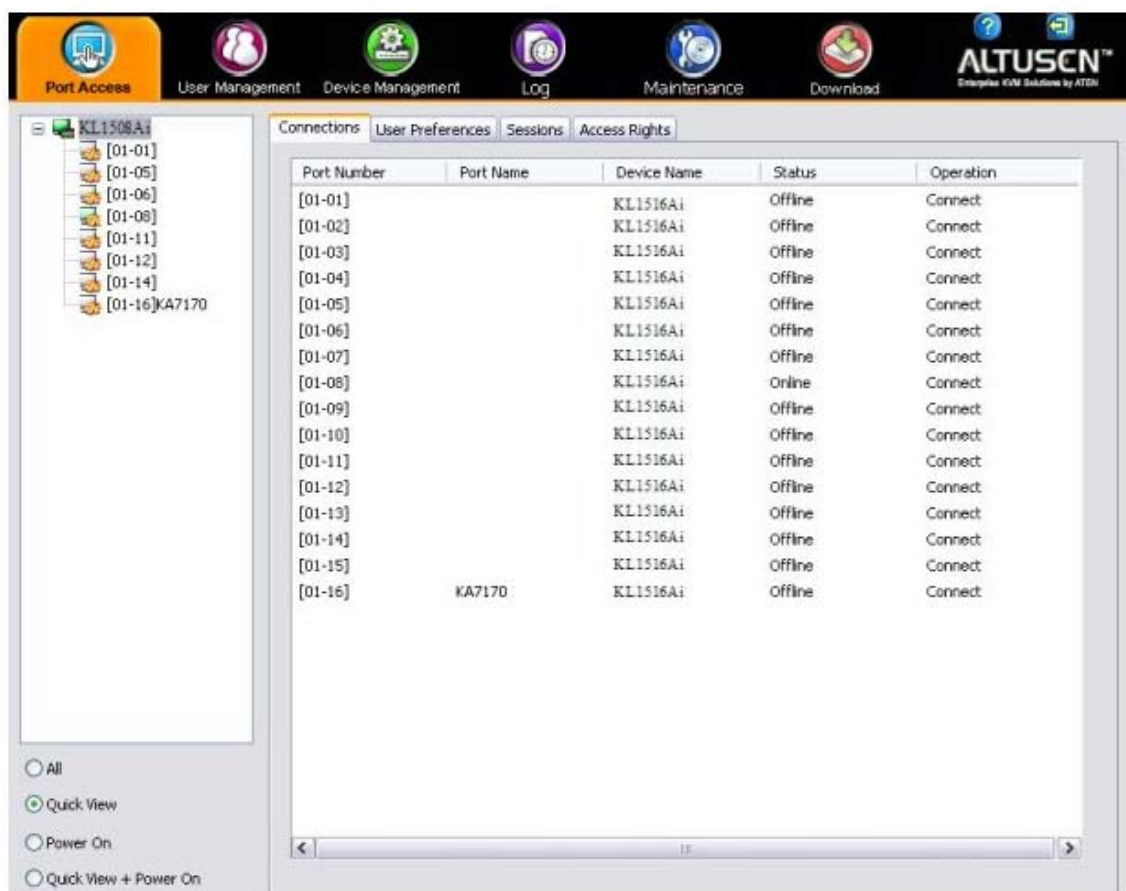
ダウンロードしたいプログラムをクリックしてください。それをハードディスクの任意の場所に保存して、そこからプログラムを実行してください。

第 16 章

ポート操作

概要

ログインに成功すると(p.75 「ログイン」参照)、KL1508Ai/KL1516Ai は、サイドバーで選択された最初の KL1508Ai/KL1516Ai と「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connection」(接続) ページを開きます。



注意: ポートアクセス接続ページに関する詳細は p.121 「Connection(接続)」を参照してください。

ポートへの接続

ユーザーがアクセスを許可されたデバイス、ポート、及び電源アウトレットがページの左側にあるサイドバーに表示されます。

- ◆ サイドバーからデバイスが選択されている時にポートへ接続するには、そのサイドバーにあるアイコンをダブルクリックするか、メイン中央パネルのラインエントリーの任意の場所をダブルクリックするか、メインパネルにあるデバイスを選択してからページの右下にある「**Connect**」(接続)をクリックしてください。
- ◆ サイドバーからポートが選択されている時にポートへ接続するには「Status」(ステータス)パネルの右側にある「**Connect**」(接続)をクリックしてください(p.121 参照)。

ポートを切り替えると、モニターにその画面が表示され、リモートサーバーへキーボードとマウス入力ができるようになります。



ポートツールバー

KL1508Ai/KL1516Ai インターフェースではキャプチャーされたポートの中からポート切替操作ができるようにツールバーをご用意しています。ツールバーを起動するには、GUI ホットキー ([Scroll Lock]または[Ctrl])を2回押してください。ツールバーが画面の左上に表示されます。



ID 表示 (p.124 参照)を選択した設定によってポート番号と(または)ポート名がツールバーの右側に表示されます。ツールバーのアイコンの意味については p.180 の表で説明します。

ツールバーが表示されるとマウス入力ツールバーの範囲に限定され、ポートに接続されたサーバーへはキーボード入力ができなくなります。サーバーへの操作を実行するにはツールバーの「X」アイコンをクリックしてツールバーを閉じてください。

ポートアクセス接続ページへ戻るには、適当なアイコンをクリックする (p.180 「ツールバーのアイコン」参照)か、GUI ホットキーをもう一度押してください。

-
- 注意:**
1. ツールバーの透明度を調整することができます (p.102 「Video Settings(ビデオ設定)」参照)。
 2. ツールバーの機能とアイコンはコントロールパネルに統合されています。コントロールパネルでそれを有効にすることを選択する場合 (p.114 「コントロールパネルの設定」参照)、ツールバーを無効にすることができます (p.123 「User Preference(ユーザー選択)」参照)。ツールバーがない場合にポートアクセス接続ページを呼び出すには、GUI ホットキーを2回押してください。
-

ツールバーのアイコン

ツールバーのアイコンの意味は下表で説明します。

アイコン	目的
	クリックするとポートアクセスページを呼び出すことなく、セットアップされた機器の前のステーションへと切り替えます。
	クリックするとポートアクセスページを呼び出すことなく、セットアップされた機器の次のステーションへと切り替えます。
	クリックするとポートアクセスページを呼び出すことなく、セットアップされた機器全体の最初のポートへと切り替えます。
	クリックするとポートアクセスページを呼び出すことなく、現在のポートより前にある最初にアクセスできるポートへと切り替えます。
	クリックするとオートスキャンモードを開始します。KL1508Ai/KL1516Ai はオートスキャンするように選択されたポート間を自動的に切り替えます。この機能を使用すると手動でポート間を切り替えることなくサーバーの動作状況を監視することができます。
	クリックするとポートアクセスページを呼び出すことなく、現在のポートから次にアクセスできるポートへと切り替えます。
	クリックするとポートアクセスページを呼び出すことなく、セットアップされた機器全体の最後のポートへと切り替えます。
	クリックするとポートアクセスページを呼び出します。
	クリックするとパネルアレイモード(p.184「パネルアレイモード」参照)が起動します。
	クリックするとツールバーを閉じます。
	クリックするとログアウトし、アプリケーションを終了します。

ツールバーホットキーによるポート切替

ツールバーが表示されている時、ホットキーを使用してキーボードから直接ポートを切り替えて KVM 操作を行うことができます。KL1508Ai/KL1516Ai では下記のホットキー機能があります。

- ◆ ポート番号を入力し「Enter」をクリックしてポートを直接切替
- ◆ オートスキャンでの切替
- ◆ スキップモードでの切替

ホットキーは、オートスキャン用は[A]と[P]、スキップモード用は矢印キーです。

-
- 注意:**
1. ホットキー操作を実行するにはツールバーが見えるようにしなければなりません (p.179 「ポートツールバー」参照)。
 2. ホットキーとして設定されたキー (例:[A]、[P]) をホットキーとしてではなく通常のキーとして使用するには、ツールバーを閉じなければなりません。
 3. オートスキャンモードで複数のユーザー操作に影響する問題については p.186 「マルチユーザー操作」を参照してください。
-

オートスキャン

オートスキャン機能は現在ログインしているユーザーがアクセスできるポート間を一定の時間間隔で自動的に切り替えていく機能なので、ユーザーはサーバーの動作状況を自動的に監視することができます。

- ◆ スキャン時間の設定
各ポート間をオートスキャンする時間を設定するには「Scan Duration」(スキャン持続時間)設定を使用します (p.124 「Scan Duration」参照)。
- ◆ オートスキャンの起動
オートスキャンを開始するにはツールバーを表示させ、[A]キーを押してください。セットアップされた機器の最初のポートから順にポート間をオートスキャンしていきます。ポート ID の前に **[S]** が表示されてそのポートが現在オートスキャンモードでアクセスされていることを表します。

◆ オートスキャンの一時停止

オートスキャン中に特定のサーバーを選択したままにするには[P]キーを押してスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中にはポート ID の前の「S」が点滅します。

特定のサーバーを選択状態にしておきたい場合にはオートスキャンモードを中止するよりも一時停止機能を使用するほうが便利です。スキャンを再開させる場合、一時停止機能ではその一時停止したポートからスキャンを開始するのに対し、オートスキャンモードでは接続機器の最初のポートからスキャンを再開するからです。

オートスキャンを一時停止した後再開させるには、[Esc]キーと[スペースキー]以外の任意のキーを押してください。一時停止したポートからスキャンが再開します。

◆ オートスキャンの中止

オートスキャンモードが有効である間は元のキーボード機能は一時停止します。キーボードの通常操作を行うにはオートスキャンモードを中止しなければなりません。オートスキャンモードを中止するには[Esc]キーまたは[スペースキー]を押してください。オートスキャンモードを中止したところでオートスキャンが停止します。

スキップモード

スキップモードではサーバーを監視するために手動でポートを切り替えることができます。固定した時間間隔で切り替わっていくオートスキャンと反対に、スキップモードでは好きな時間だけポートを監視することができます。スキップモードのホットキーは4つの矢印キーです。その操作方法は下表の通りです。

矢印キー	動作
←	現在のポートからそれよりも前にある最初にアクセスできるポートへスキップします。
→	現在のポートからそれよりも後にある最初にアクセスできるポートへスキップします。
↑	現在のポートから、セットアップされた機器の最初にあるアクセス可能なポートへスキップします。
↓	現在のポートから、セットアップされた機器の最後にあるアクセス可能なポートへスキップします。

ポートアクセスページの呼び出し

ツールバーを中止してポートアクセスページを呼び出すには、下記のことを行ってください。

- ◆ GUI ホットキーをもう一度押してください。
- ◆ ツールバーからポートアクセスページを呼び出すアイコンをクリックしてください(p.180 「ツールバーのアイコン」参照)。

ツールバーは閉じ、ポートアクセスページが開きます。

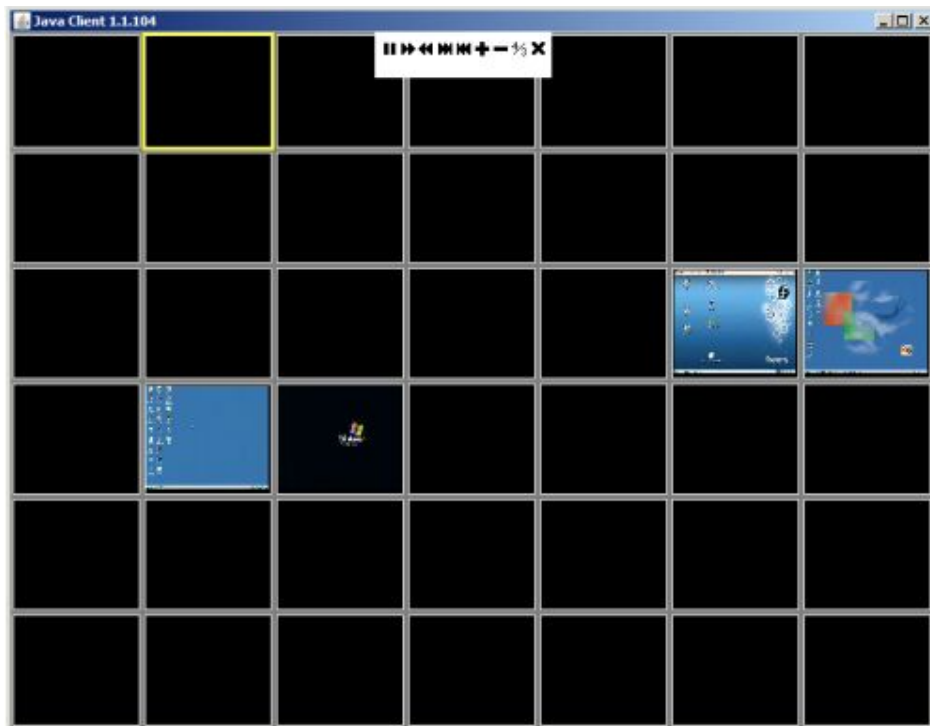
GUI ホットキーのまとめ

下表はポートにアクセスした後で使える GUI ホットキーをまとめたものです。GUI ホットキーの設定については p.123 「User Preference(ユーザー選択)」を参照してください。

目的		動作
ツールバーを開く		GUI ホットキーを 2 回クリックする。
ポートアクセスページを開く	ツールバーが開いている時	GUI ホットキーを 1 回クリックする。
	ツールバーが閉じている時	GUI ホットキーを 3 回クリックする。

パネルアレイモード

ツールバーの「パネル」アイコンをクリックするとパネルアレイモードが起動します。このモードでは画面が格子状に最大 42 枚まで分割されます。



- ◆ 各パネルは製品のポート画面を表わします。左上のパネルがポート 1 を表し、パネルの左から右へ、上から下へと順にポート画面を表します。
- ◆ 配列するパネルの数はパネルアレイツールバー（パネルツールバーの説明は次項を参照）にある「Show More Ports」（ポート表示を増やす）と「Show Fewer Ports」（ポート表示を減らす）シンボルをクリックして選択することができます。
- ◆ ユーザーがアクセス可能なポートだけが表示されます。アクセスできないポートではパネルがブランクになります。
- ◆ ポートに接続されたサーバーがオンラインである場合、その画面がパネルに表示されますが、そうでない場合はパネルがブランクになります。
- ◆ パネルにマウスを重ねるとポートに関する情報（ポート名、オンライン状況、ポートアクセス状況及び解像度）が表示されます。
- ◆ マウスポインターをパネルに重ねた後クリックすると、そのポートに接続されたサーバーにアクセスすることができます。ポートアクセスページから選択したかのようにサーバーへ切り替えることができます。

パネルアレイツールバー

パネルアレイツールバーではパネルアレイのショートカットナビゲーションと操作ができます。ツールバーは画面の任意の場所にドラッグすることができます。アイコンにマウスを重ねるとアイコンの機能を簡単に説明する「ツール情報」が表示されます。アイコンの機能は下表の通りです。

アイコン	説明
	クリックアンドドラッグをしてツールバーを移動します。 注意: このアイコンは Windows クライアントのみ利用可能です。Java クライアントのツールバーを移動するには空の場所をクリックしてドラッグしてください。
	パネルスキャンを一時停止し、現在のパネルを選択した状態にします。
	パネル 4 枚分戻ります。
	前のパネルへ移動します。
	次のパネルへ移動します。
	パネル 4 枚分前へ進みます。
	「Show More Ports」: パネルの配置数を増やします。
	「Show Fewer Ports」: パネルの配置数を減らします。
	縦横比を 4/3 に切り替えます。
	パネルアレイモードを中止します。

注意: パネルアレイモードでのマルチユーザー操作へ影響する問題については p.186 「マルチユーザー操作」を参照してください。

マルチユーザー操作

KL1508Ai/KL1516Aiはマルチユーザー操作に対応しています。複数のユーザーが同時にクライアントコンピュータから製品にアクセスした時の優先権に関するルールは下表の通りです。

操作	ルール
一般	本製品は単一の共有バスを利用しています。ですので、本製品はローカルとリモートの同時ログインに対応してはいますが、個々が操作することには対応していません。リモートユーザーが既にセッションを開始している時にローカルユーザーがログインすると、ローカルユーザーはリモートユーザーが作業している同じ画面を見ることがだけです。
オートスキャンモード	ユーザーがオートスキャンモード(p.181 参照)を起動している際に他のユーザーがログインした場合、最初の新しいユーザーは GUI メインページが見られますが、ポートにアクセスするとすぐに自動的にオートスキャンモードに入ります(新しいユーザーは元々のユーザーとバスを共有しているため)。 ユーザーは GUI メインページを呼び出してオートスキャンを中断することができます。この場合、オートスキャンモードは停止し、バスを共有している他のユーザー全てはオートスキャンが停止した時にアクセスされていたポートに切り替わります。
パネルアレイモード	◆ ユーザーがパネルアレイモード(p.184 参照)を起動してから、他のユーザーがログインする場合、その新しいユーザーは GUI メインページが見られますが、ポートにアクセスするとすぐに自動的にパネルアレイモードに入ります(新しいユーザーは元々のユーザーとバスを共有しているため)。 ◆ パネルアレイモードは元々のユーザーが停止するまで継続します(しかしアドミニストレーターはパネルアレイモードを無効にすることができます)。 ◆ パネルアレイモードを開始したユーザーだけがスキップモード(p.182 参照)機能を使用することができます。 ◆ パネルアレイモードを開始したユーザーだけがポートを切り替えることができます。他のユーザーは自動的に元のユーザーが選択したポートに切り替わります。しかし元のユーザーが選択したポートに対し他のユーザーの 1 人がアクセス権を持っていない場合、そのユーザーはポートを見ることができません。 ◆ 各ユーザーはパネルアレイモードで見たいパネル数を増やしたり減らしたりすることができますが、パネル数が増えると画質が落ちます。

第 17 章

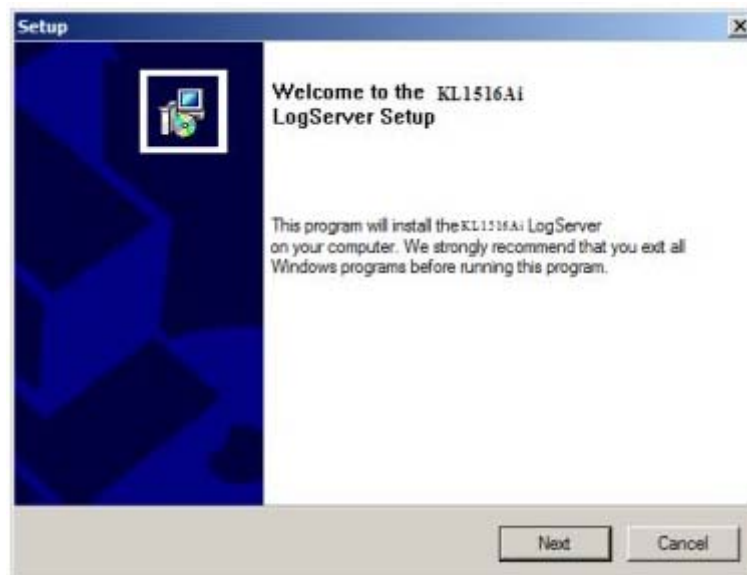
ログサーバー

Windows ベースのログサーバーは選択した KL1508Ai/KL1516Ai で起こったイベント全てを記録し、検索可能なデータベースに書き込んでいく管理用ユーティリティです。この章ではログサーバーのインストール方法及び設定方法について説明します。

インストール

1. ログサーバーとして使用したいコンピューターからブラウザを開いて、KL1508Ai/KL1516Ai にログインしてください(p.77 参照)。
2. Web ページの左側にある「Log Server」ボタンをクリックして、ログサーバーインストールプログラムを開始してください。
3. セキュリティの警告ダイアログボックスが表示されたら、それを無視して「Run」(実行)または「Open」(開く)をクリックしてください。

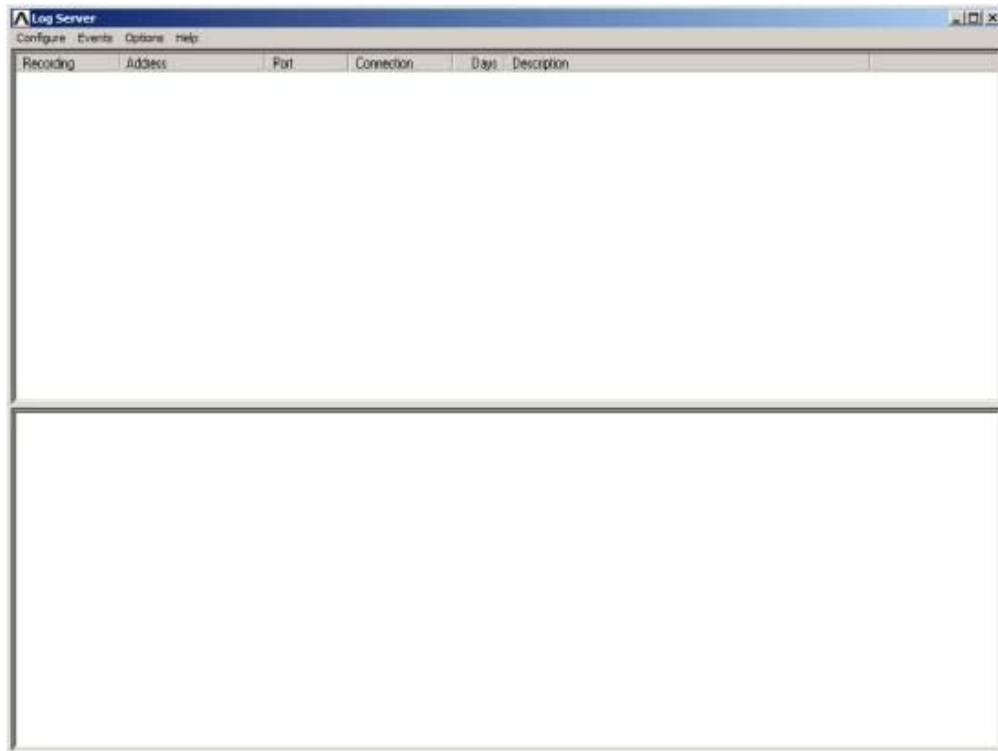
注意： ブラウザがファイルを実行できない場合は、代わりにそれをディスクに保存してディスクからファイルを実行してください。



4. 「Next」(次へ)をクリックしてください。画面の指示に従ってインストールを完了させ、ログサーバープログラムのアイコンをデスクトップに表示させてください。

起動

ログサーバーを起動するにはプログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインにプログラムのフルパスを入力してください。初回起動時には下図のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. ログサーバーコンピュータの MAC アドレスは ANMS 設定で指定しなければなりません (p.141 「Log Server(ログサーバー)」参照)。
 2. データベースにアクセスするためには、ログサーバーに Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。
-

画面は 3 つの部分に分かれています。

- ◆ 上部にメニューバー
- ◆ 中央に KL1508Ai/KL1516Ai のリストを含んだパネル (p.193 「ログサーバーメイン画面」参照)。
- ◆ 下部にイベントリストを含んだパネル。

各部分については次項で説明します。

メニューバー

メニューバーには項目が 4 つあります。

- ◆ 「Configure」(設定)
- ◆ 「Events」(イベント)
- ◆ 「Options」(オプション)
- ◆ 「Help」(ヘルプ)

各項目については次項で説明します。

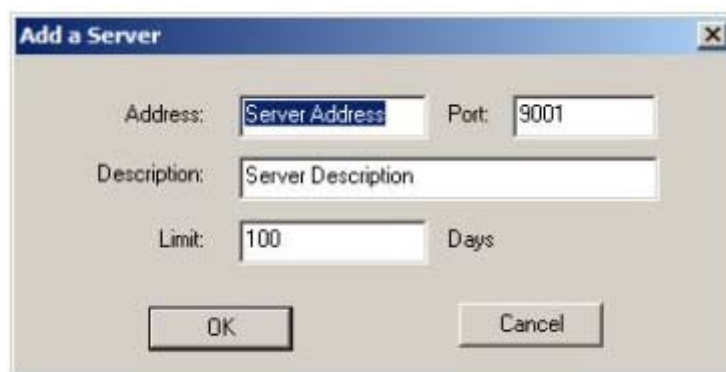
注意: メニューバーが無効に見える場合は、KL1508Ai/KL1516Ai リストウィンドウをクリックして有効にしてください。

Configure (設定)

「Configure」(設定)メニューには「Add」(追加)、「Edit」(編集)及び「Delete」(削除)の 3 つの項目があります。リストに新しい KL1508Ai/KL1516Ai ユニットの追加したり、リストに既にある KL1508Ai/KL1516Ai ユニットの情報を編集したりまたはリストから KL1508Ai/KL1516Ai ユニットの削除したりする際に使用します。

- ◆ リストに KL1508Ai/KL1516Ai ユニットの追加する場合は「Add」(追加)をクリックしてください。
- ◆ リストにある KL1508Ai/KL1516Ai ユニットの編集または削除するには、まずリストウィンドウからそのユニットを選択して、次にこのメニューを開き、「Edit」(編集)または「Delete」(削除)をクリックしてください。

「Add」(追加)または「Edit」(編集)を選択すると下図のようなダイアログボックスが表示されます。

A screenshot of a Windows-style dialog box titled "Add a Server". It contains four input fields: "Address" with the placeholder text "Server Address", "Port" with the value "9001", "Description" with the placeholder text "Server Description", and "Limit" with the value "100" followed by the text "Days". At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "Cancel".

各欄の説明は下表の通りです。

欄	説明
Address	KL1508Ai/KL1516Ai の IP アドレスまたは DNS ネーム(ネットワーク管理者が DNS ネームを割り当てている場合)のどちらでも入力可能です。
Port	KL1508Ai/KL1516Ai の OSD で設定されたログサーバーのポート番号です (p.141 「Log Server (ログサーバー)」参照)。
Description	この欄にはユニットが識別されやすいような説明事項を入力するためのものです。
Limit	これはログサーバーのデータベース内にイベントログが削除されるまで何日間保存するかを指定するためのものです。

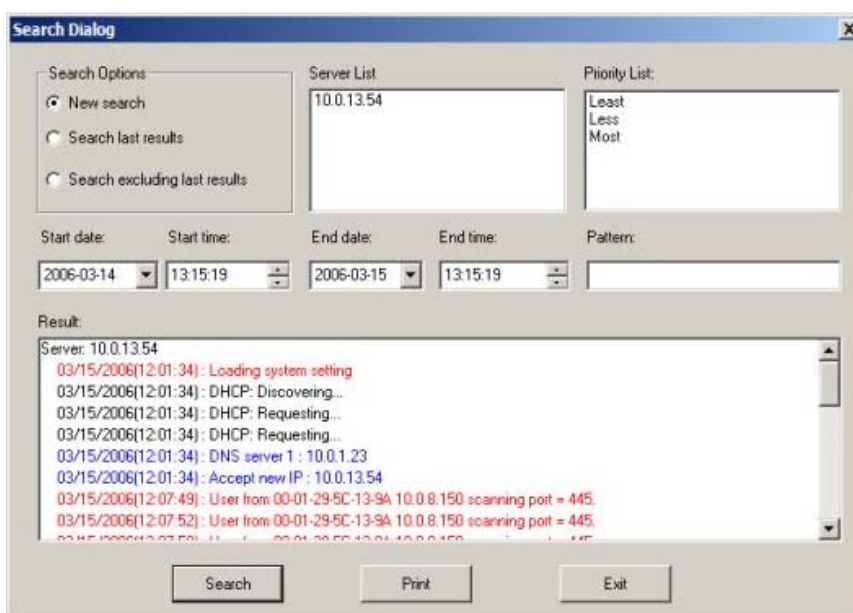
各欄に入力または修正したら、「OK」をクリックして終了してください。

Events (イベント)

「Events」(イベント)メニューには「Search」(検索)と「Maintenance」(メンテナンス)という 2 つの項目があります。

Search (検索)

「Search」(検索)では特定の言葉や文字列を含むイベントを検索することができます。この機能にアクセスすると下図のような画面が表示されます。



各欄の説明は下表の通りです。

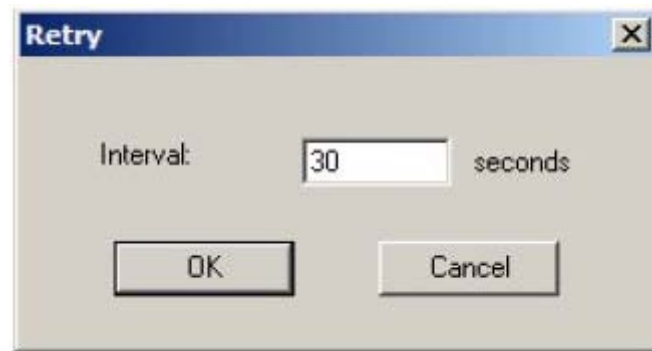
項目	説明
New search	これは検索範囲を決定する3つのラジオボタンの内の1つです。これを選択すると、選択した KL1508Ai/KL1516Ai のデータベースにあるイベント全てを検索にかけます。
Search last results	これは以前の検索結果のイベントに対して行われる2次的検索です。
Search excluding last results	これは選択したユニットのデータベースにあるイベント全てから以前の検索結果のイベントを除いたものに対して行われる2次的検索です。
Server List	KL1508Ai/KL1516Ai はその IP アドレスに従ってリストアップされます。このリストから検索を実行したいユニットを選択してください。検索には複数のユニットを選択することができます。ユニットを選択していない場合、全てのユニットに対し検索が行われます。
Priority List	検索結果の詳細をどのくらい詳しく表示するかを設定します。「1」は最も一般的で、「3」は最も詳しいです。
Start Date	検索を開始する日付を選択します。表示形式は 11/02/2011 というように、MM/DD/YYYY (月/日/西暦)です。
Start Time	検索を開始する時間を選択します。
End Date	検索を終了する日付を選択します。
End Time	検索を終了する時間を選択します。
Pattern	ここで検索するパターンを入力します。多様なワイルドカード文字に対応しています。例えば「h%nds」と入力した場合、「hands」や「hoods」が該当します。
Results	検索内容に合ったイベントがリストアップされます。
Search	検索を開始するにはこのボタンをクリックしてください。
Print	検索結果を印刷するにはこのボタンをクリックしてください。
Exit	検索ダイアログを終了するにはこのボタンをクリックしてください。

Maintenance (メンテナンス)

この機能を使用してアドミニストレーターは例えば、前ページの「Limit」機能で設定した期限切れまでの時間になる前にある特定の記録を削除するなど、データベースを手動でメンテナンスすることができます。

Options (オプション)

「Network Retry」(ネットワーク再試行)では、前回接続に失敗した場合にログサーバーが再接続を試みるまで何秒間待つかを設定することができます。この項目をクリックすると下図のようなダイアログボックスが表示されます。



秒数を入力してから、「OK」をクリックして終了してください。

Help (ヘルプ)

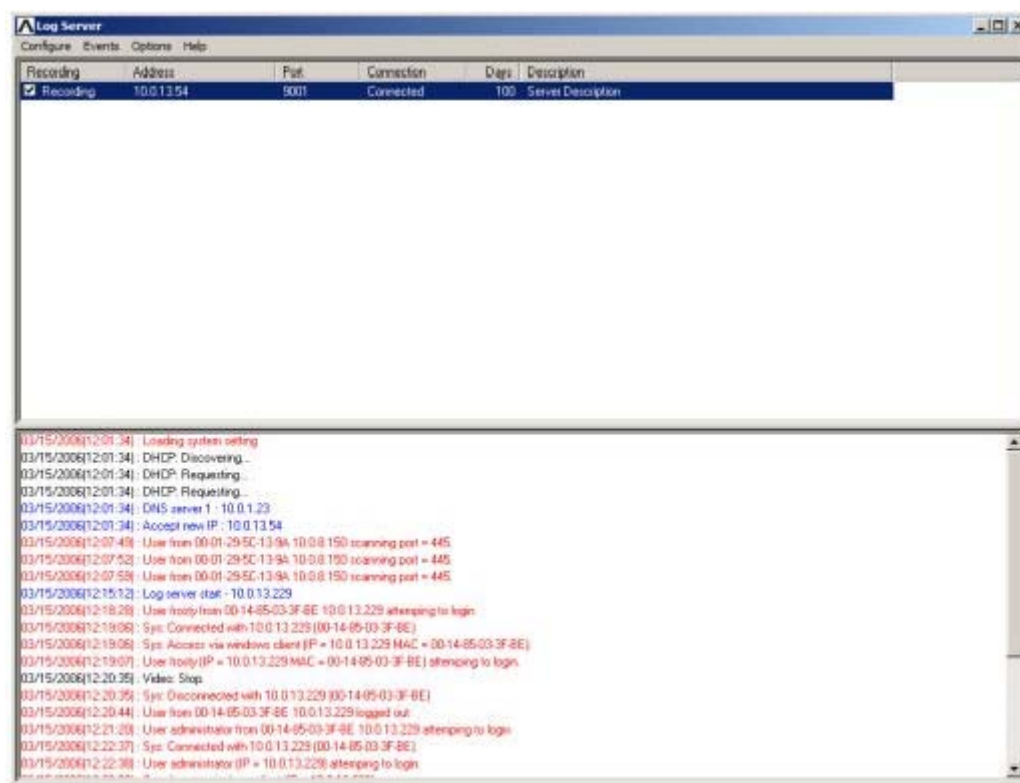
「Help」(ヘルプ)メニューから「**C**ontents」をクリックすると Windows のオンラインヘルプファイルにアクセスします。ヘルプファイルにはログサーバーのセットアップ方法、操作方法やトラブルシューティングについての説明が含まれています。

ログサーバーメイン画面

概要

ログサーバーメイン画面は 2 つのメインパネルに分かれています。

- ◆ 上の(リスト)パネルにはログサーバーが追跡するように選択した KL1508Ai/KL1516Ai ユニット全てが表示されます(p.189 「Configure (設定)」参照)。
- ◆ 下の(イベント)パネルには現在選択されている KL1508Ai/KL1516Ai ユニットに関するログ情報が表示されます(複数のユニットがある場合、選択されたユニットはハイライトされています)。リストにある KL1508Ai/KL1516Ai ユニットを選択するには、それをクリックしてください。



リストパネル

リストパネルには 6 つの欄があります。

欄	説明
Recording	ログサーバーがこの KL1508Ai/KL1516Ai のログを記録するかどうかを決定します。「Recording」チェックボックスにチェックを入れるとこの欄に「Recording」と表示され、ログが記録されます。この「Recording」チェックボックスにチェックが入っていない場合、この欄には「Paused」と表示され、ログは記録されません。 注意: 現在選択されていない KL1508Ai/KL1516Ai でも「Recording」チェックボックスにチェックが入っている場合、ログサーバーはそのログを記録します。
Address	これはログサーバーに追加された時に KL1508Ai/KL1516Ai に与えられた IP アドレスまたは DNS ネームです (p.189 「Configure (設定)」参照)。
Port	これは KL1508Ai/KL1516Ai OSD でログサーバーに割り当てられたポート番号です (p.141 「ログサーバー」参照)。
Connection	ログサーバーが KL1508Ai/KL1516Ai に接続されている場合、この欄には「Connected」(接続)と表示されます。 ログサーバーが接続されていない場合、この欄には「Waiting」(待機中)と表示されます。これはログサーバーの MAC アドレスが正しく設定されていないことを意味するので、「ANMS」の「Event Destination」(イベントのあて先) (p.141 参照) で設定する必要があります。
Days	この欄には期限切れになる前にログサーバーのデータベースに保存される KL1508Ai/KL1516Ai のログイベント日数が表示されます (p.189 「Configure (設定)」参照)。
Description	この欄にはログサーバーに追加された KL1508Ai/KL1516Ai に関する説明情報が表示されます (p.189 「Configure (設定)」参照)。

イベントパネル

下のパネルには現在選択した KL1508Ai/KL1516Ai のログイベントが表示されます。現在選択していないユニットが 1 台以上ある場合でも、「Recording」チェックボックスにチェックが入っているとログサーバーはそのログイベントを記録し、データベースに保存するのでご注意ください。

付録

製品仕様

機能		KL1508Ai	KL1516Ai
コンピューター接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大(デイジーチェーン)	128	256
コンソール接続数		1	
セカンドコンソール		1	
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Linux、Mac、Sun)、シリアル	
	マウス		
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		プッシュボタン、ホットキー、OSD	
コンピューター側 コネクタ	キーボード	RJ-45×8	RJ-45×16
	マウス		
	モニター		
セカンドコンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1	
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1	
	モニター	D-sub15 ピンメス×1	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択	プッシュボタン×8	プッシュボタン×16
	電源	ロッカースイッチ×1	
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1	
	LCD 電源	プッシュボタン×1	
	LCM 調節	プッシュボタン×4	
	ステーション	プッシュボタン×2	

(表は次ページに続きます。)

機能		KL1508Ai	KL1516Ai
デジタイゼーションポート		DB-25 ピンオス×1	
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11×1	
外付けマウスポート		USB タイプ A メス×1	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1	
PON(RS-232)ポート		RJ-45×1	
LAN ポート		RJ-45×1	
LED	ポート(オンライン)	グリーン×8	グリーン×16
	ポート(選択)	オレンジ×8	オレンジ×16
	ステーション ID	2 桁 7 セグメントデジタル表示 オレンジ×2	
	電源	ブルー×1	
	Num Lock	グリーン×1	
	Caps Lock	グリーン×1	
	Scroll Lock	グリーン×1	
	リンク	グリーン×1	
	10/100 Mbps	オレンジ/グリーン×1	
	LCD 電源	オレンジ×1	
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Win、Linux、Mac、Sun)、シリアル	
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)	
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz	
消費電力	17 インチ LCD	31W	33W
	19 インチ LCD	33W	34W
解像度		1,280×1,024@75Hz DDC2B 準拠 (50m、ローカル) 1,600×1,200@60Hz DDC2B 準拠 (40m、リモート) ※1,280×1,024 を超える解像度の場合、正しく表示 されない場合があります。	
動作環境	動作温度	0～40℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量	17 インチ LCD	15.96kg	16kg
	19 インチ LCD	16.19kg	16.25kg
サイズ (W×D×H)		480×701.2×44mm	

(表は次ページに続きます。)

機能	KL1508Ai	KL1516Ai
同梱品	電源ケーブル ×1 イージーセットアップラックマウントキット (ショート or ロング)×1 ファームウェアアップグレードケーブル ×1 クイックスタートガイド×1	
対応 KVM モジュール	《PS/2 用モジュール》 KA7520 KA7920 《USB 用モジュール》 KA7170 KA7570 KA7970 《シリアルモジュール》 KA9140	
デ이지チェーン対応製品	KH1508A KH1516A	
デ이지チェーン用ケーブル	2L-1700(0.6m) 2L-1701(1.8m) 2L-1703(3m) 2L-1705(5m) 2L-1715(15m)	
レガシーSUN システム対応モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA7130	
SUN システム対応モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170	
MAC 対応モジュール	KA7170 KA7570 KA7970	

IP アドレスの決定

アドミニストレーターが初めてログインする場合、ユーザーが接続できるようにする IP アドレスを割り当てるために KL1508Ai/KL1516Ai にアクセスする必要があります。これには 3 通りの方法が選べます。どの方法でもご使用のクライアントコンピューターは KL1508Ai/KL1516Ai と同じネットワークセグメントになければなりません。接続してログインした後、KL1508Ai/KL1516Ai に固定ネットワークアドレスを割り当てることができます (p.137 「Network(ネットワーク)」参照)。

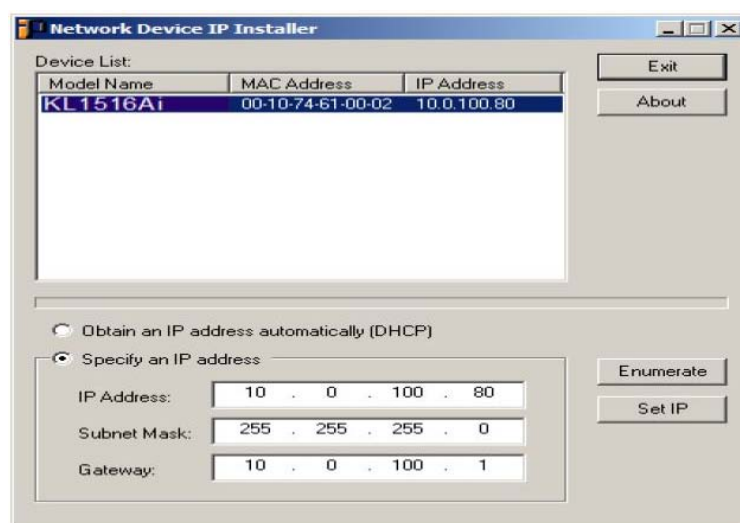
ローカルコンソール

IP アドレスを割り当てる一番簡単な方法はローカルコンソールから行う方法です。詳しい手順については p.57 「SET IP ADDRESS」を参照してください。

IP インストーラー

Windows を搭載しているクライアントコンピューターでは IP インストーラーユーティリティを使用して IP アドレスが割り当てられます。ユーティリティは弊社 Web サイトのダウンロードサイトから入手できます。「ドライバー & ソフトウェア」からご使用のユニットの型番を探してください。クライアントコンピューターにユーティリティがダウンロードできたら下記の手順に従ってください。

1. ご使用のハードドライブのディレクトリに「IPInstaller.zip」ファイルを解凍してください。
2. IP インストーラープログラムが解凍されたディレクトリを開き、「IPInstaller.exe」ファイルを実行してください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。



3. 「Device List」(デバイスリスト)で KL1508Ai/KL1516Ai を選択してください。

注意:

 1. リストが空の場合またはご使用のデバイスが表示されない場合、「Enumerate」(列挙)をクリックしてデバイスリストを更新してください。
 2. 2 台以上のデバイスがリストにある場合、デバイスを選択するには MAC アドレスを使用してください。

4. 「Obtain an IP address automatically (DHCP)」(IP アドレスの自動取得 (DHCP))または「Specify an IP address」(IP アドレスの指定)のどちらかを選択してください。後者を選択した場合、「IP address」(IP アドレス)、「Subnet Mask」(サブネットマスク)、「Gateway」(ゲートウェイ)の各欄にご使用のネットワークに適した情報を入力してください。
5. 「Set IP」(IP の設定)をクリックしてください。
6. 「Device List」(デバイスリスト)に IP アドレスが表示されたら「Exit」(終了)をクリックしてください。詳細は p.138 「IP Installer(IP インストーラー)」を参照してください。

ブラウザ

1. クライアントコンピューターの IP アドレスを 192.168.0.XXX に設定してください。
XXX は 60 以外の任意の数字を表します(192.168.0.60 は KL1508Ai/KL1516Ai のデフォルト IP アドレスであるため)。
2. ブラウザに製品のデフォルト IP アドレス「192.168.0.60」を入力してください。IP アドレスを入力すると接続できるようになります。
3. KL1508Ai/KL1516Ai が属するネットワークセグメントに合った固定 IP アドレスを KL1508Ai/KL1516Ai に割り当ててください。

ログアウト後、ご使用のクライアントコンピューターの IP アドレスを元の値にリセットしてください。

IPv6

現在、KL1508Ai/KL1516Ai は「リンクローカル IPv6 アドレス」、「IPv6 ステートレスアドレス自動設定」及び「ステートフルアドレス自動設定(DHCPv6)」の3通りのIPv6アドレスプロトコルに対応しています。

リンクローカル IPv6 アドレス

電源を入れると、KL1508Ai/KL1516Ai は自動的にリンクローカル IPv6 アドレスで設定されます(例:fe80::210:74ff:fe61:1ef)。リンクローカル IPv6 アドレスが何であるかを確認するには、IPv4 アドレスで KL1508Ai/KL1516Ai にログインし、「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)ページを開いてください。「General」(一般)のリストボックスにアドレスが表示されています(p.136 参照)。

IPv6 アドレスが何であるかを一度決定したら、ブラウザまたは Windows や Java クライアント AP からログインする際に IPv6 アドレスが使用できるようになります。

入力例:

ブラウザからログインする場合、URL バーに下記を入力します。

`http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]`

AP からログインする場合、サーバーパネルの IP 欄に下記を入力します(p.78 「Windows クライアント AP ログイン」参照)。

`fe80::2001:74ff:fe6e:59%5`

-
- 注意:**
1. リンクローカル IPv6 アドレスでログインするには、クライアントコンピューターが KL1508Ai/KL1516Ai と同じローカルネットワークセグメントになければなりません。
 2. %5 はクライアントコンピューターによって使用されている%インターフェースです。ご使用のクライアントコンピューターの IPv6 アドレスを確認するには、コマンドラインに「ipconfig/all」というコマンドを入力してください。%値がIPv6アドレスの最後に表示されます。
-

IPv6 ステートレスアドレス自動設定

KL1508Ai/KL1516Ai のネットワーク環境に IPv6 ステートレスアドレス自動設定機能に対応したデバイスが含まれている場合、KL1508Ai/KL1516Ai は IPv6 アドレスを作成するためにデバイスからプレフィックス情報を取得することができます。例: 2001::74ff:fe6e:59

上記のようにアドレスは「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)ページの「General」(一般)リストボックスに表示されます (p.136 参照)。

IPv6 アドレスが何であるかを一度決定したら、ブラウザまたは Windows や Java クライアント AP からログインする際に IPv6 アドレスが使用できるようになります。

入力例:

ブラウザからログインする場合、URL バーに下記を入力します。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

AP からログインする場合、サーバーパネルの IP 欄に下記を入力します (p.78 「Windows クライアント AP ログイン」参照)。

`2001::74ff:fe6e:59`

信頼された証明書

概要

WebブラウザからKL1508Ai/KL1516Aiにログインしようすると、デバイスの証明書は信頼できるものではないと知らせるセキュリティの警告メッセージが表示され、このまま続けるかどうかが問われます。



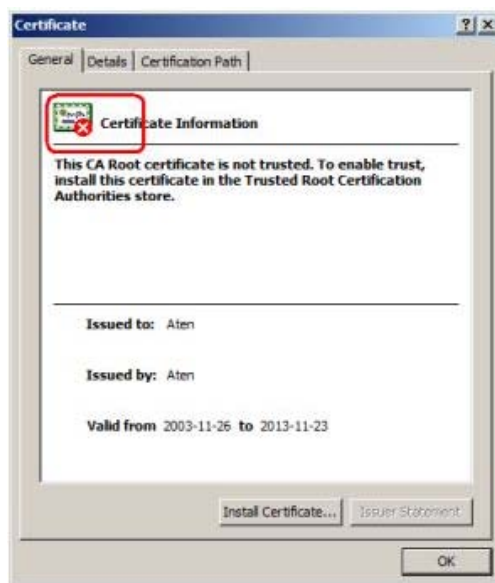
証明書は信頼できるものですが、証明書の名前がマイクロソフト社の信頼できる機関のリストから見つけられないために警告が発せられています。以下 2 通りのオプションがあります。1) 警告を無視し、「Yes」をクリックして続ける。2) 信頼できると認められた証明書をインストールする。

- ◆ 別の場所でコンピューターの作業をしている場合は「Yes」をクリックしてこのセッション用の証明書として受け入れてください。
- ◆ 自分のコンピューターで作業している場合はそのコンピューターに証明書をインストールしてください(詳細は下記を参照してください)。証明書がインストールされたら、信頼できるものとして認識されます。

証明書のインストール

証明書をインストールするには下記の手順に従ってください。

1. セキュリティの警告のダイアログボックスにある「証明書の表示」ボタンをクリックしてください。証明書の情報ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤枠で囲まれている「×」の印はこの証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックしてください。
3. インストールウィザードの指示に従ってインストールを完了してください。特に不都合がない場合はデフォルト値でインストールしてください。下図のような警告ダイアログが表示されます。



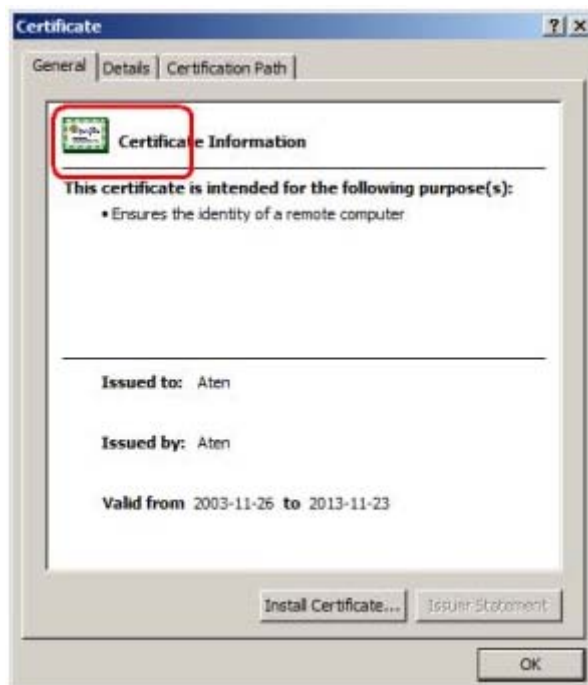
4. 「はい」ボタンをクリックしてください。
5. 次に「完了」ボタンをクリックしてインストール作業を完了してください。
6. 「OK」ボタンをクリックするとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業で証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックするとインストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



自己署名証明書

自分自身で署名した暗号キーと証明書を作成したい場合は、「openssl.exe」というフリーのユーティリティが「www.openssl.org」というウェブサイトからダウンロードできます。自分のプライベートキーと証明書を作成するには下記の手順に従ってください。

1. ダウンロードしたディレクトリを開き、「openssl.exe」ファイルを解凍してください。
2. 下記のパラメーターを使用して「openssl.exe」を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. コマンドは全て 1 行で入力してください(すなわち、パラメーター全ての入力が終わるまで[Enter]キーは押さないでください)。
2. 入力にスペースがある場合はクォーテーションマークでエントリーを囲んでください(例: “ATEN International”)。

キーの作成時に情報を入力しなくてもよいように、下記の追加パラメーターが使用できます。
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.

パラメーターの例

```
openssl req -new -newly rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com
```

```
openssl req -new -newly rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O=”ATEN International”/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

ファイルのインポート

「openssl.exe」プログラムが完了したらCA.キー(プライベートキー)とCA.cer(自己署名されたSSL証明書)という 2 つのファイルがプログラムを実行したディレクトリに作成されます。これらは「Security」(セキュリティ)ページの「Private Certificate」(プライベート証明書)パネルにアップロードしたファイルです(p.152 参照)。

トラブルシューティング

ネットワーク管理

問題	解決方法
ファームウェアのアップグレード後、KL1508Ai/KL1516Ai は古いバージョンのファームウェアを使用していると表示する。	ご使用のインターネットブラウザが Web ページのキャッシュを表示していて、新しいものを表示していません。ブラウザのキャッシュを消去してください。インターネットの一時ファイルとクッキーを削除してインターネットブラウザを閉じてください。それからブラウザを新規で立ちあげてください。
KL1508Ai/KL1516Ai のデフォルトネットワーク設定は DHCP だが、ネットワークは固定 IP アドレスを使用し、DHCP サーバーがない。	ローカルコンソール OSD の「F4」機能を使用して KL1508Ai/KL1516Ai に固定 IP アドレスを割り当ててください。詳細は p.137 を参照してください。

操作一般

問題	解決方法
エラー操作。	リセットスイッチ (p.25 参照) を 3 秒間以上押したままにしてください。
マウスと(または)キーボードのリセットが不適切だったためマウスと(または)キーボードが反応しなくなった。	コンソールポートからケーブルを抜いた後、再び接続し直してください。
KL1508Ai/KL1516Ai をローカルリセットしたためネットワーク接続が突然遮断された。	KL1508Ai/KL1516Ai の接続を閉じ、約 30 秒待ってから再びログインしてください。
マウスポインターが混乱している。	マウスポインターが 2 つ(ローカルとリモート)表示されていて混乱するまたは困る場合はマウス表示の切替機能を使用して、機能していないポインターを小さくすることができます。詳細は p.94 を参照してください。

(表は次ページへと続きます。)

問題	解決方法
入力した文字のいくつかがリモートシステムで表示されない。	これは通常、ローカル OS キーボード言語とリモート OS キーボード言語が異なるために起こります。両方のシステムのキーボード言語が同じであることを確認してください。
コンピューターの起動後、キーボードと(または)マウスが動作しない。	PS/2 コネクターを使用しているコンピューターで 2L-520xP ケーブルを使用している場合、コンピューターを起動する前に全てのコネクター(キーボード、ビデオ及びマウス)がコンピューターのそれぞれのポートに接続されていることを確認してください。コンピューターが起動してからケーブルを接続しても、この問題は解消されません。
Sun キーボードエミュレーションの使用時、OK モード([Stop][A])が開始しない。	OK モードを開始するには以下の手順でキーを入力してください。 1. [Ctrl]キーを押して指を離してください。 2. [T]キーを押したままにしてください。 3. [A]キーを押したままにしてください。 4. [T]キーと[A]キーから同時に指を離してください。
外付モニターの画像にゴーストが発生する。	外付モニターと KL1508Ai/KL1516Ai との距離が離れすぎている可能性があります。使用する VGA ケーブルの最大長を 20m(もしくはそれ以下)にする必要があります。短めの VGA ケーブルに交換してください。
KL1508Ai/KL1516Ai が保証するリモートコンピューターの最大解像度は 1600×1200 であるにもかかわらず、1280×1024 以上の解像度に設定することができない。	KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されている LCD モニターの最大解像度は 1280×1024 です。モニターの許容範囲を超えた解像度を設定し、モニターが破損するのを防ぐためにも、接続しているコンピューターの解像度を 1280×1024 またはそれ以下に設定してください。 接続しているコンピューターの解像度を 1280×1024 以上に設定する場合は、p.213 「1280×1024 以上の解像度でご利用になる場合」を参照してください。

(表は次ページに続きます。)

問題	解決方法
接続されたコンピューターに切り替えると LCD モニターの画面が黒くなつて何も表示されなくなった。	KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されている LCD モニターの最大解像度は 1280×1024 です。問題のコンピューターの解像度が KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されている LCD モニターの最大解像度よりも高く設定されている可能性があります。 この問題を解決するには、セカンドコンソール(モニターは問題のコンピューターの解像度に対応できるもの)を KL1508Ai/KL1516Ai のセカンドコンソールポートに接続してください。このセカンドコンソールから問題のコンピューターにアクセスして、解像度を 1280×1024 まで下げてください。 注意:KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されている LCD モニターの最大解像度は 1280×1024 ですが、本製品自体は最大解像度 1600×1200@60Hz まで対応しています。接続しているコンピューターの解像度を 1280×1024 以上に設定する場合は、p.213 「1280×1024 以上の解像度でご利用になる場合」を参照してください。

Windows クライアント

問題	解決方法
KL1508Ai/KL1516Ai に接続できない。	コンピューターに DirectX 8.0 以上がインストールされていなければなりません。
リモートマウスポインターが同期しない。	「AutoSync」機能を使用してローカルとリモートモニターを同期してください(p.102 「ビデオ設定」参照)。 - それでも問題が解決しない場合は「Adjust Mouse」機能を使用して同期するようにしてください(p.113 参照)。 - 上記 2 つの方法でも問題が解決しない場合は「Toggle Mouse Display」機能を使用してください(p.94 参照)。

(表は次ページに続きます。)

問題	解決方法
リモートウィンドウの一部が私のモニターでは表示されない。	「AutoSync」機能を使用してローカルとリモートモニターを同期させてください(p.102 「ビデオ設定」参照)。
ブラウザから KL1508Ai/KL1516Ai にアクセスし Windows クライアントビューアーを開くとアンチウイルスプログラムがトロイの木馬ウイルスに感染していると報告する。	Windows クライアントビューアーは ActiveX プラグイン (windows.ocx) を使用しており、アンチウイルスプログラムの中にはそれをウイルスまたはトロイの木馬と間違えて認識することがあります。弊社は弊社のファームウェアを広範囲にわたって検査し、ウイルスやトロイの木馬に感染していないことがわかっています。プラグインをご使用のアンチウイルスプログラムの安全リストに追加してビューアーを安全に使用してください。しかしそれでも Windows クライアントビューアーを使用するのをためらってしまう場合は、代わりに Java クライアントビューアーをご使用ください。

Java クライアント

接続や操作に関するトラブルは下表を参照してください。

問題	解決方法
Java クライアントが KL1508Ai/KL1516Ai に接続できない。	1. ご使用のコンピューターに JRE 6 update 3 以上がインストールされていなければなりません。 2. KL1508Ai/KL1516Ai の IP アドレスを入力した際にウェブページの正しい名前が含まれているか確認してください。 3. Java クライアントを閉じてからまた開いて、接続を再度行ってください。
Windows メニューキーを押しても反応しない。	Java は Windows メニューキーに対応していません。
Java クライアントの動作が悪化する。	プログラムを中止し、もう一度開始してください。
日本語等の文字が表示されない。	日本語等英語以外の文字を入力する時、ローカルキーボードが非英語の言語レイアウトに設定されている場合は、リモートコンピューターのキーボードレイアウトを英語に設定しなければなりません。

ログサーバー

問題	解決方法
ログサーバープログラムが動作しない。	ログサーバーにはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。 このドライバーは Windows ME、2000、XP には自動的にインストールされています。 Windows 98 及び NT ではマイクロソフトのダウンロードサイトにアクセスしてドライバーファイルを入手してください。 サイト: http://www.microsoft.com/data/download.htm ドライバー: MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0) このドライバーは Windows Office パッケージソフトで使用されているので、もう一つの方法としては Windows Office パッケージソフトをインストールして入手するというのがあります。ドライバーファイルまたはパッケージソフトがインストールされると、ログサーバーは動作するようになります。

パネルアレイモード

問題	解決方法
パネルアレイモードの解像度が低い。	表示されるパネルの数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時にログインした時に画面の一部しか受け取れないユーザーがいる。	パネルアレイモードを最初に起動したユーザーが最小の 4 枚パネル表示に設定してください。

Sun システム

問題	解決方法
D-sub15 ピンインターフェースを使用するとビデオ表示に問題が出る。 (例:Sun Blade 1000 Server)	ビデオ解像度を 1024×768 に設定してください。 テキストモードでは、 1. 「OK mode」を起動して下記コマンドを入力してください。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow では、 1. コンソールを開き、下記コマンドを入力してください。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトしてください。 3. ログインしてください。
13W3 インターフェースシステムを使用するとビデオ表示に問題が出る。 (例:Sun Ultra Server)*	ビデオ解像度を 1024×768 に設定してください。 テキストモードでは、 1. 「OK mode」を起動して下記のコマンドを入力してください。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow では、 1. コンソールを開いて下記のコマンドを入力してください。 <pre>ffbconfig -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトしてください。 3. ログインしてください。

* これら解決方法はほとんどの一般的な Sun VGA カードに当てはまります。この方法でも問題が解決しない場合は、Sun VGA カードのマニュアルをご確認ください。

1280×1024 以上の解像度でご利用になる場合

KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されている LCD モニターの最大解像度は 1280×1024 です。モニターの解像度を超えたことにより、モニターが破損してしまうことを防ぐためにも、接続されたコンピューターの解像度は 1280×1024 以下に設定してください。

1280×1024 よりも高い解像度を希望される場合、下記の手順に従ってコンピューターの解像度を変更することができ、また KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されている LCD モニターが破損するのを防ぐことができます。

注意: 作業を始める前に KL1508Ai/KL1516Ai の LCD コンソールを閉じることを推奨します (p.42 「コンソールを閉じる」を参照)。この LCD モニターを使用して、その最大解像度を超えた解像度でコンピューターをモニタリングすると、このモニターが破損したり、製品寿命が短くなったりします。

KL1508Ai/KL1516Ai に搭載されたコンソールを閉じたままコンピューターにアクセスするには、最大解像度 1600×1200@60Hz に対応するモニターを含めたセカンドコンソールを KL1508Ai/KL1516Ai のセカンドコンソールポートに接続してください。

1. リモートコンピューターから KL1508Ai/KL1516Ai にログインし、解像度を変更したいコンピューターにアクセスしてください。
2. コンピューターの「コントロールパネル」を開き、「**ディスプレイ**」をダブルクリックしてください。「ディスプレイのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「**設定**」タブをクリックしてから「**詳細**」をクリックしてください。
4. ダイアログボックスが表示されるので、「**モニター**」タブをクリックしてください。
5. 「モニターの設定」の「このモニターでは表示できないモードを隠す」のチェックボックスを外してください。
6. 「**適用**」をクリックしてください。
7. 「**アダプター**」タブをクリックしてから「**モードの一覧**」をクリックしてください。「全てのモード一覧」ダイアログボックスが表示されます。
8. 有効なモードの一覧の中からご使用のコンピューターに設定したいディスプレイモードを選択してください。

注意: KL1508Ai/KL1516Ai 本体が対応するリモートコンピューターの最大解像度及びリフレッシュレートは 1600×1200@60Hz です。

9. 「**OK**」をクリックした後、「**適用**」をクリックしてください。ディスプレイモードが選択したものに変わります。
10. 「モニターの設定」ダイアログボックスが表示され、設定変更の確認が求められますので、「**はい**」をクリックします。

11. 「モニターの設定」ダイアログが終了したら「OK」ボタンをクリックします。
12. 「画面のプロパティ」ダイアログボックスで「OK」ボタンをクリックします。

以上で作業は完了です。解像度を変更したいコンピューター全てに上記作業を繰り返し行ってください。

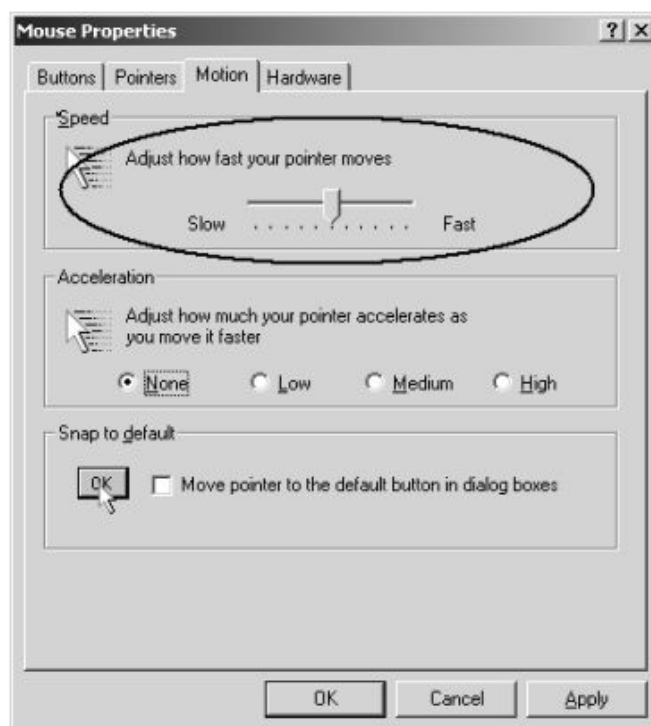
マウス同期の追加手順

本マニュアルで説明したマウスの同期手順を行っても、あるコンピューターでマウスポインターの問題が解決しない場合は、下記を試してください。

- 注意:**
1. この手順は KL1508Ai/KL1516Ai のポートに接続されたコンピューターに対して行うものであり、KL1508Ai/KL1516Ai にアクセスするのに使用しているコンピューターに対して行うものではありません。
 2. ローカルとリモートのマウスを同期化するために Windows OS で提供されている一般的なマウスドライバーを使用しなければなりません。例えばマウスメーカーから提供されているようなサードパーティーのドライバーをインストールしている場合はそれをアンインストールしてください。

Windows

1. Windows 2000
 - a) マウスのプロパティダイアログボックスを開いてください。 (「コントロールパネル」→「マウス」→「マウスのプロパティ」)。
 - b) 「動作」タブをクリックしてください。
 - c) マウスポインターの速度を中間にしてください (左から 6 目盛り)。
 - d) 加速は「無」に設定してください。



2. Windows XP / Windows Server 2003

- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを開いてください(「コントロールパネル」→「マウス」)。
- b) 「ポインターオプション」タブをクリックしてください。
- c) マウスポインターの速度を中間にしてください(左から6目盛り)。
- d) 「ポインターの精度を高める」のチェックを外してください。



3. Windows ME

マウスポインターの速度を中間にし、「マウスの加速」を無効にしてください(このダイアログボックスを開くには「**詳細**」をクリックしてください)。

4. Windows NT / Windows 98 / Windows 95

マウスポインターの速度を一番遅い位置に設定してください。

Sun / Linux

ターミナルセッションを開き、下記のコマンドを入力してください。

Sun: xset m 1

Linux: xset m 0

接続台数一覧表

下表は KL1508Ai/KL1516Ai の台数とそこから操作できるコンピューターの台数を表しています。

KL1508Ai

台数	コンピューター	台数	コンピューター
1	1～8	9	65～72
2	9～16	10	73～80
3	17～24	11	81～88
4	25～32	12	89～96
5	33～40	13	97～104
6	41～48	14	105～112
7	49～56	15	113～120
8	57～64	16	121～128

KL1516Ai

台数	コンピューター	台数	コンピューター
1	1～16	9	129～144
2	17～32	10	145～160
3	33～48	11	161～176
4	49～64	12	177～192
5	65～80	13	193～208
6	81～96	14	209～224
7	97～112	15	225～240
8	113～128	16	241～256

対応製品

下表は KL1508Ai/KL1516Ai との併用が可能な製品のリストです。

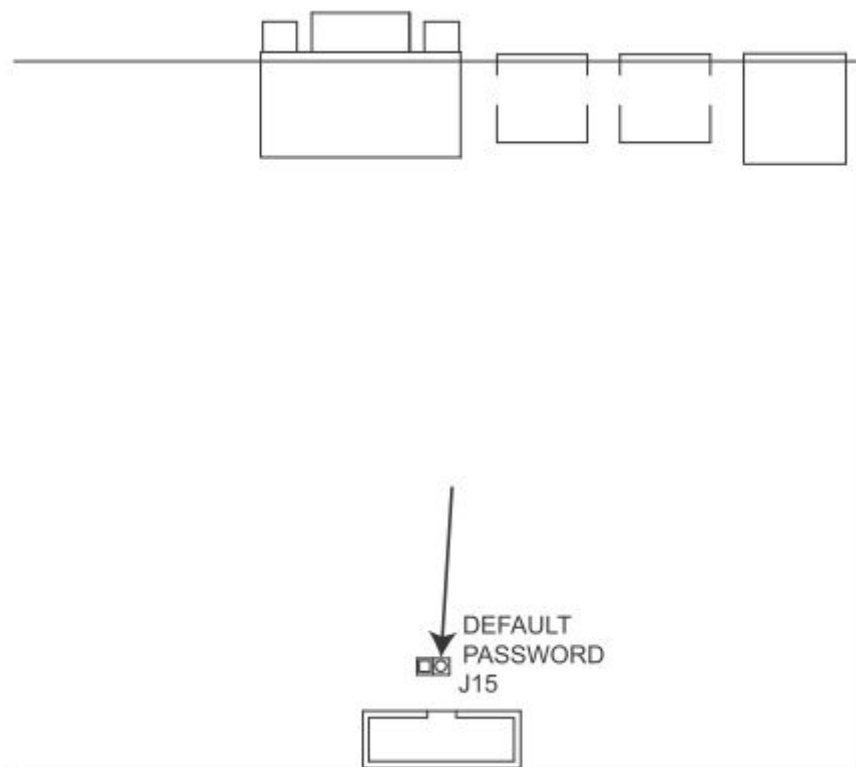
用途	対応製品型番
デイジーチェーン接続	KH1508A、KH1516A
リモート電源管理 (PON)	PN0108

注意： KL1508Ai/KL1516Ai を Power Over the NET™ 製品に接続する場合、まず、カテゴリ 5e ケーブルを使用して KL1508Ai/KL1516Ai の PON ポートを SN0142 アダプターに接続してから、このアダプターを Power Over the NET™ 製品の PON IN ポートに接続してください。

アドミニストレーターによるログイン失敗

アドミニストレーターがユーザー名やパスワードを間違えたり、または忘れてしまったりして、アドミニストレーターとしてログインが不可能な場合、下記の作業を行ってログイン情報を消去してください。

1. KL1508Ai/KL1516Ai の電源を切り、ケースを取り外してください。
2. ジャンパーキャップを使用して、「J15」と書かれた所をショートさせてください。



3. 本製品の電源を入れてください。
OSD にパスワード情報が消去されたことを知らせるメッセージが表示されます。
4. 本製品の電源を切ってください。
5. 「J15」からジャンパーキャップを外してください。
6. ケースを元に戻し、KL1508Ai/KL1516Ai に電源を入れてください。

電源を入れると、デフォルトのユーザー名とパスワード(p.49「OSD の概要」参照)を使用してログインできます。

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

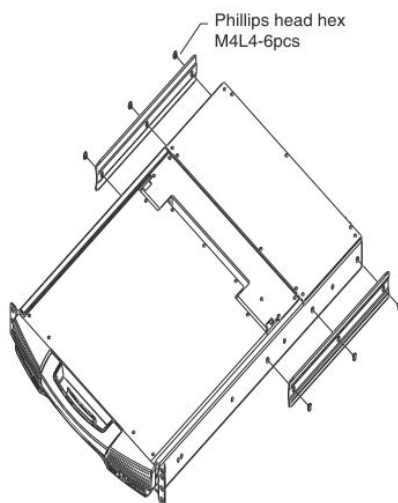
モデル		ポート数	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)	型番
17 インチ LCD モデル	KL1508AiM	8	ショート(42cm～70cm)	KL1508AiMJJS
			ロング(68cm～105cm)	KL1508AiMJJL
19 インチ LCD モデル	KL1508AiN		ショート(42cm～70cm)	KL1508AiNJJS
			ロング(68cm～105cm)	KL1508AiNJJL
17 インチ LCD モデル	KL1516AiM	16	ショート(42cm～70cm)	KL1516AiMJJS
			ロング(68cm～105cm)	KL1516AiMJJL
19 インチ LCD モデル	KL1516AiN		ショート(42cm～70cm)	KL1516AiNJJS
			ロング(68cm～105cm)	KL1516AiNJJL

注意: ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

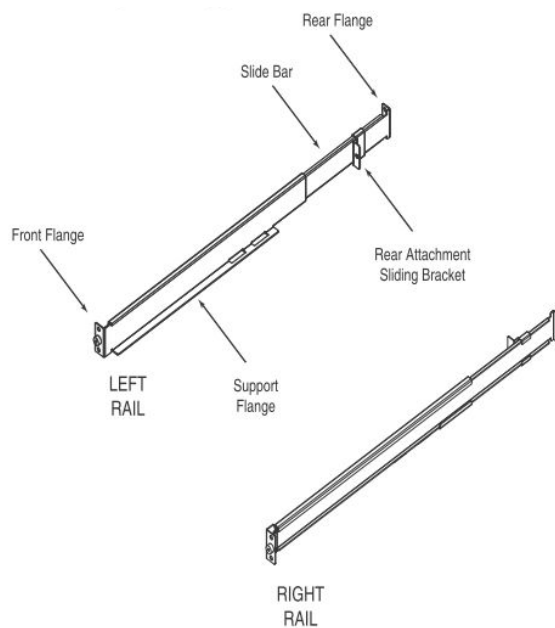
ロングレールキットの標準ラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、マニュアルの内容に沿って KL1508Ai/KL1516Ai を取り付けるだけです。詳細については、p.31「標準ラックマウント」を参照してください。

イージーセットアップラックマウントキットを使用してのマウント作業は下記の手順に従ってください(ショート/ロング共通)。

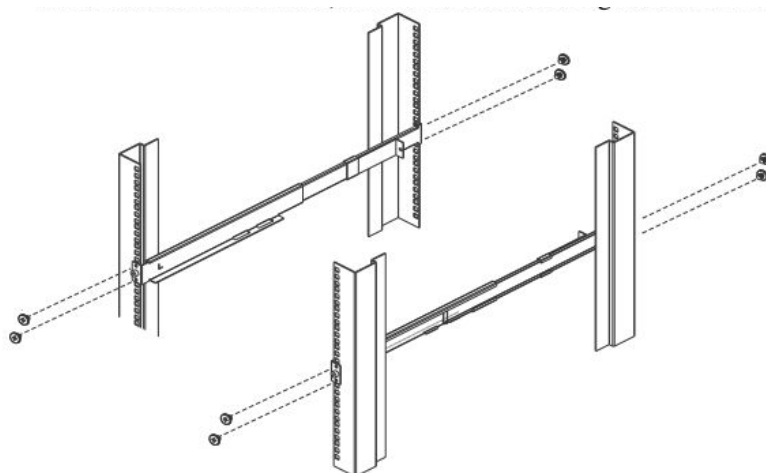
1. 本製品の両側から標準 L 型レールとサイドマウントレールを外してください。



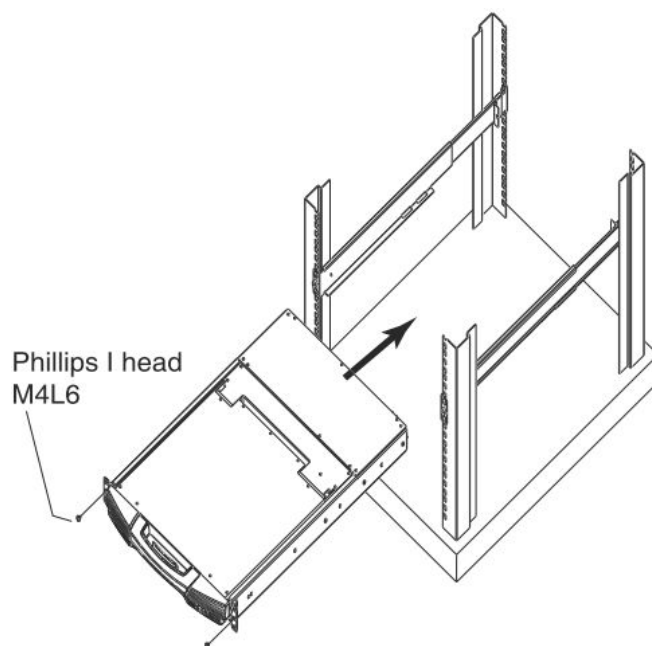
2. ラックの内側に左右の簡単ラックマウントキットのレールを取り付けてください。製品本体を支えるフランジが中に入っています。



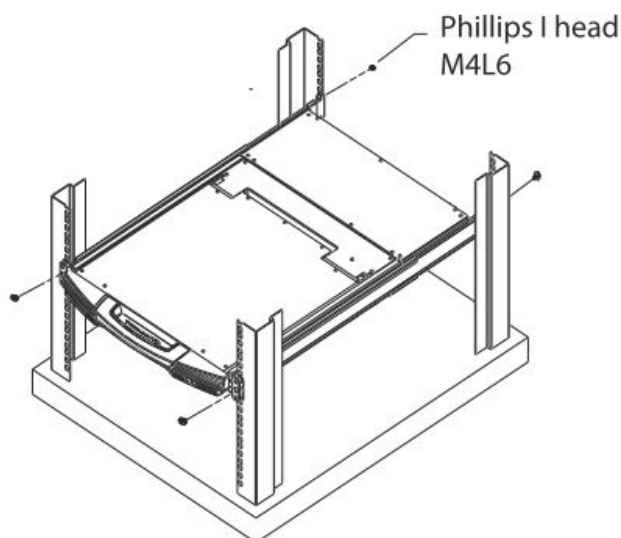
- a) まず、フロントフランジをラックにネジ止めしてください。
- b) レールのスライドバーをリアフランジがラックに接触するまでスライドさせた後、リアフランジをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフランジの上に本製品をスライドさせてください。本製品に同梱されているネジを使用して本製品のフロントパネルとラックのフロント部分を軽くネジ止めしてください(ネジ止めは途中まで)。



4. リアアタッチメントスライディングブラケットをスライドバーが本製品のリア部分に接触するまでスライドさせた後、本製品に同梱されているネジを使用してスライドバーを製品本体のリア部分にしっかりとネジ止めしてください(ネジ止めは最後まで)。



5. 本製品を何回かスライドさせて出したり入れたりして、本製品が正しい位置に設置され、スムーズに出し入れできることを確認してください(出し入れ方法については、p.38「コンソールを開く」を参照)。
6. 本製品が正しい位置に設置され、操作も正しく行えることが確定したら、手順 3 で軽くネジ止めたフロント部分のネジを全てしっかりとネジ止めしてください。

専用起動キー

簡単にホットキーモードとOSDが起動できるように下図のような専用起動キーを2つキーボードモジュール側に設けてありますので、ご利用ください。



注意: これらの専用キーはトグルボタンですので、1回目に押すと各メニューを起動し、2回目に押すとその機能を終了します。

OSD 工場出荷時デフォルト設定

工場出荷時のデフォルト設定は下表の通りです。

設定	デフォルト値
OSD ホットキー	[Scroll Lock][Scroll Lock]
ポート ID 表示位置	左上角
ポート ID 表示時間	3 秒間
ポート ID 表示モード	ポート ID 番号 + ポート名
スキャン持続時間	5 秒間
スキャン/スキップモード	All (全て)
スクリーンブランカー機能	OFF (無効)
ホットキーコマンドモード	ON (有効)
ホットキー	[Num Lock] + [-]
ログアウトタイムアウト	OFF (無効)
ビープ音	ON (有効)
OSD 言語	英語